



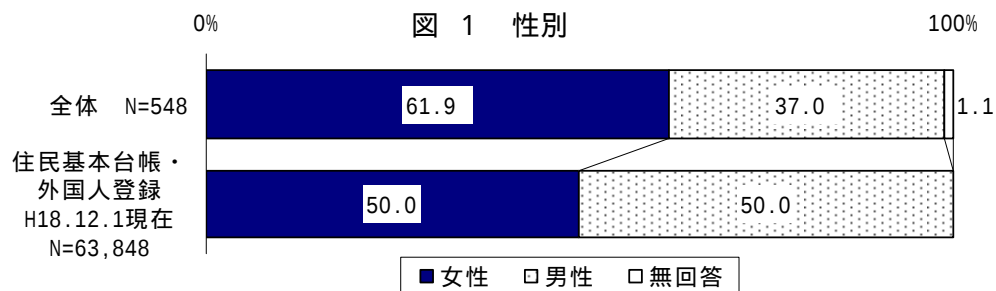
調査結果の分析



1 回答者の属性

(1) 性別（問A）

回答者の性別は、「女性」61.9%、「男性」37.0%と女性の割合が高い。調査時にもっとも近い平成18年12月1日現在の住民基本台帳・外国人登録人口の性別比（女性50.0%、男性50.0%）と比べると、「女性」は11.9ポイント高く、「男性」は13.0ポイント低いことから、単純集計では女性の意見が強く反映される傾向になる。

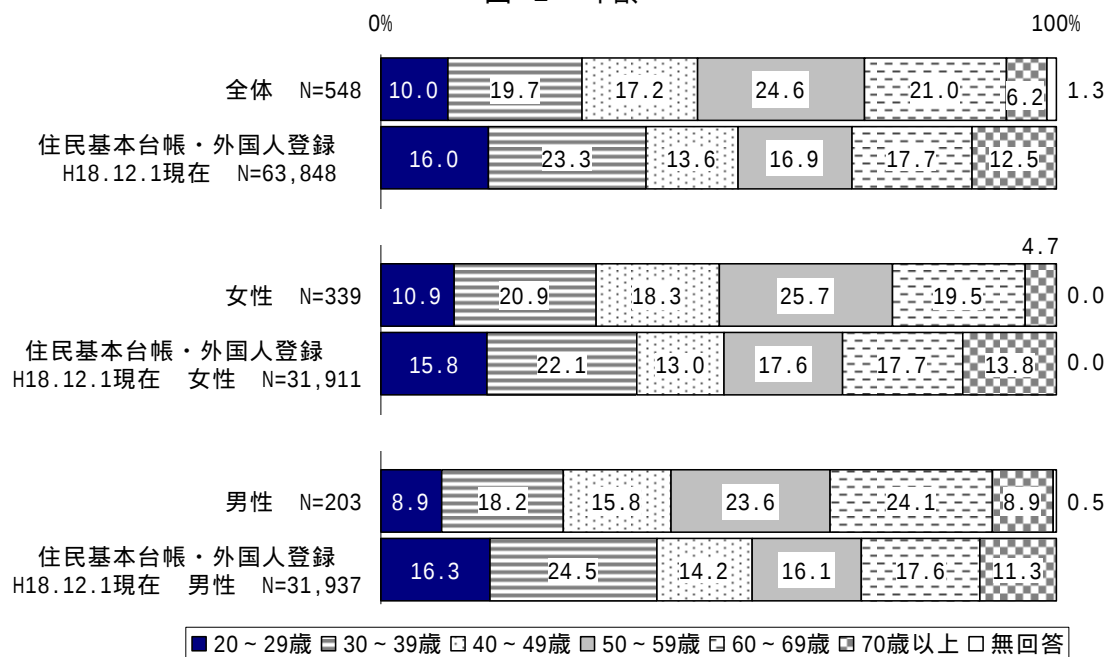


(2) 年齢（問B）

年齢については「50～59歳」24.6%、「60～69歳」21.0%、「30～39歳」19.7%、「40～49歳」17.2%、「20～29歳」10.0%、「70歳以上」6.2%となっている。調査時における本市の住民基本台帳・外国人登録人口（平成18年12月1日現在）の年齢比と比べると、「20～29歳」は6.0ポイント、「30～39歳」は3.6ポイント低く、逆に「50～59歳」は7.7ポイント、「40～49歳」は3.6ポイント、「60～69歳」は3.3ポイント高くなっている。本調査の全体集計では20歳代、30歳代の若い層の意見の反映が弱く、逆に、40～60歳代の中高年齢層の意見が強く反映される傾向になる。

性別にみると、女性は、「40～49歳」が5.3ポイント、「50～59歳」が8.1ポイント、「60～69歳」が1.8ポイント高く、逆に「20～29歳」が4.9ポイント、「30～39歳」が1.2ポイント低くなっている。男性は「40～49歳」が1.6ポイント、「50～59歳」が7.5ポイント、「60～69歳」が6.5ポイント高く、逆に、「30～39歳」が6.3ポイント、「20～29歳」が7.4ポイント低くなっている。

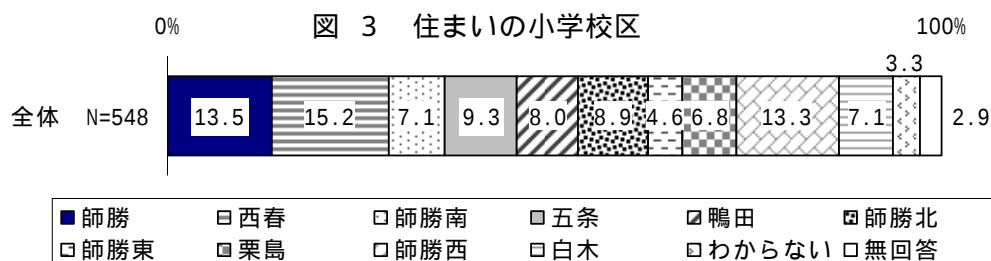
図 2 年齢



(3) 住まいの小学校区（問C）

住まいの小学校区は、「西春」が15.2%、「師勝」が13.5%、「師勝西」が13.3%、「五条」が9.3%、「師勝北」が8.9%、「鴨田」が8.0%、「師勝南」と「白木」がともに7.1%、「栗島」が6.8%、「師勝東」が4.6%である。

図 3 住まいの小学校区



(4) 配偶者の有無（問D）

配偶者の有無は、「いる」が79.9%、「未婚」が10.6%、「離別した」が3.6%、「死別した」が2.9%である。

図 4 配偶者の有無



(5) 配偶者の就業状況（問 E）

配偶者の就業状況は、「自営・自由業、正社員・正職員等」が44.4%、「家業手伝い・内職、パート・アルバイト等」が16.2%で、配偶者が就業している割合は60.6%である。「配偶者はいない」は13.7%、「収入を得る仕事についていない」は21.0%である。

配偶者と回答者の就業状況からみた共働き状況は、「非共働き」25.8%、「準共働き」（配偶者と回答者のどちらか、または両方が非常勤的な就業形態）23.4%、「共働き」（配偶者と回答者とも常勤的な就業形態）17.9%である。「配偶者なし」は13.0%である。

年齢別にみると、「準共働き」が「40～49歳」で37.3%（全体割合より+13.9ポイント）と最も高くなっている。「その他」は「70歳以上」で26.5%（同+20.5ポイント）と高い。「配偶者なし」は「20～29歳」で47.3%（同+34.3ポイント）と高い。

一番下の子どもの年齢別にみた共働き状況は、「準共働き」が「小学生」「中学生」でそれぞれ38.6%（同+15.2ポイント）、57.8%（同+34.4ポイント）と高く、「非共働き」は「乳幼児」で44.5%（同+18.7ポイント）と高い。

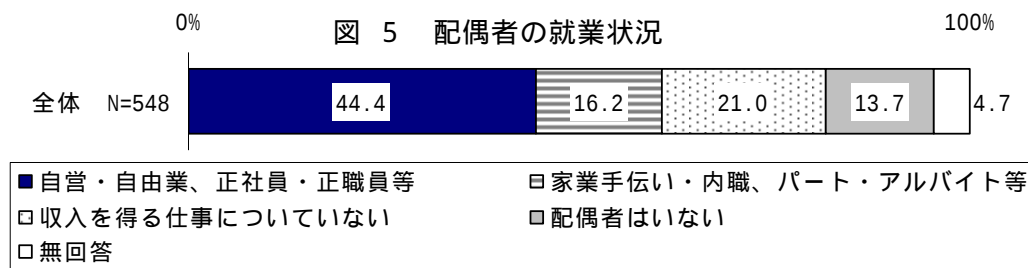


表 1 共働き状況の定義

回答者 (問 7)		1 養殖業、農業・水産	2 商業・工業・サービス業などの経営者	3 自由業（作家、芸術家、弁護士など）	4 上記1～3の家族従事者	5 その他	6 正社員・正職員	7 パートタイム	8 派遣・契約社員	9 アルバイト	10 内職・在宅就業	11 その他	12 専業主婦・専業主夫（収入を得る仕事をしていない方）	13 学生（専門学校生、大学生など）	14 その他の無職（年金生活者、失業中の方など）
配偶者 (問 E)															
1	仕事についている（自営・自由業、正社員・正職員またはそれに近い就業）	1 共働き (配偶者と回答者とも常勤的な就業形態)					4 その他								
2	仕事についている（家業手伝い・内職、パート・アルバイトまたはそれに近い就業）	2 準共働き (配偶者と回答者のどちらかまたは両方が非常勤的な就業形態)													
3	収入を得る仕事についていない	3 非共働き (配偶者と回答者のどちらかまたは両方が収入を得る仕事についていない)													
4	配偶者はいない	5 配偶者なし													

表 2 年齢別にみた共働き状況

	合計	共働き	準共働き	非共働き	その他	配偶者なし	無回答
全体	548	17.9	23.4	25.8	6.0	13.0	13.9
年齢							
20～29歳	55	12.7	10.9	18.2	0.0	47.3	10.9
30～39歳	108	17.6	24.1	34.2	0.0	13.0	11.1
40～49歳	94	23.4	37.3	20.2	0.0	7.4	11.7
50～59歳	135	25.2	29.6	23.7	4.4	10.4	6.7
60～69歳	115	9.6	16.5	32.1	15.7	5.2	20.9
70歳以上	34	14.7	2.9	17.6	26.5	8.8	29.5

表 3 一番下の子どもの年齢別にみた共働き状況

	合計	共働き	準共働き	非共働き	その他	配偶者なし	無回答
全体	548	17.9	23.4	25.8	6.0	13.0	13.9
一番下の子							
乳幼児	74	14.9	28.4	44.5	0.0	2.7	9.5
小学生	44	27.3	38.6	25.0	0.0	2.3	6.8
中学生	26	19.2	57.8	15.4	0.0	3.8	3.8
高校生以上（社会人含む）	260	19.6	23.5	25.8	9.6	6.9	14.6
子どもはいない	117	14.5	12.0	19.7	5.1	41.0	7.7

(6) 一番下の子どもの年齢（問F）

一番下の子どもの年齢は、「高校生以上（社会人含むなど）」が47.5%でもっとも高く、次いで「子どもはいない」21.4%、「乳幼児」13.5%、「小学生」8.0%、「中学生」4.7%である。

回答者の年齢別にみると、「乳幼児」は「30～39歳」で49.0%（全体割合より+35.5ポイント）と高く、「小学生」「中学生」はともに「40～49歳」で、それぞれ28.7%（同+20.7ポイント）、23.4%（18.7ポイント）と高くなっている。「高校生以上（社会人含むなど）」は50歳代以上で高く、「50～59歳」85.3%（同+37.8ポイント）、「60～69歳」82.6%（同+35.1ポイント）、「70歳以上」67.6%（同+20.1ポイント）である。「子どもはいない」は「20～29歳」と「30～39歳」で、それぞれ74.5%（同+53.1ポイント）、31.5%（同+10.1ポイント）と高くなっている。

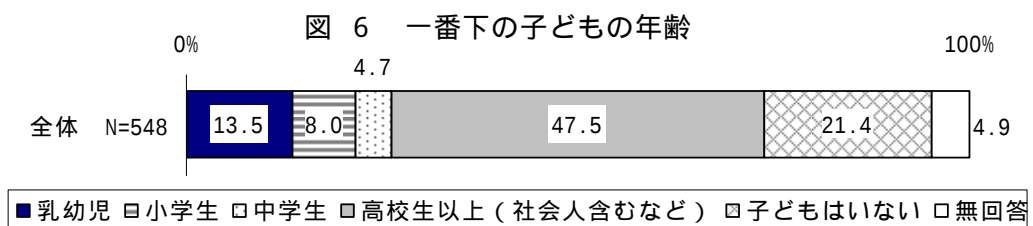


表 4 年齢別にみた一番下の子どもの年齢

		合計	乳 幼 児	小 学 生	中 学 生	高校生以上(社会人含む)	子どもはいない	無 回 答
全体		548	13.5	8.0	4.7	47.5	21.4	4.9
年 齢	20～29歳	55	20.0	0.0	0.0	0.0	74.5	5.5
	30～39歳	108	49.0	13.9	0.9	1.9	31.5	2.8
	40～49歳	94	9.6	28.7	23.4	23.4	10.6	4.3
	50～59歳	135	0.7	1.5	2.2	85.3	8.1	2.2
	60～69歳	115	0.0	0.0	0.0	82.6	11.3	6.1
	70歳以上	34	0.0	0.0	0.0	67.6	20.6	11.8

(7) 家庭の外での活動への参加（問G）

家庭の外での活動への参加は、「現在参加している」が 29.6%、「現在は中止している」が 25.4%、「参加したことはない」が 42.1%である。性別でみると、「現在参加している」(女性 32.4%、男性 24.6%)、「現在は中止している」(女性 28.3%、男性 20.7%)どちらも、女性が男性を 7.8 ポイント、7.6 ポイント上回っており、逆に「参加したことはない」は男性が 52.2%で女性の 36.6%を 15.6 ポイント上回っている。

性別・年齢別にみると、「参加したことはない」は「20～29歳女性」で 64.9%（全体割合より+22.8 ポイント）、「30～39歳男性」「50～59歳男性」でそれぞれ 67.6%（同+25.5 ポイント）、64.6%（同+22.5 ポイント）と高くなっている。「現在参加している」は「70歳以上女性」で 50%（同+20.4 ポイント）、「20～29歳男性」で 44.5%（同+14.9 ポイント）と高い。「現在は中止している」は「40～49歳女性」「50～59歳女性」で、それぞれ 38.7%（同+13.3 ポイント）、39.1%（+13.7 ポイント）と高くなっている。

共働き状況別にみると、「参加したことはない」は「非共働き」と「配偶者なし」で「共働き」「準共働き」より高くなっている。

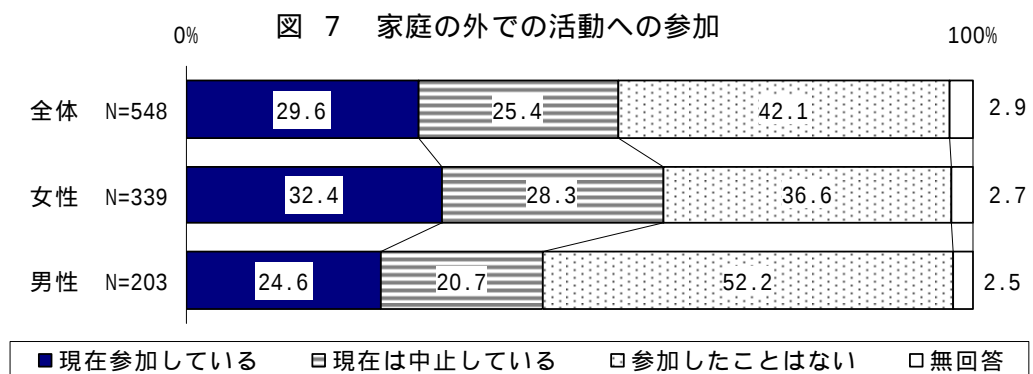


表 5 性別・年齢別にみた、家庭の外での活動への参加

	合計	現在参加している	現在中止している	参加したことはない	無回答
全体	548	29.6	25.4	42.1	2.9
女性	339	32.4	28.3	36.6	2.7
20～29歳	37	13.5	18.9	64.9	2.7
30～39歳	71	32.4	16.9	47.9	2.8
40～49歳	62	35.5	38.7	22.6	3.2
50～59歳	87	31.0	39.1	29.9	0.0
60～69歳	66	37.9	25.8	33.3	3.0
70歳以上	16	50.0	12.5	25.0	12.5
男性	203	24.6	20.7	52.2	2.5
20～29歳	18	44.5	22.2	33.3	0.0
30～39歳	37	18.9	10.8	67.6	2.7
40～49歳	32	31.3	21.9	43.7	3.1
50～59歳	48	12.5	22.9	64.6	0.0
60～69歳	49	24.5	26.5	47.0	2.0
70歳以上	18	38.8	16.7	38.9	5.6

表 6 共働き状況別にみた、家庭の外での活動への参加

	合計	現在参加している	現在中止している	参加したことはない	無回答
全体	548	29.6	25.4	42.1	2.9
共働き	98	34.7	27.6	37.7	0.0
準共働き	128	32.8	27.3	39.9	0.0
非共働き	142	28.9	21.8	47.9	1.4
その他	33	36.3	27.3	36.4	0.0
配偶者なし	71	21.1	35.2	43.7	0.0

2 家庭や地域での生活について

(1) 家事等の主な担当（問１）

「洗濯」「食事のしたく」「食料品や日用品の買物」「そうじ」を「自分が主にやっている」は、女性は7割を超え、男性は1割
結婚で女性は家事負担が増大、男性は大きく軽減
特に、「共働き」「準共働き」女性は“家事も仕事も”と負担が大きい

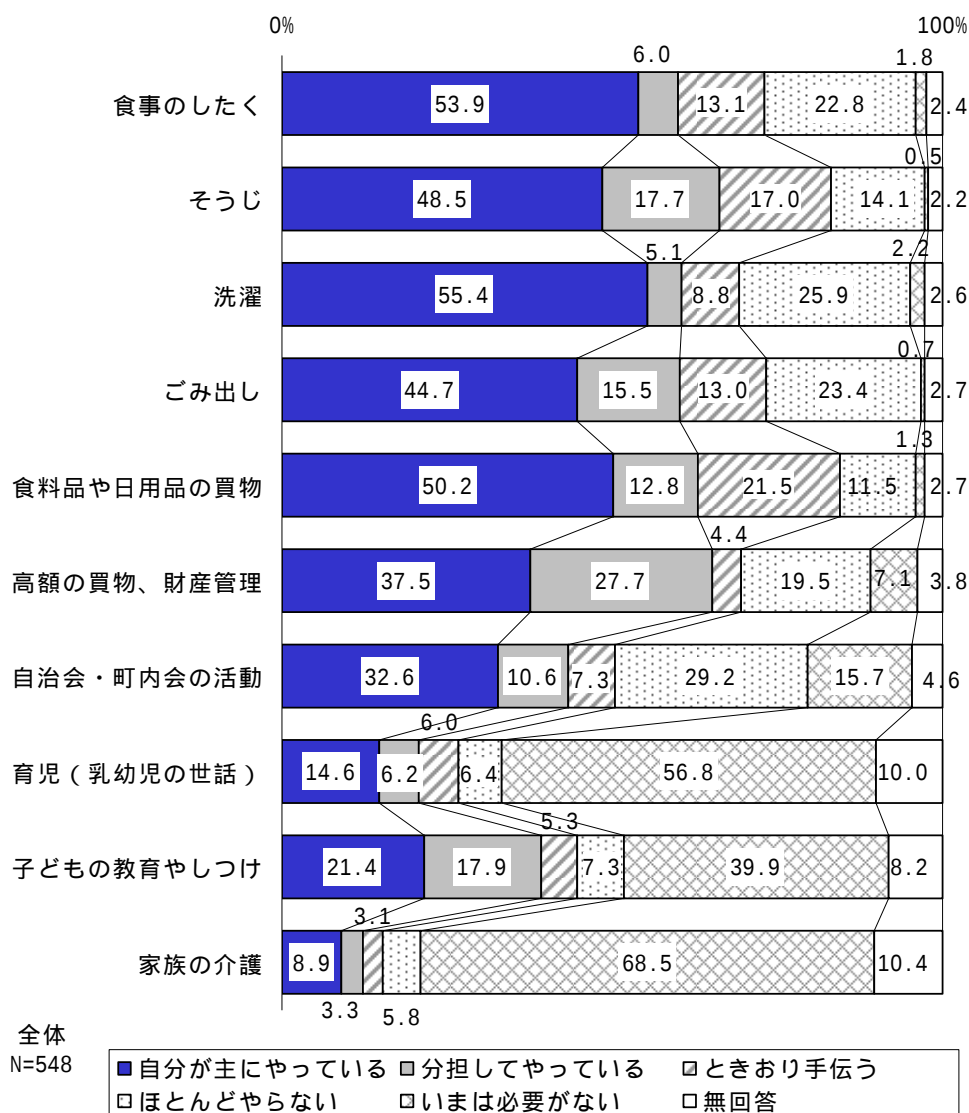
家事等の主な担当として、「分担してやっている」の割合が高いのは「高額の買物、財産管理」27.7%、「そうじ」17.7%、「ごみ出し」15.5%などである。「いまは必要がない」を除くと、「子どもの教育やしつけ」29.8%も高い。

性別にみると、「自分が主にやっている」はすべての項目で、女性の割合が高く、特に、「洗濯」（女性が82.6%）、「食事のしたく」（同79.9%）、「食料品や日用品の買物」（同74.3%）、「そうじ」（同70.5%）などで高くなっており、男性の割合は「高額の買物、財産管理」の30.0%、「ごみ出し」22.7%、「自治会・町内会の活動」15.8%以外は、いずれも1割前後で、性別による固定的な役割分担が依然として認められる。

性別・年齢別にみると、「食事のしたく」「そうじ」「洗濯」「食料品や日用品の買物」「ごみ出し」を女性が担っている割合は「30～39歳」から「70歳以上」までの幅広い年齢層で高い。男性が担っている割合は、30歳代以上ではすべて女性より低く、特に、「30～39歳」「40～49歳」「50～59歳」が低い傾向である。逆に、「20～29歳」は男女の格差が少ない。「高額の買物、財産管理」「家族の介護」を担っている割合は男女の開きが小さい。「町内会や自治会の活動」は30歳代以上は女性が担っているが、「60～69歳」は男性の参加が増えている。「育児（乳幼児の世話）」は「30～39歳」の女性、「子どもの教育やしつけ」は「40～49歳」の女性でそれぞれピークになっている。

共働き状況別にみると、「食事のしたく」「そうじ」「洗濯」「ごみ出し」「食料品や日用品の買物」を女性が担当する割合は「非共働き」でわずかに高い程度で、「共働き」「準共働き」と大きな差はない。上記の家事等の主な担当のうち、「配偶者なし」では家事を担う女性の割合は低く、男女の格差も少ないが、家庭を持つことで、男性は家事負担が大きく軽減し、女性は負担が増大する傾向である。特に、家庭を持ちながら仕事をする女性は“家事も仕事も”と負担が大きいことを示している。

図 8 家事等の主な担当（全体）



補足資料 「いまは必要がない」を除いた場合

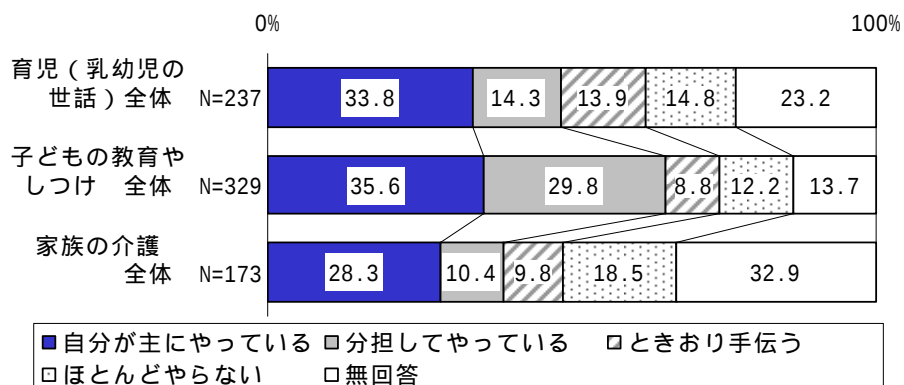


図 9 性別にみた家事等の主な担当

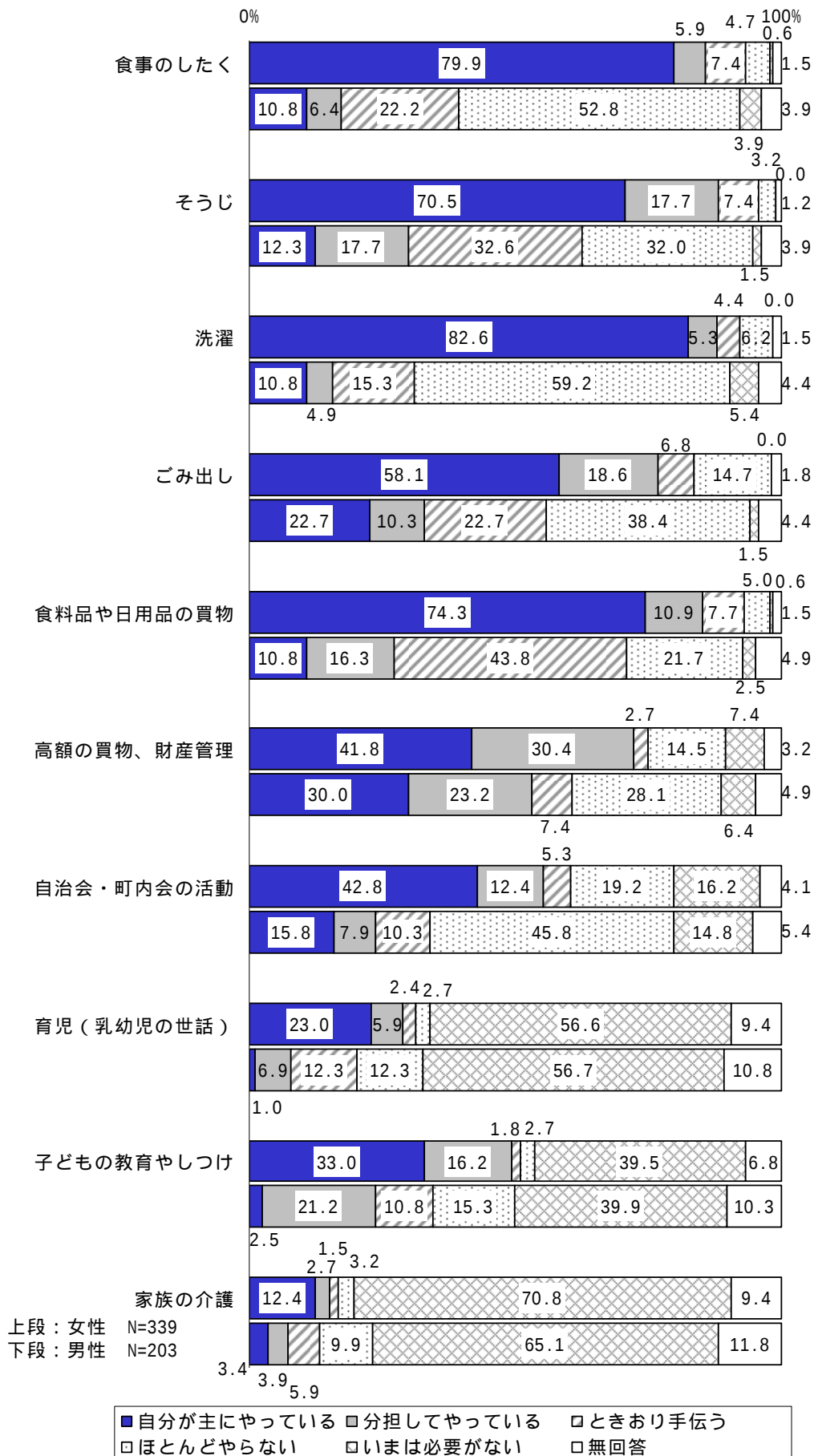
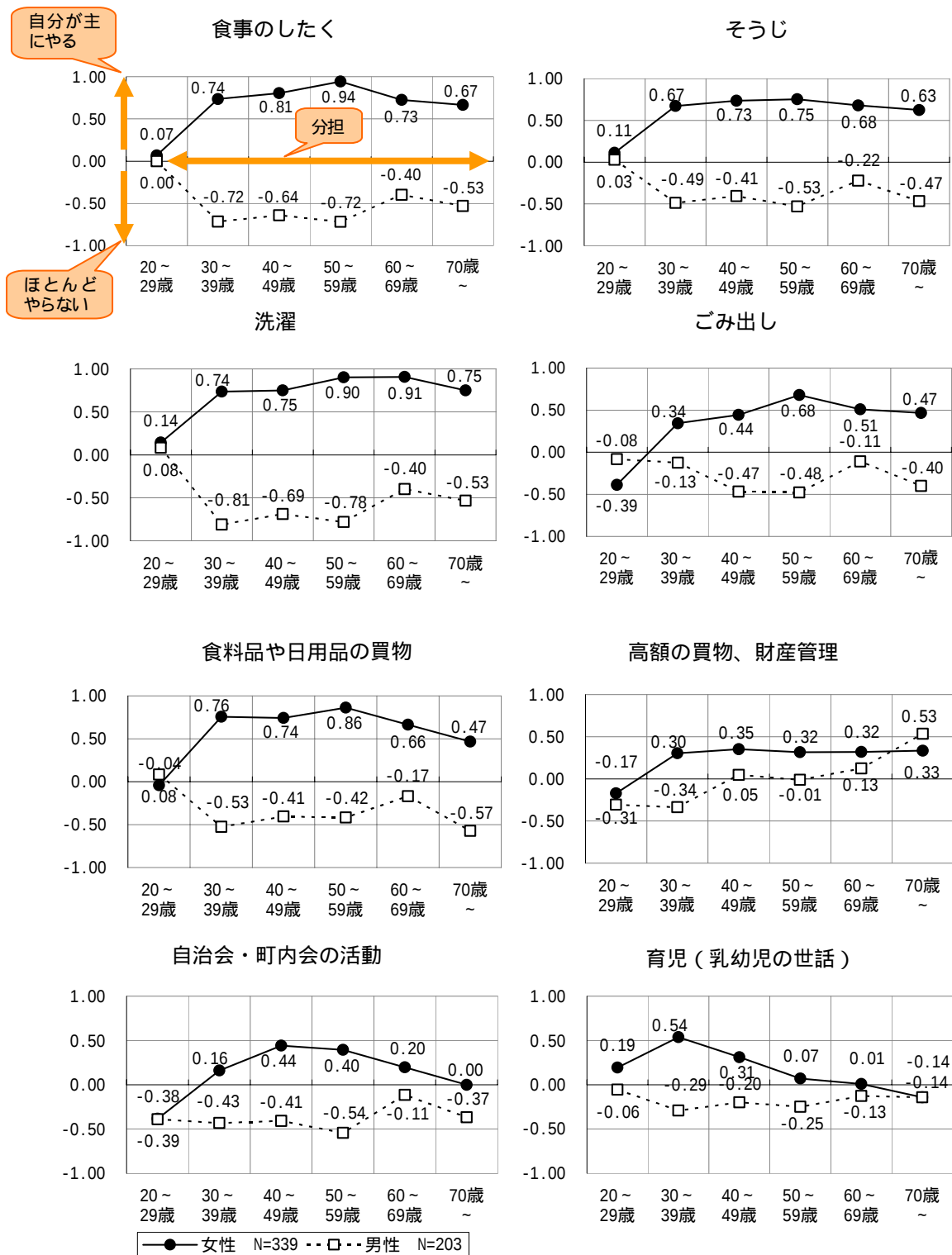
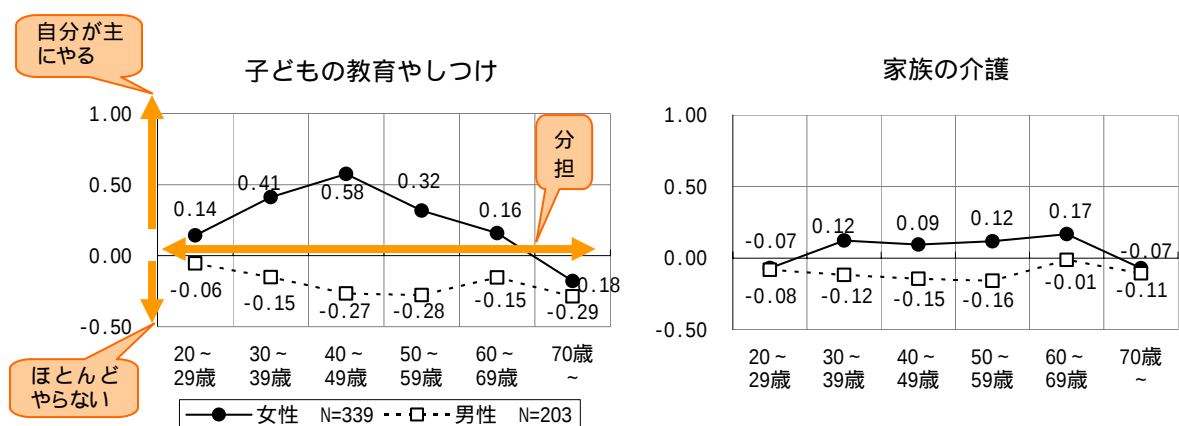


図 10 性別・年齢別にみた家事等の主な担当者（その1）



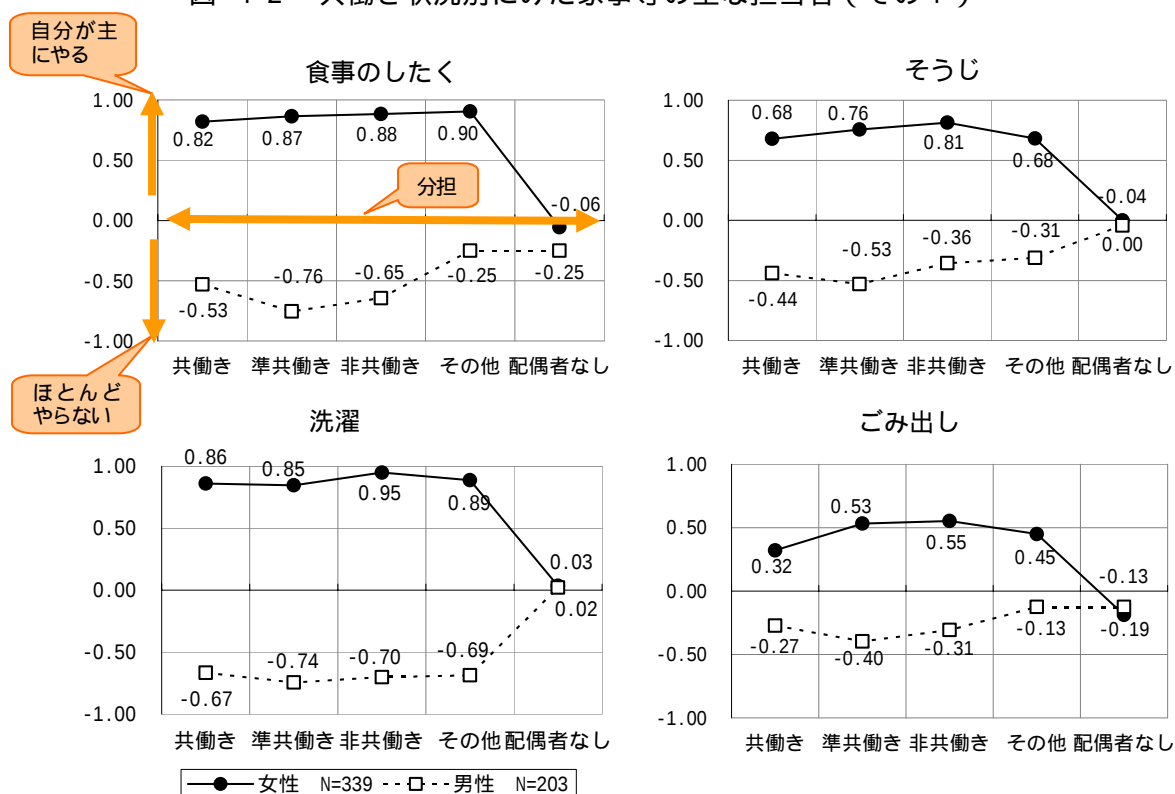
「自分が主にやっている」を(+1)、「分担してやっている」を(0)、「ときおり手伝う」を(-0.5)、「ほとんどやらない」を(-1)、「いまは必要がない」を(0)とし、平均値を算出した。

図 1 1 性別・年齢別にみた家事等の主な担当（その 2）



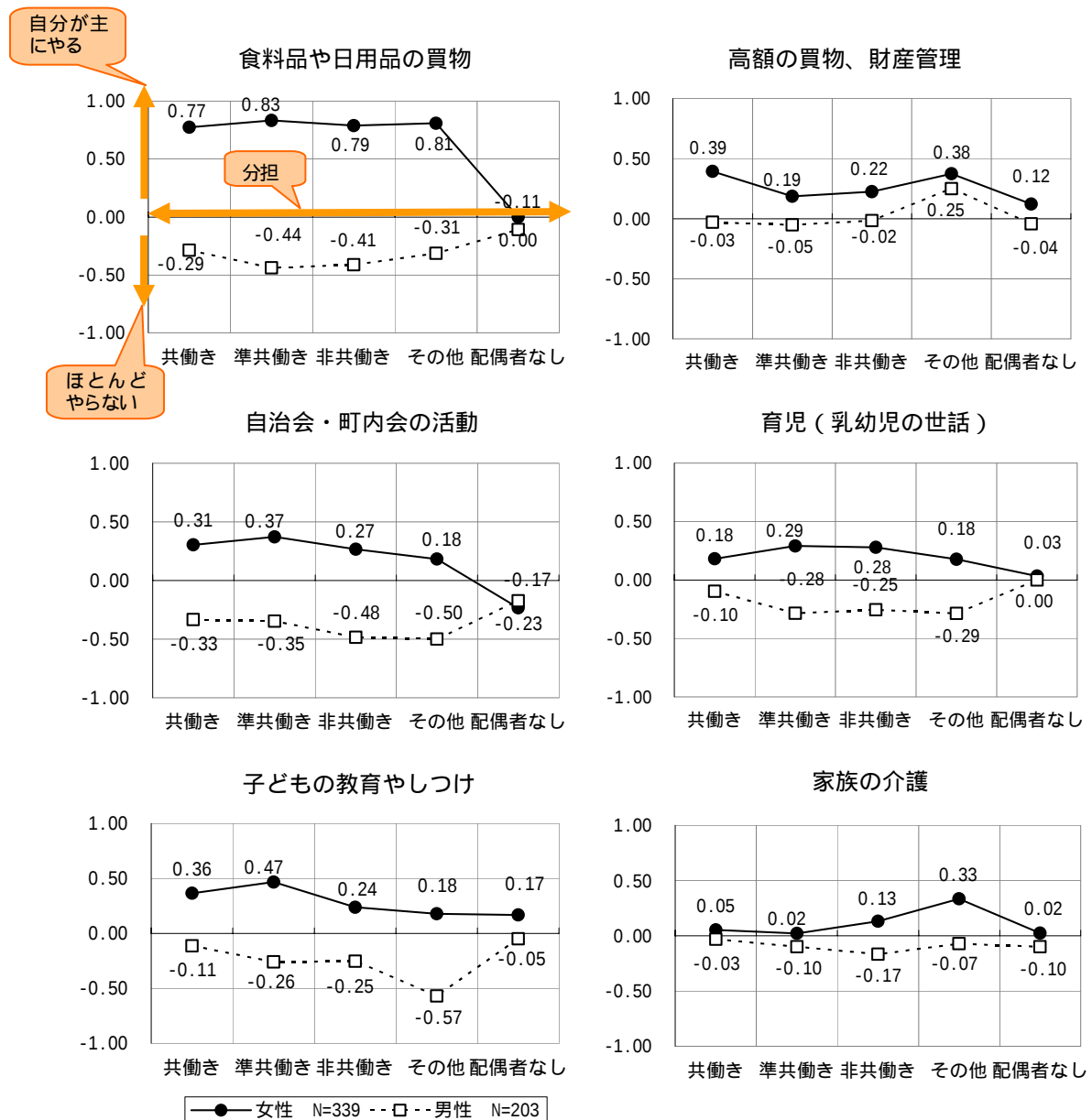
「自分が主にやっている」を（+1）、「分担してやっている」を（0）、「ときおり手伝う」を（-0.5）、「ほとんどやらない」を（-1）、「いまは必要がない」を（0）とし、平均値を算出した。

図 1 2 共働き状況別にみた家事等の主な担当者（その 1）



「自分が主にやっている」を（+1）、「分担してやっている」を（0）、「ときおり手伝う」を（-0.5）、「ほとんどやらない」を（-1）、「いまは必要がない」を（0）とし、平均値を算出した。

図 1 3 共働き状況別にみた家事等の主な担当者（その2）



「自分が主にやっている」を（+1）、「分担してやっている」を（0）、「ときおり手伝う」を（-0.5）、「ほとんどやらない」を（-1）、「いまは必要がない」を（0）とし、平均値を算出した。

(2) 男の子・女の子に望む人間像（問2）

“女の子に望む人間像”は「思いやりのある人」「家庭・家族を第一に考える人」「礼儀などマナーの良い人」

男の子に「経済力のある人」「仕事に生きがいを感じる人」を望む割合は女の子に対する割合より20ポイント前後高い

子どもの性別による人間像の固定化は高年齢層で高い

“女の子に望む人間像”は、「思いやりのある人」が73.2%ときわだって高く、あとは「家庭・家族を第一に考える人」が51.3%、「礼儀などマナーの良い人」が50.4%、「細かいことに配慮できる人」26.8%、「幅広い知識や教養豊かな人」21.5%などがあげられている。“男の子に望む人間像”は、「思いやりのある人」56.4%、「家庭・家族を第一に考える人」36.5%、「幅広い知識や教養豊かな人」30.5%、「礼儀などマナーの良い人」30.3%、「経済力のある人」25.9%、「仕事に生きがいを感じる人」19.5%など多様な像があがっており、女の子に対するような大きな偏りはみられない。子どもの性別で差が大きい項目のうち、女の子に対して高いのは、「細かいことに配慮できる人」「礼儀などマナーの良い人」「思いやりのある人」「家庭・家族を第一に考える人」で、男の子に望む割合をそれぞれ20.4ポイント、20.1ポイント、16.8ポイント、14.8ポイント上回っている。逆に、男の子に望む割合が高いのは、「経済力のある人」「仕事に生きがいを感じる人」「幅広い知識や教養豊かな人」で、22.6ポイント、17.1ポイント、9.0ポイントずつ女の子に望む割合を上回っている。

「北名古屋市男女の人権尊重・社会参画について中学生・大学生アンケート調査」（以下、中学生・大学生アンケートという。）との比較で、市民が“女の子に望む人間像”と“女子学生本人が望む人間像”の違いをみると、市民では女の子に「家庭・家族を第一に考える人」「思いやりのある人」などを望む割合が高いが、女子学生本人が望む人間像では30ポイント以上低く、逆に「仕事に生きがいを感じる人」「幅広い知識や教養豊かな人」「服装などのセンスの良い人」などは市民では低い、女子学生では20ポイント前後高くなっている。また、市民が“男の子に望む人間像”と“男子学生本人が望む人間像”を比較すると、「思いやりのある人」は市民では高いが、男子学生では20ポイント以上低く、逆に「細かいことに配慮できる人」は市民には低い、男子学生では40ポイント近く高くなっている。

回答者の性別では大きな意見の違いはみられない。しいてあげると、男性で女性より割合が高いのは、女の子に対する「家庭・家族を第一に考える人」（男性56.2%、女性48.4%）である。また、女性で男性より割合が高いのは、女の子に対する「礼儀などマナーの良い人」（女性53.4%、男性45.3%）、男の子に対する「仕事に生きが

「北名古屋市男女の人権尊重・社会参画について中学生・大学生アンケート調査」平成18年12月実施。中学生は、市内6校のうち3校の中学2年生に学校を通じて285票配布・回収（有効回答率100.0%）。大学生は、名古屋芸術大学の学生を対象に、大学を通して200票配布し、回収する。有効回答数129票（有効回答率64.5%）。「中学生・大学生アンケート調査結果の概要」（105頁～）参照。

いを感じる人」(女性22.1%、男性15.3%)、「経済力のある人」(女性28.6%、男性21.7%)である。

図 1 4 男の子・女の子に望む人間像(3つまで選択)

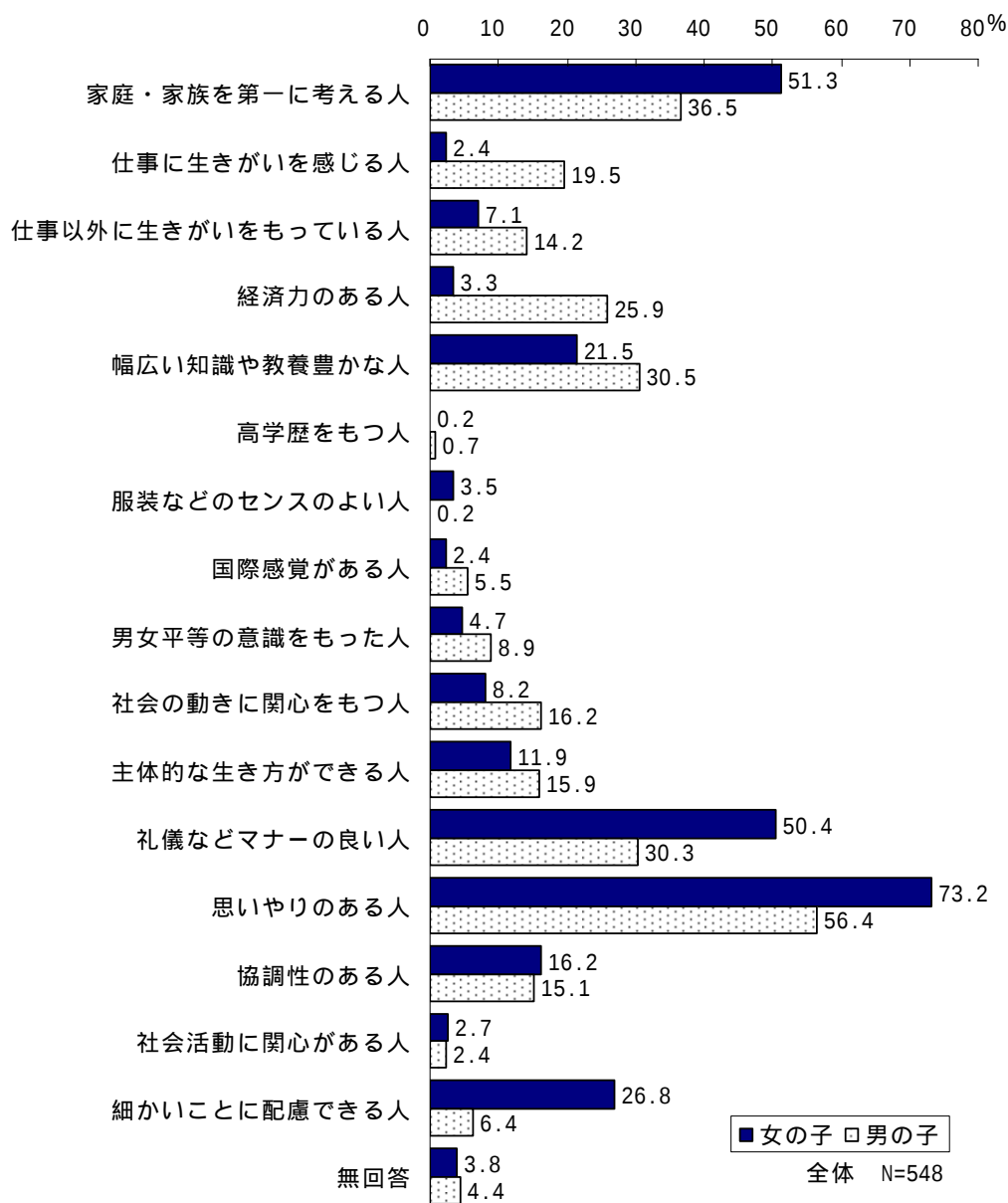


図 15 男の子・女の子に（本人が）望む人間像（大学生アンケートとの比較）

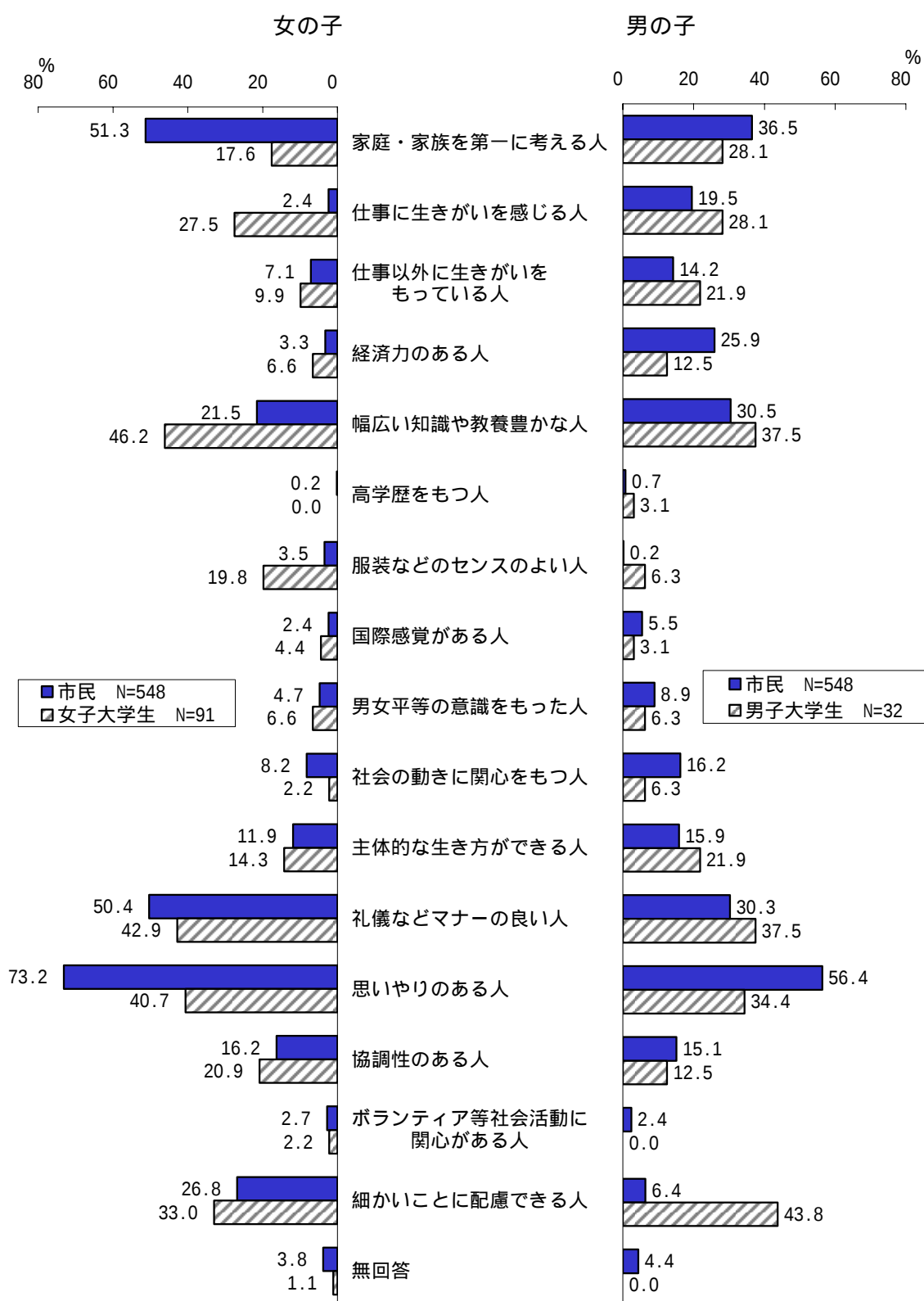
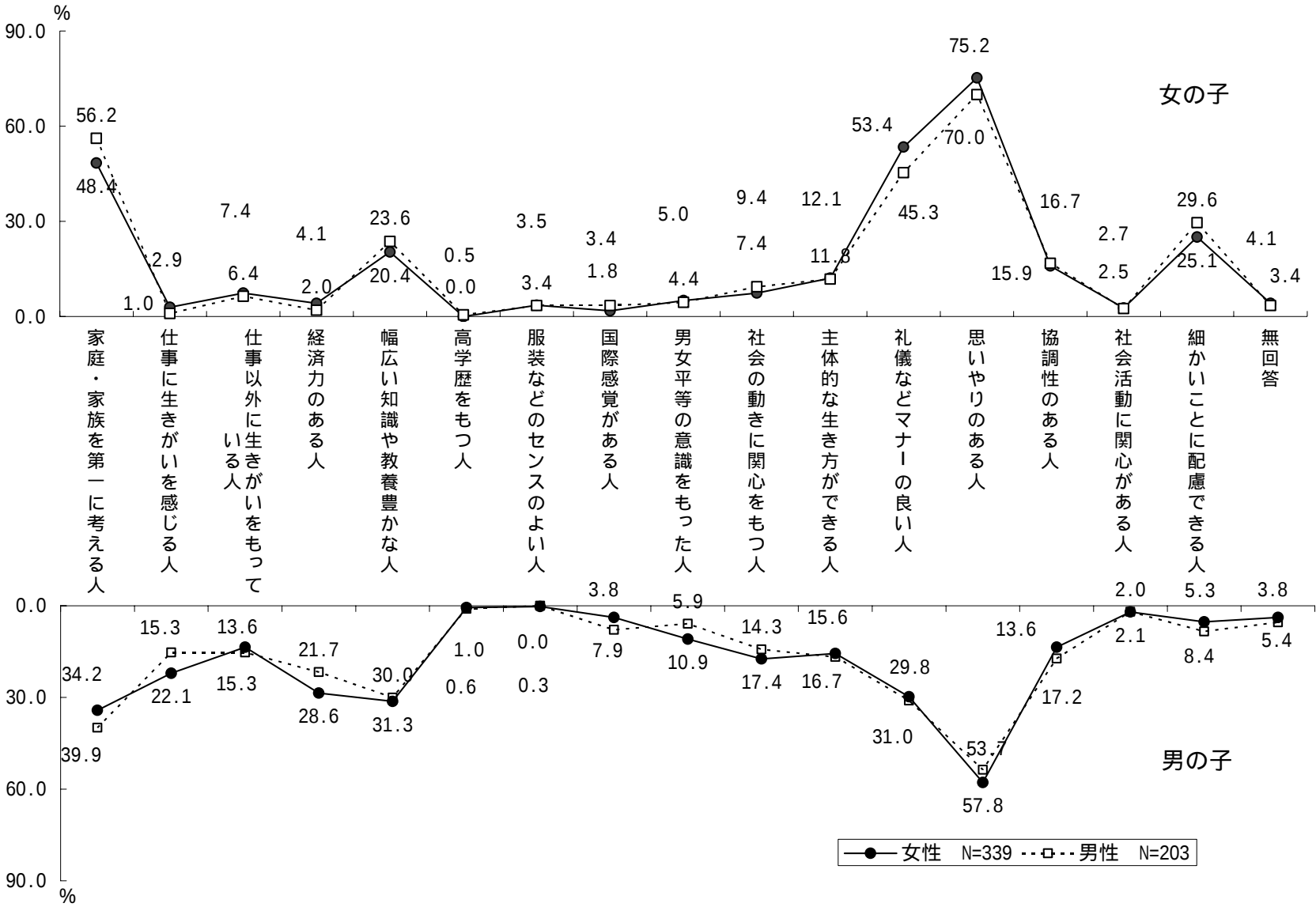


図 1 6 性別にみた男の子・女の子に望む人間像（3つまで選択）



3 家庭や地域活動のあり方について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について（問3）

「男は仕事、女は家庭」という考え方に“賛同派”は51.7%で、“反対派”の25.7%を大幅に上回っている
 賛同する割合は女性より男性で高い
 「同感しない」は「20～29歳女性」で高く、「同感する」は70歳以上男女で高い

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、“反対派”（「あまり同感しない」13.3%＋「同感しない」12.4%）は25.7%、“賛同派”（「同感する」8.0%＋「ある程度同感する」43.7%）は51.7%と、“賛同派”が26.0ポイント上回っている。

性別でみると、“反対派”は女性27.8%、男性22.7%と女性が5.1ポイント高く、逆に、“賛同派”は男性54.1%、女性50.1%で男性が女性を4.0ポイント上回っている。

中学生・大学生アンケートと比較すると、中学生では“賛同派”は44.6%（同13.3%＋同31.3%）、大学生では“賛同派”は24.0%（「同感する」2.3%＋「ある程度同感する」21.7%）で、市民51.7%を下回る。逆に“反対派”は、中学生27.3%（同16.8%＋同10.5%）、大学生52.7%（「あまり同感しない」24.8%＋「同感しない」27.9%）で、市民25.7%を上回っている。

性別・年齢別にみると、「同感しない」は「20～29歳女性」で29.7%（全体割合より＋17.3ポイント）と高い。逆に、「同感する」は「70歳以上女性」「70歳以上男性」で、それぞれ37.3%（同＋29.3ポイント）、22.2%（同＋14.2ポイント）と高く、「ある程度同感する」は「60～69歳男性」「70歳以上男性」でそれぞれ55.1%（同＋11.4ポイント）、61.0%（同＋17.3ポイント）と高くなっている。「どちらともいえない」は「40～49歳女性」で37.1%（同＋15.2ポイント）と高い。

図 17 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

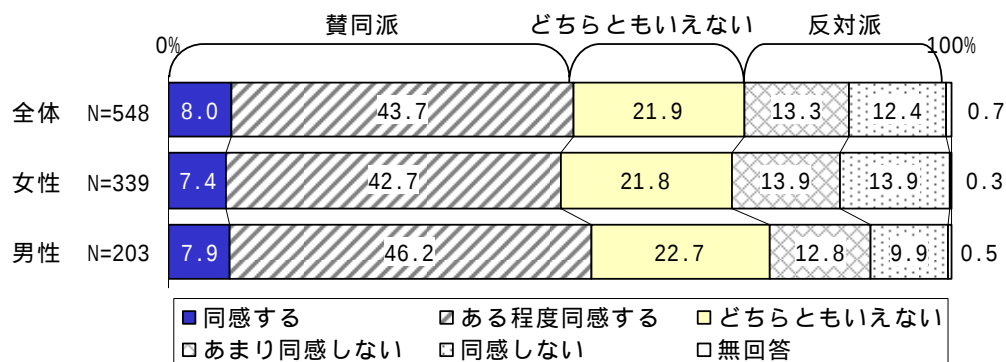


図 18 「男は仕事、女は家庭」という考え方について
(中学生・大学生アンケートとの比較)

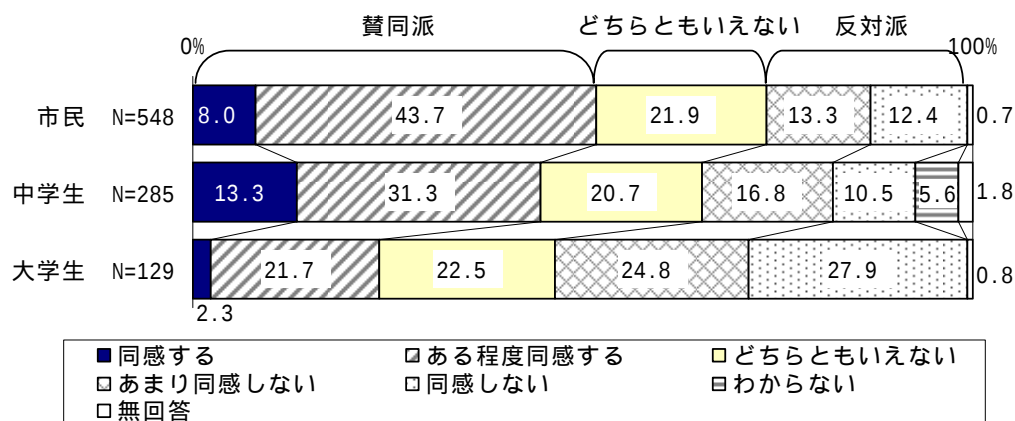


表 7 性別・年齢別にみた、「男は仕事、女は家庭」という考え方について

	合計	同意する	ある程度同意する	どちらともいえない	あまり同意しない	同意しない	無回答
全体	548	8.0	43.7	21.9	13.3	12.4	0.7
女性	339	7.4	42.7	21.8	13.9	13.9	0.3
20～29歳	37	2.7	35.2	13.5	18.9	29.7	0.0
30～39歳	71	5.6	32.5	21.1	21.1	19.7	0.0
40～49歳	62	3.2	37.1	37.1	8.1	14.5	0.0
50～59歳	87	6.9	53.0	19.5	12.6	6.9	1.1
60～69歳	66	9.1	53.0	16.7	12.1	9.1	0.0
70歳以上	16	37.3	31.3	18.8	6.3	6.3	0.0
男性	203	7.9	46.2	22.7	12.8	9.9	0.5
20～29歳	18	11.1	44.4	22.2	5.6	16.7	0.0
30～39歳	37	2.7	37.9	29.7	18.9	10.8	0.0
40～49歳	32	6.3	46.8	28.1	9.4	9.4	0.0
50～59歳	48	8.3	39.6	25.0	18.8	8.3	0.0
60～69歳	49	6.1	55.1	18.4	10.2	10.2	0.0
70歳以上	18	22.2	61.0	5.6	5.6	5.6	0.0

(2) 女性の職業と生活設計について（問４）

「子どもが成長したら再び職業をもつ」を６割近く支持
「子どもがいてもずっと職業を続ける」を支持する女性は約１６％で、男性は約１０％、女性が６ポイント近く上回る
本市では、「子どもがいてもずっと職業を続ける」は１４％で、世論調査の４０％を２６ポイントも下回る

女性の職業と生活設計について、「子どもが成長したら再び職業をもつ」が５６．８％でもっとも高く、あとは「子どもがいてもずっと職業を続ける」１４．１％、「子どもができるまでは、職業をもつ」８．９％、「結婚するまでは職業をもつ」８．４％、「女性は職業をもたない」１．６％である。

性別でみると、「子どもがいてもずっと職業を続ける」は女性１６．２％、男性１０．８％で、女性が５．４ポイント上回る。逆に「女性は職業をもたない」、「結婚するまでは職業をもつ」、「子どもができるまでは、職業をもつ」は、男性でそれぞれ３．０％、９．９％、１０．３％で、女性の０．９％、７．７％、８．０％をそれぞれ２．１ポイント、２．２ポイント、２．３ポイント上回る。

「男女共同参画社会に関する世論調査」（以下、世論調査という。）と比較すると、「子どもができてもしっかりと職業を続ける方がよい」が世論調査４０．４％に対し１４．１％で２６．３ポイントも下回り、逆に「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が世論調査３４．９％に対し、５６．８％で２１．９ポイント上回っている。

中学生・大学生アンケートと比較すると、中学生は「結婚するまでは職業をもつ」が１６．１％、「子どもができるまでは、職業をもつ」が１４．４％で、市民の８．４％、８．９％をそれぞれ７．７ポイント、５．５ポイント上回り、逆に「子どもが成長したら再び職業をもつ」は３４．１％で、市民の５６．８％より２２．７ポイント下回っている。

大学生では「子どもがいてもずっと職業を続ける」が３２．６％で、市民１４．１％より１８．５ポイント高い。

性別・年齢別にみると、「子どもが成長したら再び職業をもつ」は「６０～６９歳女性」で６８．２％（全体割合より＋１１．４ポイント）と高い。「子どもがいてもずっと職業を続ける」は４０～５０歳代の男女でやや高くなっている。

図 19 女性の職業と生活設計について

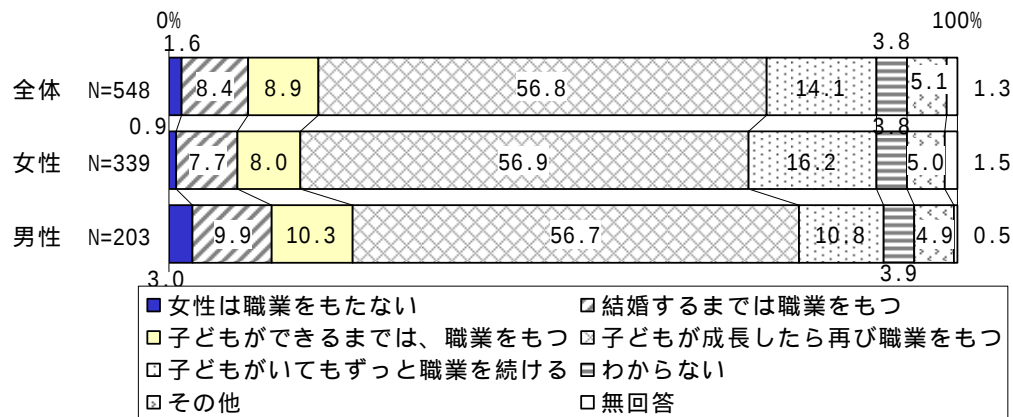


表 8 女性の職業と生活設計について（世論調査との比較）

	北名古屋市アンケート			世論調査		
	全体 N=548	女性 N=339	男性 N=203	全体 N=3,502	女性 N=1,886	男性 N=1,616
女性には職業をもたない方がよい	1.6	0.9	3.0	2.7	1.7	3.8
結婚するまでは職業をもつ方がよい	8.4	7.7	9.9	6.7	5.4	8.3
子どもができるまでは職業をもつ方がよい	8.9	8.0	10.3	10.2	9.1	11.5
子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	56.8	56.9	56.7	34.9	37.0	32.4
子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい	14.1	16.2	10.8	40.4	41.9	38.6
わからない	3.8	3.8	3.9	2.8	2.9	2.7
その他	5.1	5.0	4.9	2.3	2.0	2.7
無回答	1.3	1.5	0.5	0.0	0.0	0.0

図 20 女性の職業と生活設計について（中学生・大学生アンケートとの比較）

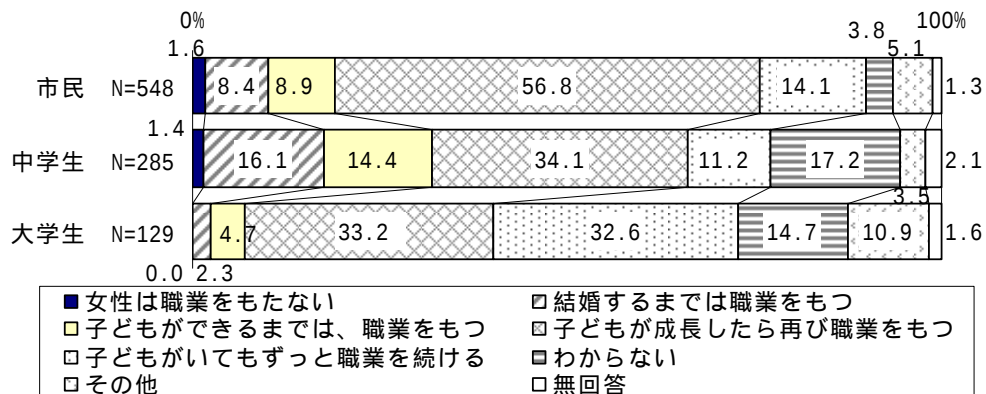


表 9 性別・年齢別にみた、女性の職業と生活設計について

	合 計	女性に職業をもたない	結婚するまでは職業をもつ	子どもができるまでは、職業をもつ	子どもが成長したら再び職業をもつ	子どもがいてもずっと職業を続ける	わからない	その他	無 回 答
全体	548	1.6	8.4	8.9	56.8	14.1	3.8	5.1	1.3
女性	339	0.9	7.7	8.0	56.9	16.2	3.8	5.0	1.5
20～29歳	37	0.0	10.8	2.7	56.8	13.5	10.8	2.7	2.7
30～39歳	71	1.4	7.0	5.6	45.2	21.1	5.6	11.3	2.8
40～49歳	62	0.0	8.1	8.1	53.2	21.0	3.2	4.8	1.6
50～59歳	87	0.0	6.9	6.9	59.9	17.2	2.3	5.7	1.1
60～69歳	66	1.5	9.1	12.1	68.2	9.1	0.0	0.0	0.0
70歳以上	16	6.3	0.0	18.8	62.3	6.3	6.3	0.0	0.0
男性	203	3.0	9.9	10.3	56.7	10.8	3.9	4.9	0.5
20～29歳	18	5.6	0.0	5.6	60.9	5.6	5.6	16.7	0.0
30～39歳	37	2.7	10.8	8.1	54.1	2.7	8.1	13.5	0.0
40～49歳	32	3.1	15.6	12.5	37.5	21.9	0.0	6.3	3.1
50～59歳	48	2.1	6.3	8.3	64.5	16.7	2.1	0.0	0.0
60～69歳	49	4.1	12.2	12.2	59.3	6.1	6.1	0.0	0.0
70歳以上	18	0.0	11.1	16.7	61.1	11.1	0.0	0.0	0.0

(3) 生活で優先すること（問5）

現実では「家庭地域に携わるが、仕事優先」が3割強
 男性の「仕事優先」志向ばなれの傾向
 男女ともに仕事と家庭・地域のバランスがとれた生活を希望している

生活で優先することとして、現実では、「家庭地域に携わるが、仕事優先」が33.2%が高く、あとは「仕事にも携わるが、家庭地域優先」15.3%、「家庭地域よりも仕事に専念」15.1%などが並んでいる。希望としては、「家庭地域と仕事を両立させる」が50.8%と半数を超え、あとは「仕事にも携わるが、家庭地域優先」17.0%、「家庭地域に携わるが、仕事優先」が10.6%などと意見が分かれている。

性別で現実と希望をみると、男女ともに「家庭・地域と仕事を両立」を希望する割合が高く、現実をはるかに上回っている。「仕事に専念」は、男女ともに希望する割合が1割未満でほぼ同じであり、ともに現実を下回っている。特に、男性では現実の2割強から大きく低下している。「家庭・地域に専念」は、女性で現実の2割弱から希望は1割強へと低下している。男性は現実と希望ともに数パーセントと低いが、希望が現実を上回っている。

性別・年齢別にみると、現実では、仕事を優先する傾向はすべての年齢で男性が女性を上回っている。「30～39歳」は、男女とも家庭地域を優先する傾向が見られる。「40～49歳」「60～69歳」の男性は仕事を優先する傾向が強く、男女のかい離が大きくなっている。

性別・共働き状況別にみると、現実では「非共働き」の女性が家庭生活を優先する傾向が強いなど、女性は共働き状況で差がでている。しかし、希望は、性別・共働き状況にかかわらず「家庭地位と仕事を両立させる」となっており、バランスのとれた生活が望まれている。

図 2 1 生活で優先することの現実と希望

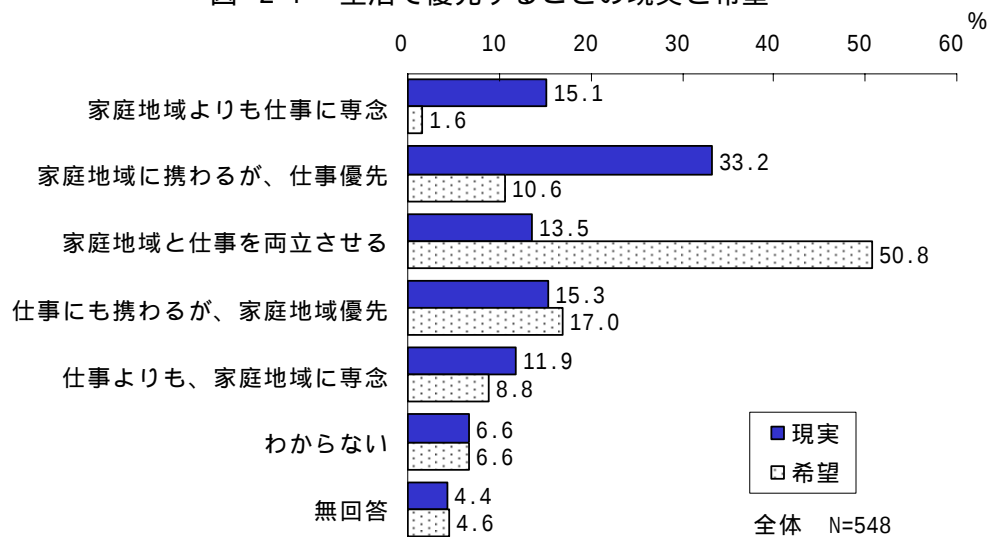


図 2 2 性別にみた、生活で優先することの現実と希望

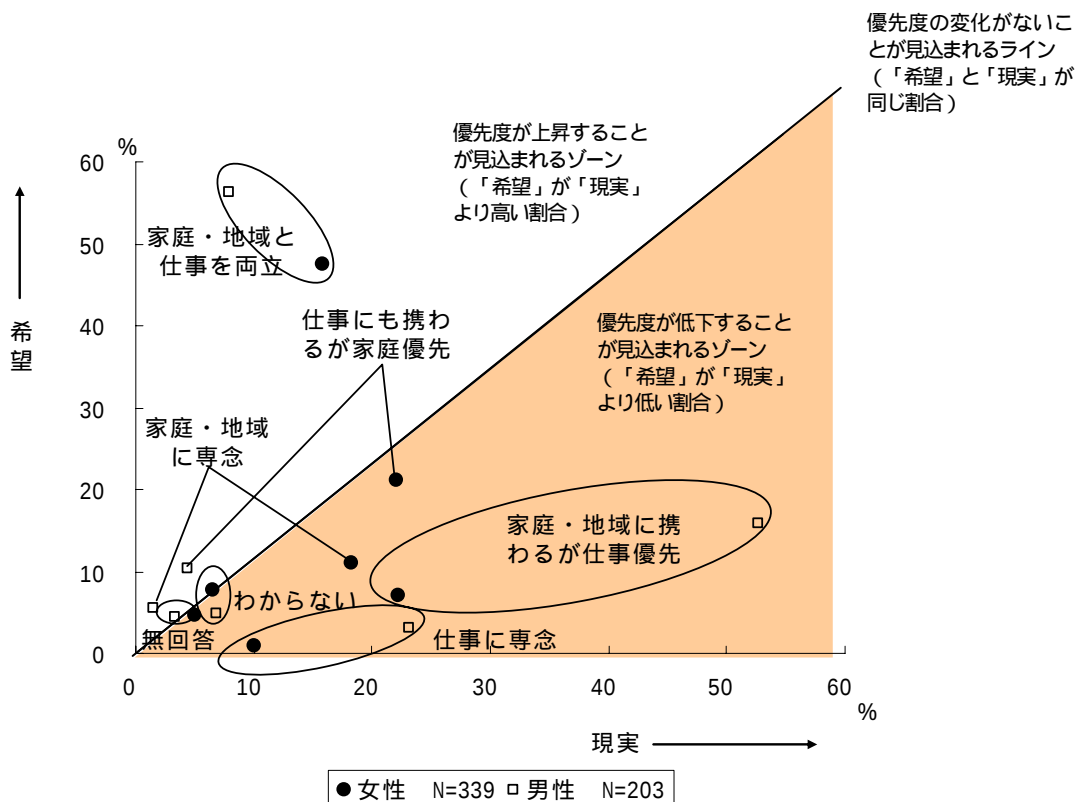
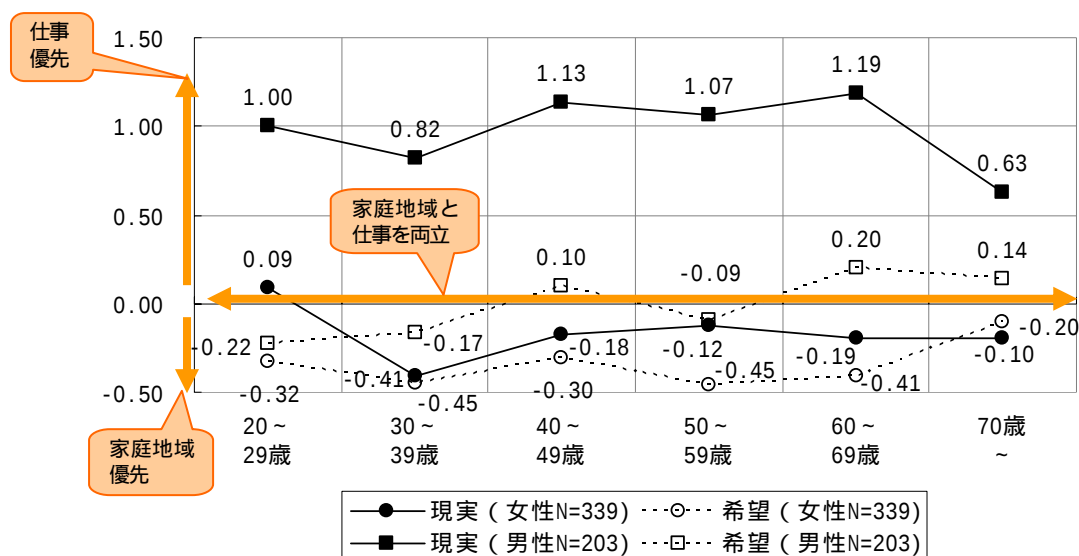
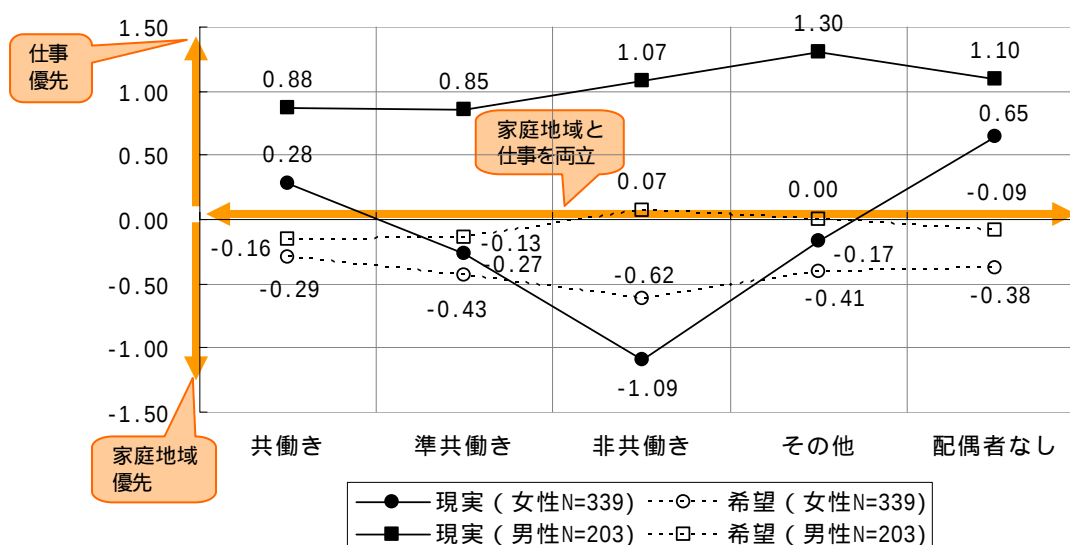


図 2 3 性別・年齢別にみた仕事と家庭・地域の優先度



「家庭地域よりも仕事に専念」を(+2)、「家庭地域に携わるが、仕事優先」を(+1)、「家庭地域と仕事を両立させる」を(0)、「仕事にも携わるが、家庭地域優先」を(-1)、「仕事よりも、家庭地域に専念」を(-2)として、平均値を算出した。

図 2 4 性別・共働き状況別にみた仕事と家庭・地域の優先度



「家庭地域よりも仕事に専念」を(+2)、「家庭地域に携わるが、仕事優先」を(+1)、「家庭地域と仕事を両立させる」を(0)、「仕事にも携わるが、家庭地域優先」を(-1)、「仕事よりも、家庭地域に専念」を(-2)として、平均値を算出した。

(4) 生活全般の満足度（問6）

生活全般の満足度は8割近い

満足度は女性が男性を上回る

20歳代の女性は満足度が高いが、20歳代の男性は満足度が高い層と不満度が高い層に分かれる

生活全般の満足度をみると、“満足”（「満足」22.4% + 「どちらかといえば満足」57.4%）は79.8%で8割近い。一方“不満”（「どちらかといえば不満」15.1% + 「不満」4.4%）は19.5%である。

性別でみると、“満足”は女性が83.2%（「満足」23.6% + 「どちらかといえば満足」59.6%）で、男性が73.9%（同19.7% + 同54.2%）で、女性が9.3ポイント上回る。一方、“不満”は女性が16.2%（「どちらかといえば不満」12.7% + 「不満」3.5%）、男性25.1%（同19.2% + 同5.9%）で、男性が8.9ポイント上回る。

性別・年齢別にみると、「満足」は「20～29歳女性」「70歳以上女性」「20～29歳男性」で高く、それぞれ40.5%（全体割合より+18.1ポイント）、37.5%（同+15.1ポイント）、33.3%（同+10.9ポイント）である。「不満」は「20～29歳男性」で16.7%（同+12.3ポイント）と高い。また、「どちらかといえば満足」は「50～59歳女性」と「30～39歳男性」で高く、それぞれ69.1%（同+11.7ポイント）、73.0%（同+15.6ポイント）である。「どちらかといえば不満」は「40～49歳男性」で28.1%（同+13.0ポイント）と高い。

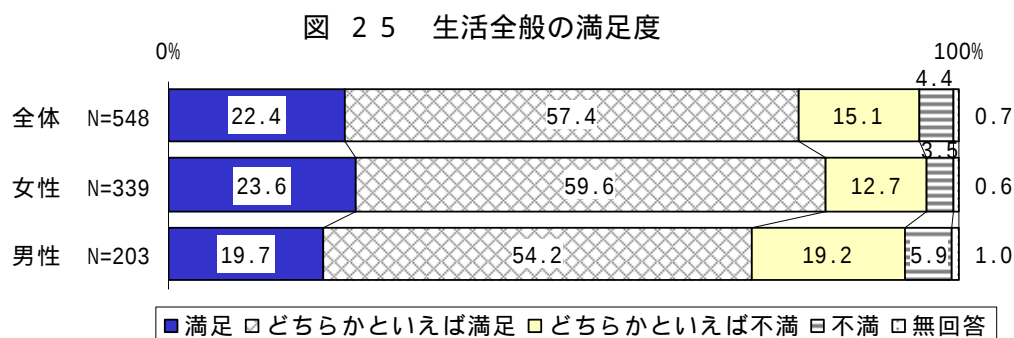


表 10 性別・年齢別にみた生活全般への満足度

	合 計	満 足	どちらか といえば 満 足	どちらか といえば 不 満	不 満	無 回 答
全体	548	22.4	57.4	15.1	4.4	0.7
女性	339	23.6	59.6	12.7	3.5	0.6
20～29歳	37	40.5	48.7	5.4	2.7	2.7
30～39歳	71	29.6	54.9	11.3	4.2	0.0
40～49歳	62	14.5	56.4	22.6	6.5	0.0
50～59歳	87	17.2	69.1	10.3	2.3	1.1
60～69歳	66	21.2	62.1	15.2	1.5	0.0
70歳以上	16	37.5	56.2	0.0	6.3	0.0
男性	203	19.7	54.2	19.2	5.9	1.0
20～29歳	18	33.3	27.8	22.2	16.7	0.0
30～39歳	37	18.9	73.0	5.4	0.0	2.7
40～49歳	32	18.8	40.6	28.1	12.5	0.0
50～59歳	48	18.8	52.0	25.0	4.2	0.0
60～69歳	49	16.3	61.3	16.3	4.1	2.0
70歳以上	18	22.2	55.6	22.2	0.0	0.0

4 職業生活について

(1) 職業（問7）

就業している女性の割合は6割強
 女性は「非正規雇用」が「正規雇用」を上回る
 女性の職業は、20歳代「正規雇用」、30歳代「専業主婦」、40歳代「非正規雇用」と年代毎に変化

職業は、「正社員・正職員」が31.0%でもっとも高く、あとは「パートタイム」12.4%、「商・工・サービス業などの経営者」6.2%、「家族従事者」3.6%、「自営・自由業のその他」3.1%などで、就業している人の割合は67.0%である。就業していない人は、「専業主婦・専業主夫」15.5%、「その他の無職」6.2%、「学生」1.8%である。

性別にみると、女性は「正社員・正職員」16.8%、「パートタイム」19.5%、「家族従事者」5.6%などで、就業している人の割合は60.5%である。女性は男性と比べて「正社員・正職員」が37.7ポイント、「商・工・サービス業などの経営者」が7.3ポイント低く、「パートタイム」が19.0ポイント高い。就業している人の割合も男性の77.2%に比べ16.7ポイント低い。

職業（統合）でみると、男性は「正規雇用」が54.6%と半数を超えるが、女性は「正規雇用」16.8%、「非正規雇用」29.2%で、「非正規雇用」が「正規雇用」を12.4ポイント上回る。

性別・年齢別にみた職業（統合）では、「正規雇用」は、男性では「30～39歳」89.2%（全体割合より+58.3ポイント）をピークに、20歳代から50歳代で高い。「非正規雇用」は「40～49歳女性」で51.5%（同+31.4ポイント）と高く、「専業主婦」は「30～39歳女性」で32.4%（同+16.9ポイント）、「60～69歳女性」「70歳以上女性」でそれぞれ25.8%（同+10.3ポイント）、31.2%（同+15.7ポイント）と高い。女性では、20歳代は「正規雇用」、30歳代は「専業主婦」、40歳代は「非正規雇用」の割合が高くなっており、年代ごとに職業が変化している。

図 2 6 職業

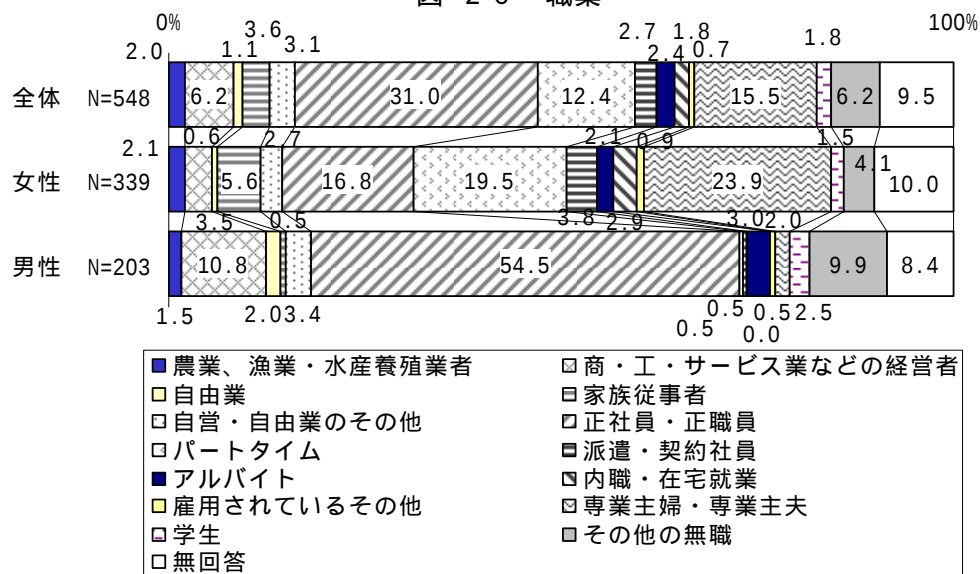


表 1 1 性別・年齢別にみた職業（統合）

	合計	自営・自由業	家族従事者	その他	正雇用	非正規雇用	専業主婦・主夫	学 生	無 職	無 回 答
全体	548	9.3	3.6	3.1	30.9	20.1	15.5	1.8	6.2	9.5
女性	339	6.2	5.6	2.7	16.8	29.2	23.9	1.5	4.1	10.0
20～29歳	37	0.0	0.0	0.0	29.8	29.7	24.3	10.8	0.0	5.4
30～39歳	71	4.2	2.8	0.0	25.4	22.5	32.4	1.4	1.4	9.9
40～49歳	62	8.1	4.8	0.0	19.4	51.5	9.7	0.0	0.0	6.5
50～59歳	87	5.7	11.5	4.6	13.8	28.8	24.1	0.0	2.3	9.2
60～69歳	66	6.1	4.5	4.5	6.1	22.7	25.8	0.0	13.6	16.7
70歳以上	16	25.0	6.3	12.5	0.0	0.0	31.2	0.0	12.5	12.5
男性	203	14.3	0.5	3.4	54.6	4.4	2.0	2.5	9.9	8.4
20～29歳	18	0.0	0.0	0.0	61.0	5.6	0.0	27.8	0.0	5.6
30～39歳	37	8.1	0.0	0.0	89.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7
40～49歳	32	28.1	0.0	0.0	65.6	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3
50～59歳	48	14.6	0.0	4.2	68.7	4.2	0.0	0.0	8.3	0.0
60～69歳	49	10.2	0.0	8.2	22.4	12.2	4.1	0.0	26.6	16.3
70歳以上	18	27.7	5.6	5.6	11.1	0.0	11.1	0.0	16.7	22.2

(2) 現在の職場や仕事への不満や悩み（問 8）

「給料・賃金が少ない」が4割強、「休暇が取りにくい」が3割強
「労働時間が長い」「休暇が取りにくい」「職場の人間関係が難しい」は男性が上回り、「仕事と自分の生活の区別がない」「自分の能力に自信が持てない」「責任ある仕事をさせてもらえない」は女性が上回る

現在の職場や仕事への不満や悩みは、「給料・賃金が少ない」が40.8%でもっとも高く、あとは「休暇が取りにくい」32.8%、「労働時間が長い」25.1%、「職場の人間関係がむずかしい」16.3%、「能力が正当に評価されていない」11.8%などがあげられている。「特に不満や悩みはない」は24.8%である。

性別でみると、「労働時間が長い」（男性31.4%、女性19.8%）、「休暇が取りにくい」（同39.1%、同28.7%）、「職場の人間関係が難しい」（同19.9%、同13.9%）などは男性が女性をそれぞれ11.6ポイント、10.4ポイント、6.0ポイント上回っている。逆に「仕事と自分の生活の区別がない」（女性13.4%、男性9.6%）、「自分の能力に自信が持てない」（同9.9%、同7.1%）、「責任ある仕事をさせてもらえない」（同3.0%、同0.6%）などは女性が男性をそれぞれ3.8ポイント、2.8ポイント、2.4ポイント上回っている。

性別・職業（統合）別にみると、「労働時間が長い」は「正規雇用男性」で高く、37.8%（全体割合より+12.7ポイント）である。「休暇が取りにくい」は「正規雇用女性」と「正規雇用男性」で高く、それぞれ49.1%（同+16.3ポイント）、46.8%（同+14.0ポイント）である。「能力が正当に評価されていない」は「正規雇用女性」で高く、24.6%（同+12.8ポイント）である。「仕事と自分の生活との区別がない」は、「自営・自由業女性」、「家族従事者女性」、「自営・自由業男性」で高く、それぞれ33.3%（同+21.7ポイント）、36.8%（同+25.2ポイント）、24.1%（同+12.5ポイント）である。「特に不満や悩みはない」は「家族従事者女性」「自営・自由業男性」で高く、それぞれ36.8%（同+12.0ポイント）、44.8%（同+20.0ポイント）である。

図 2 7 現在の職場や仕事への不満や悩み（あてはまるものすべて）

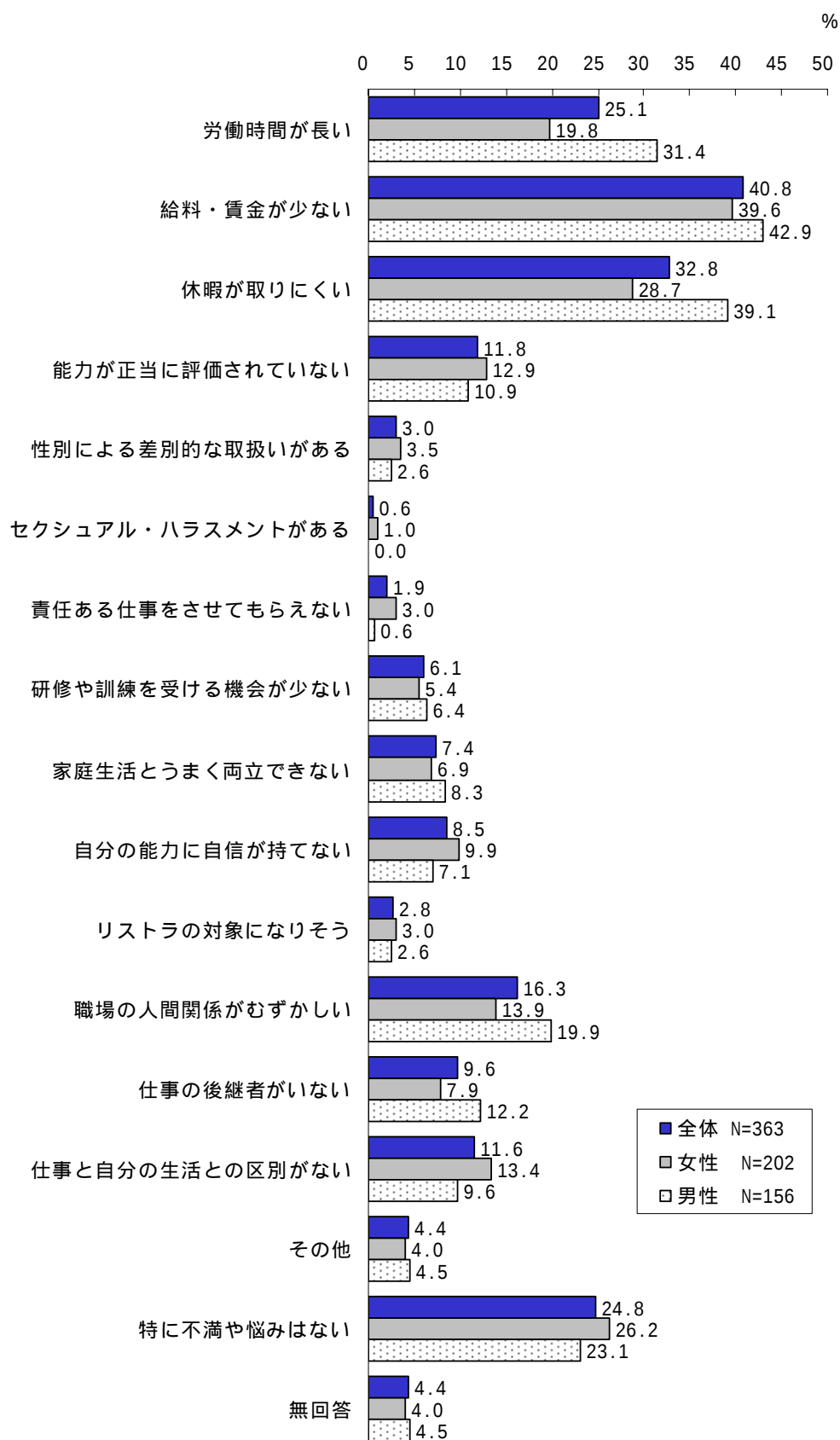


表 12 性別・職業（統合）別にみた、現在の職場や仕事への不満や悩み

	合計	労働時間が長い	給料・賃金が安い	休暇が取りにくい	能力が正しく評価されていない	性別による差別的な取扱いがある	セクシュアル・ハラスメントがある	責任ある仕事をさせられない	研修や訓練を受ける機会が少ない	家庭生活とうまく両立できない
全体	363	25.1	40.8	32.8	11.8	3.0	0.6	1.9	6.1	7.4
女性	202	19.8	39.6	28.7	12.9	3.5	1.0	3.0	5.4	6.9
職業 統 合										
・ 自営・自由業	21	23.8	28.6	23.8	4.8	4.8	4.8	0.0	4.8	4.8
家族従事者	19	21.1	10.5	15.8	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5
その他	9	22.2	11.1	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
正規雇用	57	29.8	42.1	49.1	24.6	7.0	1.8	3.5	5.3	8.8
非正規雇用	96	12.5	49.0	19.8	10.4	2.1	0.0	4.2	7.3	6.3
男性	156	31.4	42.9	39.1	10.9	2.6	0.0	0.6	6.4	8.3
職業 統 合										
・ 自営・自由業	29	17.2	27.6	24.1	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0
家族従事者	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	7	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
正規雇用	111	37.8	47.7	46.8	14.4	2.7	0.0	0.9	8.1	10.8
非正規雇用	8	12.5	50.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5
	合計	自分の能力に自信を持っていない	リストラの対象になりそう	職場の人間関係がむずかしい	仕事の後継者がいない	仕事と自分の生活との区別がない	その他	特に不満や悩みはない	無回答	
全体	363	8.5	2.8	16.3	9.6	11.6	4.4	24.8	4.4	
女性	202	9.9	3.0	13.9	7.9	13.4	4.0	26.2	4.0	
職業 統 合										
・ 自営・自由業	21	19.0	0.0	4.8	23.8	33.3	0.0	33.3	9.5	
家族従事者	19	0.0	0.0	5.3	15.8	36.8	10.5	36.8	5.3	
その他	9	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	22.2	33.3	
正規雇用	57	17.5	1.8	21.1	7.0	8.8	1.8	14.0	1.8	
非正規雇用	96	6.3	5.2	14.6	3.1	7.3	4.2	30.2	1.0	
男性	156	7.1	2.6	19.9	12.2	9.6	4.5	23.1	4.5	
職業 統 合										
・ 自営・自由業	29	0.0	0.0	3.4	13.8	24.1	0.0	44.8	3.4	
家族従事者	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
その他	7	14.3	14.3	28.6	28.6	0.0	14.3	28.6	14.3	
正規雇用	111	9.0	2.7	25.2	10.8	6.3	5.4	16.2	2.7	
非正規雇用	8	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	25.0	25.0	

(3) 定年以外で仕事をやめたり、転職したこと（問9）

定年以外で仕事をやめたり、転職したことがある女性は7割を超え、男性は5割弱
やめたり、転職したことがあるのは30歳～50歳代の女性が高く、やめたり転職したことがないのは20歳代の女性と30歳代を除く男性で高い

定年以外で仕事をやめたり、転職したことについて、「したことがある」が65.6%、「したことはない」は28.6%である。

性別でみると、女性の「したことがある」は75.2%で、男性の49.8%より25.4ポイント上回る。

性別・年齢別でみると、「したことがある」は「30～39歳女性」「40～49歳女性」

「50～59歳女性」で高く、それぞれ80.3%（全体割合より+14.7ポイント）、91.9%（同+26.3ポイント）、80.5%（同+14.9ポイント）である。一方「したことはない」は「20～29歳女性」「20～29歳男性」「40～49歳男性」「50～59歳男性」「60～69歳男性」で高く、それぞれ48.7%（同+20.1ポイント）、66.6%（同+38.0ポイント）、46.9%（同+18.3ポイント）、43.8%（同+15.2ポイント）、42.9%（同+14.3ポイント）である。

性別・職業（統合）別にみると、「したことがある」は、「非正規雇用女性」と「専業主婦」で高く、それぞれ89.9%（同+24.3ポイント）、84.0%（同+18.4ポイント）である。「したことはない」は「正規雇用女性」と「正規雇用男性」で高く、それぞれ40.4%（同+11.8ポイント）、50.5%（同+21.9ポイント）である。

図 2 8 定年以外で仕事をやめたり、転職したこと

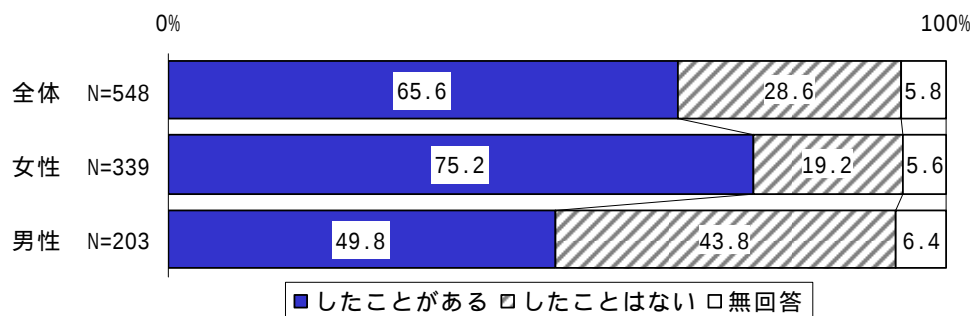


表 1 3 性別・年齢別にみた定年以外で仕事をやめたり、転職したこと

	合計	したことがある	したことはない	無回答
全体	548	65.6	28.6	5.8
女性	339	75.2	19.2	5.6
20～29歳	37	45.9	48.7	5.4
30～39歳	71	80.3	15.5	4.2
40～49歳	62	91.9	6.5	1.6
50～59歳	87	80.5	12.6	6.9
60～69歳	66	68.2	24.2	7.6
70歳以上	16	56.2	31.3	12.5
男性	203	49.8	43.8	6.4
20～29歳	18	27.8	66.6	5.6
30～39歳	37	62.2	32.4	5.4
40～49歳	32	53.1	46.9	0.0
50～59歳	48	52.0	43.8	4.2
60～69歳	49	48.9	42.9	8.2
70歳以上	18	38.9	38.9	22.2

表 1 4 性別・職業（統合）別にみた定年以外で仕事をやめたり、転職したこと

		合計	したことがある	したことはない	無回答
全体		548	65.6	28.6	5.8
女性		339	75.2	19.2	5.6
職業 統 合	自営・自由業	21	57.1	28.6	14.3
	家族従事者	19	73.7	15.8	10.5
	その他	9	66.7	22.2	11.1
	正規雇用	57	54.3	40.4	5.3
	非正規雇用	99	89.9	8.1	2.0
	専業主婦	81	84.0	12.3	3.7
	学生	5	20.0	80.0	0.0
	無職	14	71.4	28.6	0.0
男性		203	49.8	43.8	6.4
職業 統 合	自営・自由業	29	62.1	27.6	10.3
	家族従事者	1	100.0	0.0	0.0
	その他	7	42.9	57.1	0.0
	正規雇用	111	46.8	50.5	2.7
	非正規雇用	9	77.8	11.1	11.1
	専業主夫	4	50.0	50.0	0.0
	学生	5	20.0	80.0	0.0
	無職	20	55.0	35.0	10.0

(4) 仕事をやめたり、転職した理由（問 10）

理由で女性が男性を大きく上回るのは、「結婚」「妊娠・出産」「乳幼児の育児」「家族の病気や介護」「子どもの教育」など
男性が女性を上回るのは「よりよい仕事が見つかった」「倒産・リストラ」「職場や勤務条件への不満」など

仕事をやめたり、転職した理由は、「結婚」が36.5%でもっとも高く、次いで「職場や勤務条件への不満」25.9%、「妊娠・出産」24.2%、「よりよい仕事が見つかった」20.6%、「仕事内容の不満」16.2%、「自分の健康問題」12.3%などが続いている。

理由で男女の差が大きいのは、「結婚」（女性49.8%、男性3.0%）、「妊娠・出産」（同33.7%、同0.0%）、「乳幼児の育児」（同9.4%、同0.0%）、「家族の病気や介護」（同6.7%、同1.0%）、「子どもの教育」（同5.1%、同0.0%）などで、女性が男性をそれぞれ46.8ポイント、33.7ポイント、9.4ポイント、5.7ポイント、5.1ポイント上回る。

一方、「よりよい仕事が見つかった」（男性32.7%、女性15.7%）、「倒産・リストラ」（同16.8%、同7.5%）、「職場や勤務条件への不満」（同30.7%、同23.9%）

などは男性が女性をそれぞれ17.0ポイント、9.3ポイント、6.8ポイント上回る。

性別・年齢別にみると、「結婚」は「20～29歳女性」「40～49歳女性」「50～59歳女性」「60～69歳女性」でそれぞれ47.1%（全体割合より+10.6ポイント）、47.4%（同+10.9ポイント）、50.0%（同+13.5ポイント）、57.8%（同+21.3ポイント）と高くなっている。「妊娠・出産」は「20～29歳女性」「30～39歳女性」「40～49歳女性」でそれぞれ41.2%（同+17.0ポイント）、42.1%（同+17.9ポイント）、49.1%（同+24.9ポイント）と高い。「家族の病気や介護」は「50～59歳女性」で15.7%（同+10.7ポイント）と高い。「職場や勤務条件への不満」は「20～29歳女性」「30～39歳女性」「30～39歳男性」でそれぞれ41.2%（同+15.3ポイント）、38.6%（同+12.7ポイント）、60.9%（同+35.0ポイント）と高い。「よりよい仕事が見つかった」は「30～39歳男性」「60～69歳男性」で高く、それぞれ43.5%（同+22.9ポイント）、50.0%（同+29.4ポイント）である。

図 29 仕事をやめたり、転職した理由（あてはまるものすべて）

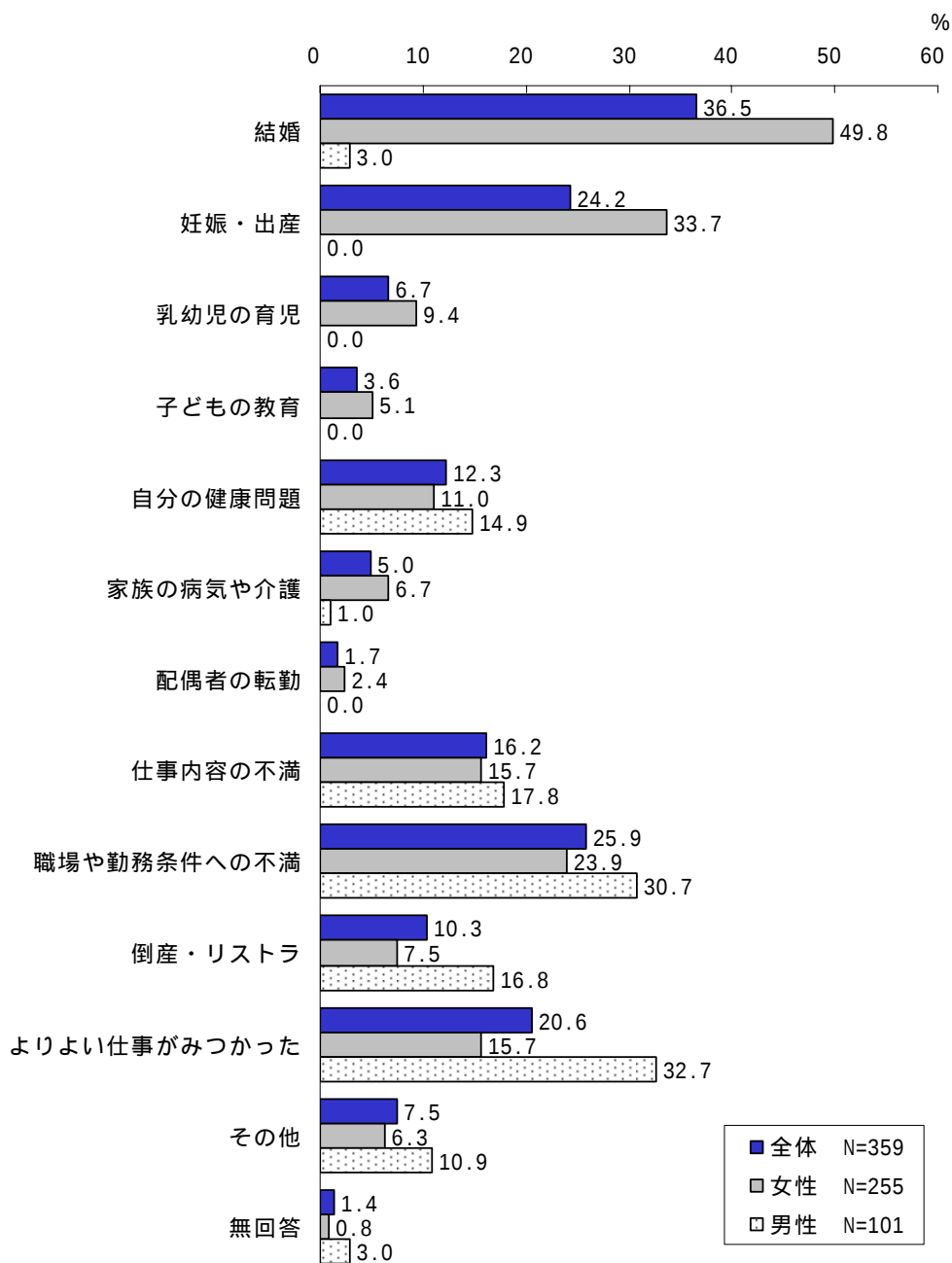


表 15 性別・年齢別にみた仕事をやめたり、転職した理由

	合計	結 婚	妊娠・ 出産	乳 幼 児 の 育 児	子 ど も の 教 育	自 分 の 健康問題	家族の病 気や介護	配 偶 者 の 転 勤
全体	359	36.5	24.2	6.7	3.6	12.3	5.0	1.7
女性	255	49.8	33.7	9.4	5.1	11.0	6.7	2.4
20～29歳	17	47.1	41.2	5.9	0.0	0.0	11.8	0.0
30～39歳	57	43.9	42.1	7.0	1.8	7.0	1.8	3.5
40～49歳	57	47.4	49.1	12.3	7.0	10.5	3.5	1.8
50～59歳	70	50.0	22.9	11.4	8.6	14.3	15.7	2.9
60～69歳	45	57.8	22.2	6.7	4.4	17.8	2.2	2.2
70歳以上	9	66.7	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
男性	101	3.0	0.0	0.0	0.0	14.9	1.0	0.0
20～29歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30～39歳	23	0.0	0.0	0.0	0.0	21.7	0.0	0.0
40～49歳	17	5.9	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0
50～59歳	25	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	4.0	0.0
60～69歳	24	8.3	0.0	0.0	0.0	20.8	0.0	0.0
70歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0
	合計	仕事内容 の 不 満	職 場 や 勤務条件 への不満	倒 産 ・ リストラ	よりよい 仕事がみ つかった	そ の 他	無 回 答	
全体	359	16.2	25.9	10.3	20.6	7.5	1.4	
女性	255	15.7	23.9	7.5	15.7	6.3	0.8	
20～29歳	17	11.8	41.2	5.9	17.6	0.0	0.0	
30～39歳	57	24.6	38.6	5.3	22.8	10.5	0.0	
40～49歳	57	17.5	26.3	10.5	17.5	3.5	0.0	
50～59歳	70	10.0	14.3	5.7	11.4	8.6	2.9	
60～69歳	45	13.3	15.6	11.1	13.3	2.2	0.0	
70歳以上	9	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	
男性	101	17.8	30.7	16.8	32.7	10.9	3.0	
20～29歳	5	20.0	0.0	0.0	40.0	20.0	20.0	
30～39歳	23	21.7	60.9	4.3	43.5	8.7	0.0	
40～49歳	17	23.5	29.4	11.8	17.6	11.8	0.0	
50～59歳	25	16.0	20.0	24.0	20.0	16.0	4.0	
60～69歳	24	16.7	20.8	29.2	50.0	0.0	4.2	
70歳以上	7	0.0	28.6	14.3	14.3	28.6	0.0	

(5) 仕事をやめたり、転職した結果（問 11）

仕事をやめたり、転職して満足度が高いのは「家族との関わりの変化」「自分自身にとって」「生活習慣の変化」など

男性の満足度が女性を上回るのは、「収入の変化」「自分自身にとって」「社会的な評価」「労働環境の変化」など

女性の満足度が男性を上回るのは、「地域との関わりの変化」「家族との関わりの変化」「生活習慣の変化」など

仕事をやめたり、転職した結果をみると、「満足している」が高いのは「家族との関わりの変化」38.7%、「自分自身にとって」34.0%、「生活習慣の変化」29.8%などである。逆に「不満が残っている」が高いのは「収入の変化」24.5%、「自分自身にとって」17.8%、「労働環境の変化」15.0%などである。

性別でみると、男性の満足度が高いのは「自分自身にとって」「社会的な評価」「労働環境の変化」「家族との関わりの変化」などで、女性の満足度が高いのは「家族との関わりの変化」「地域との関わりの変化」「生活習慣の変化」などである。男性の満足度が女性を大きく上回るのは「収入の変化」「自分自身にとって」「社会的な評価」「労働環境の変化」などで、逆に女性の満足度が男性を大きく上回るのは「地域との関わりの変化」「家族との関わりの変化」「生活習慣の変化」などである。

性別・年齢別にみると、「収入の変化」で「満足している」は「30～39歳男性」「60～69歳男性」で高く、それぞれ39.1%（全体割合より+18.8ポイント）、37.6%（同+17.3ポイント）である。「不満が残っている」は「40～49歳女性」で35.0%（同+10.5ポイント）と高い。「労働環境の変化」では「満足している」は「30～39歳男性」と「40～49歳男性」で高く、それぞれ39.1%（同+13.5ポイント）、41.2%（同+15.6ポイント）である。「不満が残っている」は「50～59歳男性」で28.0%（同+13.0ポイント）と高い。「生活習慣の変化」は「満足している」は「20～29歳女性」と「40～49歳男性」で高く、それぞれ41.1%（同+11.3ポイント）、52.9%（同+23.1ポイント）である。「家族との関わりの変化」で「満足している」は「20～29歳女性」と「30～39歳女性」で高く、それぞれ58.8%（同+20.1ポイント）、49.0%（同+10.3ポイント）である。「不満が残っている」は「40～49歳男性」で17.6%（同+10.4ポイント）と高い。「地域との関わりの変化」は、「不満が残っている」は「40～49歳」で17.6%（同+11.2ポイント）と高い。「社会的な評価」では「満足している」は「40～49歳男性」と「60～69歳男性」で高く、それぞれ35.3%（同+17.8ポイント）、33.3%（同+15.8ポイント）である。「自分自身にとって」は、「満足している」は「20～29歳女性」と「60～69歳男性」で高く、それぞれ47.1%（同+13.1ポイント）、54.1%（同+20.1ポイント）である。

図 3 0 仕事をやめたり、転職した結果

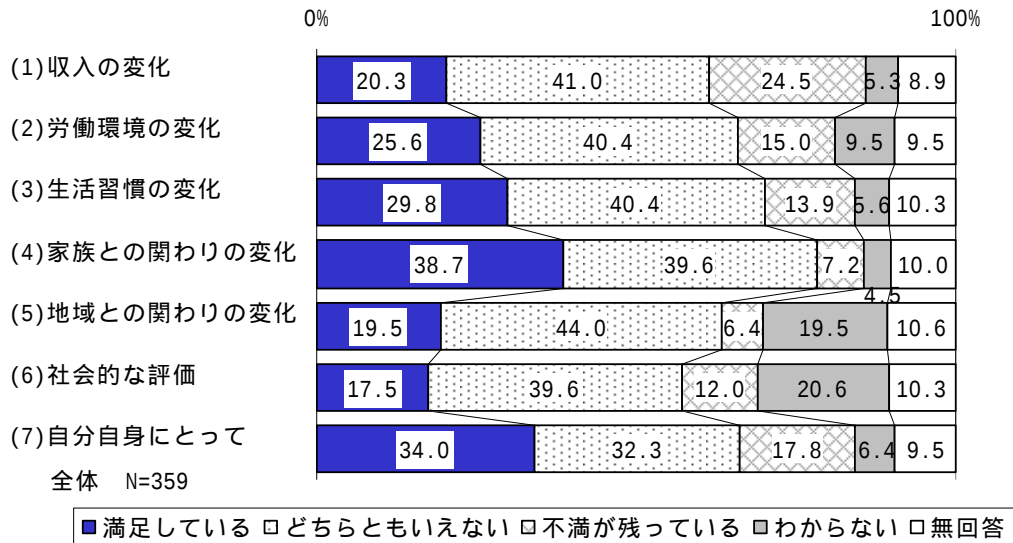
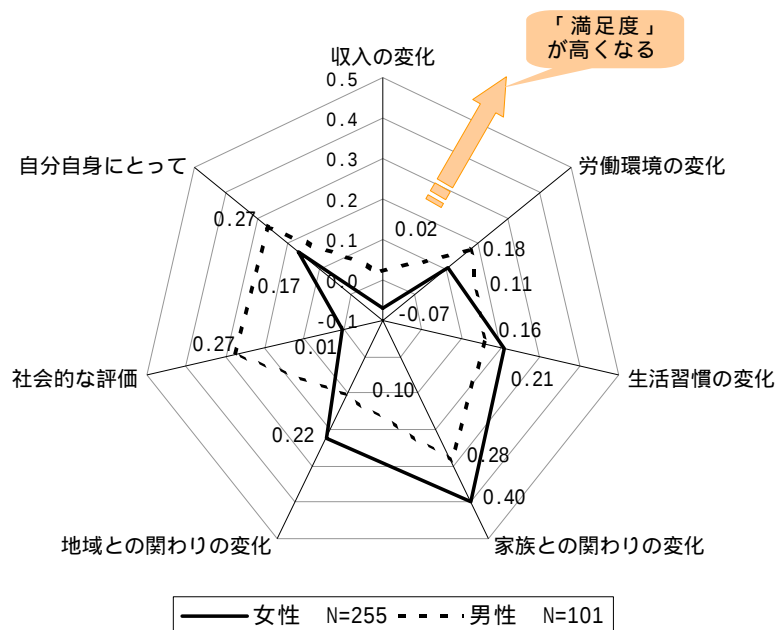


図 3 1 性別にみた、仕事をやめたり、転職した結果



「満足している」を(+1)、「どちらともいえない」を(0)、「不満が残っている」を(-1)として、平均値を算出した。

表 16 性別・年齢別にみた、仕事をやめたり、転職した結果（その１）

	合計	(1)収入の変化					(2)労働環境の変化				
		満足して いる	どちら とも え	残 り な い	満 ち が て る	わ か ら い 無 回 答	満足して いる	どちら とも え	残 り な い	満 ち が て る	わ か ら い 無 回 答
全体	359	20.3	41.0	24.5	5.3	8.9	25.6	40.4	15.0	9.5	9.5
女性	255	18.0	42.4	23.9	6.3	9.4	22.7	40.5	14.5	12.9	9.4
20～29歳	17	11.8	58.8	23.5	0.0	5.9	23.5	52.9	11.8	5.9	5.9
30～39歳	57	14.0	50.8	21.1	1.8	12.3	28.1	40.3	5.3	14.0	12.3
40～49歳	57	24.6	31.6	35.0	5.3	3.5	26.3	43.9	19.3	7.0	3.5
50～59歳	70	21.4	40.1	27.1	5.7	5.7	18.6	41.4	21.4	15.7	2.9
60～69歳	45	15.6	40.0	13.3	11.1	20.0	20.0	33.3	8.9	15.6	22.2
70歳以上	9	0.0	55.6	0.0	33.3	11.1	11.1	22.3	22.2	22.2	22.2
男性	101	26.7	37.6	24.8	3.0	7.9	32.7	40.6	16.8	1.0	8.9
20～29歳	5	20.0	20.0	40.0	0.0	20.0	20.0	60.0	0.0	0.0	20.0
30～39歳	23	39.1	34.8	26.1	0.0	0.0	39.1	43.5	17.4	0.0	0.0
40～49歳	17	23.5	35.3	29.4	5.9	5.9	41.2	35.3	17.6	0.0	5.9
50～59歳	25	8.0	52.0	24.0	8.0	8.0	24.0	32.0	28.0	4.0	12.0
60～69歳	24	37.6	33.3	20.8	0.0	8.3	33.3	50.1	8.3	0.0	8.3
70歳以上	7	28.5	28.6	14.3	0.0	28.6	28.5	28.6	14.3	0.0	28.6

	合計	(3)生活習慣の変化					(4)家族との関わりの変化				
		満足して いる	どちら とも え	残 り な い	満 ち が て る	わ か ら い 無 回 答	満足して いる	どちら とも え	残 り な い	満 ち が て る	わ か ら い 無 回 答
全体	359	29.8	40.4	13.9	5.6	10.3	38.7	39.6	7.2	4.5	10.0
女性	255	30.6	39.2	13.3	6.7	10.2	40.4	40.0	5.9	3.9	9.8
20～29歳	17	41.1	35.3	11.8	5.9	5.9	58.8	29.4	5.9	0.0	5.9
30～39歳	57	35.1	38.6	12.3	0.0	14.0	49.0	28.1	8.8	1.8	12.3
40～49歳	57	29.8	42.1	19.3	5.3	3.5	35.1	47.3	8.8	3.5	5.3
50～59歳	70	28.6	45.7	14.3	5.7	5.7	37.1	52.9	1.4	2.9	5.7
60～69歳	45	26.7	33.3	4.4	15.6	20.0	37.8	33.3	4.4	6.7	17.8
70歳以上	9	22.3	11.1	22.2	22.2	22.2	22.3	22.2	11.1	22.2	22.2
男性	101	28.7	42.5	14.9	3.0	10.9	34.7	38.6	10.9	5.9	9.9
20～29歳	5	0.0	40.0	20.0	20.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0	20.0
30～39歳	23	30.4	52.3	13.0	4.3	0.0	30.4	47.9	13.0	8.7	0.0
40～49歳	17	52.9	29.4	11.8	0.0	5.9	47.1	29.4	17.6	0.0	5.9
50～59歳	25	16.0	48.0	16.0	4.0	16.0	28.0	44.0	4.0	12.0	12.0
60～69歳	24	33.3	45.9	12.5	0.0	8.3	41.7	33.3	12.5	4.2	8.3
70歳以上	7	14.3	14.3	28.6	0.0	42.8	14.3	28.6	14.3	0.0	42.8

	合計	(5)地域との関わりの変化					(6)社会的な評価				
		満足して いる	どちら とも え	残 り な い	満 ち が て る	わ か ら い 無 回 答	満足して いる	どちら とも え	残 り な い	満 ち が て る	わ か ら い 無 回 答
全体	359	19.5	44.0	6.4	19.5	10.6	17.5	39.6	12.0	20.6	10.3
女性	255	22.0	42.3	6.3	18.8	10.6	13.3	41.6	12.9	21.6	10.6
20～29歳	17	11.8	58.8	0.0	23.5	5.9	5.9	53.0	17.6	17.6	5.9
30～39歳	57	24.6	35.0	7.0	21.1	12.3	14.0	40.3	12.3	21.1	12.3
40～49歳	57	19.3	52.6	7.0	15.8	5.3	14.0	52.6	12.3	15.8	5.3
50～59歳	70	25.7	42.9	5.7	20.0	5.7	15.7	34.4	15.7	27.1	7.1
60～69歳	45	20.0	35.5	6.7	15.6	22.2	13.3	37.8	8.9	20.0	20.0
70歳以上	9	22.3	22.2	11.1	22.2	22.2	0.0	33.4	11.1	33.3	22.2
男性	101	13.9	47.5	6.9	21.8	9.9	28.7	34.7	8.9	17.8	9.9
20～29歳	5	0.0	60.0	20.0	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0	20.0	20.0
30～39歳	23	17.4	52.2	0.0	30.4	0.0	26.1	47.8	8.7	17.4	0.0
40～49歳	17	29.4	41.2	17.6	5.9	5.9	35.3	29.4	5.9	23.5	5.9
50～59歳	25	8.0	48.0	0.0	32.0	12.0	20.0	40.0	12.0	16.0	12.0
60～69歳	24	8.3	58.4	8.3	16.7	8.3	33.3	37.6	8.3	12.5	8.3
70歳以上	7	14.3	0.0	14.3	28.6	42.8	14.3	0.0	14.3	28.6	42.8

表 17 性別・年齢別にみた、仕事をやめたり、転職した結果（その2）

	合計	(7)自分自身にとって				
		満足している	どちらでもない	不満が残っている	わからない	無回答
全体	359	34.0	32.3	17.8	6.4	9.5
女性	255	32.2	34.5	18.0	5.9	9.4
20～29歳	17	47.1	17.6	23.5	5.9	5.9
30～39歳	57	31.6	40.3	12.3	3.5	12.3
40～49歳	57	31.5	31.6	22.8	8.8	5.3
50～59歳	70	30.0	37.2	21.4	5.7	5.7
60～69歳	45	33.3	35.6	11.1	4.4	15.6
70歳以上	9	22.3	22.2	22.2	11.1	22.2
男性	101	38.7	26.7	16.8	7.9	9.9
20～29歳	5	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0
30～39歳	23	43.5	34.8	17.4	4.3	0.0
40～49歳	17	35.3	29.4	23.5	5.9	5.9
50～59歳	25	24.0	24.0	24.0	16.0	12.0
60～69歳	24	54.1	29.2	4.2	4.2	8.3
70歳以上	7	28.6	0.0	14.3	14.3	42.8

(6) 今の職業や働き方を変えたいか（問12）

新規就労又は転職希望は2割

女性の新規就労又は転職希望が男性を僅かに上回る

20歳代の男女、30歳代女性は新規就労又は転職希望が高い

60歳代の男性では現在の状況を変えるつもりがないが高い

今の職業や働き方を変えたいかについて、「新規就労又は転職希望」21.0%、「現在の状況を変えるつもりはない」55.3%、「わからない」13.5%である。

女性は、「新規就労又は転職希望」が22.4%、「現在の状況を変えるつもりはない」が54.9%で、男性は「新規就労又は転職希望」が18.2%、「現在の状況を変えるつもりはない」が56.2%である。女性の「新規就労又は転職希望」が男性を4.2ポイント上回る。

性別・年齢別にみると、「新規就労又は転職希望」は「20～29歳女性」「30～39歳女性」「20～29歳男性」で高く、それぞれ40.5%（全体割合より+19.5ポイント）、38.0%（同+17.0ポイント）、50.0%（同+29.0ポイント）である。また、「現在の状況を変えるつもりはない」は「60～69歳男性」で69.4%（同+14.1ポイント）と高い。「わからない」は「70歳以上女性」「30～39歳男性」で高く、それぞれ25.0%（同+11.5ポイント）、27.0%（同+13.5ポイント）である。

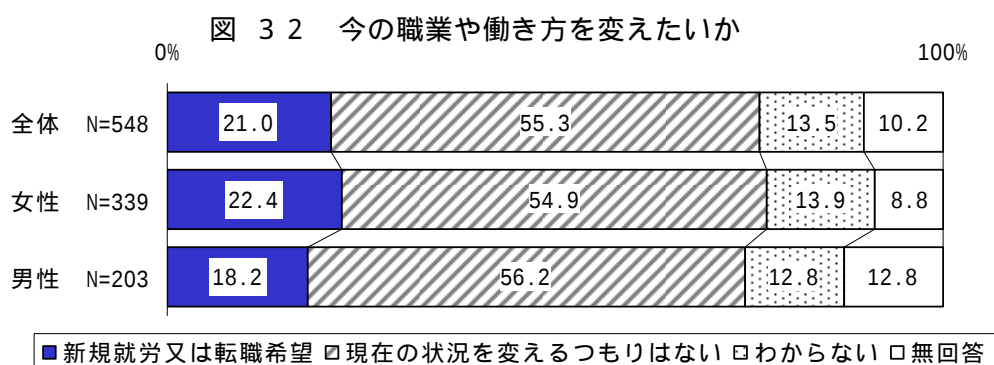


表 1 8 性別・年齢別にみた、今の職業や働き方を変えたいか

	合計	新規就労 又は 転職希望	現在の状 況を変え るつもり はない	わ か ら い	無 回 答
全体	548	21.0	55.3	13.5	10.2
女性	339	22.4	54.9	13.9	8.8
20～29歳	37	40.5	46.0	10.8	2.7
30～39歳	71	38.0	43.7	12.7	5.6
40～49歳	62	27.4	51.7	16.1	4.8
50～59歳	87	16.1	63.3	14.9	5.7
60～69歳	66	4.5	63.7	10.6	21.2
70歳以上	16	0.0	56.2	25.0	18.8
男性	203	18.2	56.2	12.8	12.8
20～29歳	18	50.0	22.2	11.1	16.7
30～39歳	37	21.6	46.0	27.0	5.4
40～49歳	32	25.0	56.2	18.8	0.0
50～59歳	48	22.9	60.4	6.3	10.4
60～69歳	49	2.0	69.4	10.2	18.4
70歳以上	18	0.0	61.1	0.0	38.9

(7) 希望する職業や働き方（問 13）

「正社員・正職員」希望が5割弱、「パートタイム」が2割弱
 女性は「正社員・正職員」が5割弱で、「パートタイム」が3割近い
 男性は「正社員・正職員」が5割超え、「自由業」が2割近く

希望する職業や働き方は、「正社員・正職員」が49.5%と高く、あとは、「パートタイム」が18.3%、「自由業」8.7%、「商・工・サービス業などの自営業主」6.1%などである。

性別でみると、女性の希望は「正社員・正職員」が47.5%で、「パートタイム」が27.6%。一方、男性は「正社員・正職員」54.1%が高く、あとは「自由業」16.2%、

「農業、漁業・水産養殖業者」8.1%、「商・工・サービス業などの自営業主」5.4%となっている。

性別・年齢別にみると、女性は「正社員・正職員」が「20～29歳」「40～49歳」でそれぞれ59.9%（全体割合より+10.4ポイント）、70.5%（同+21.0ポイント）と高い。「パートタイム」は「30～39歳女性」で37.1%（同+18.8ポイント）と高くなっている。

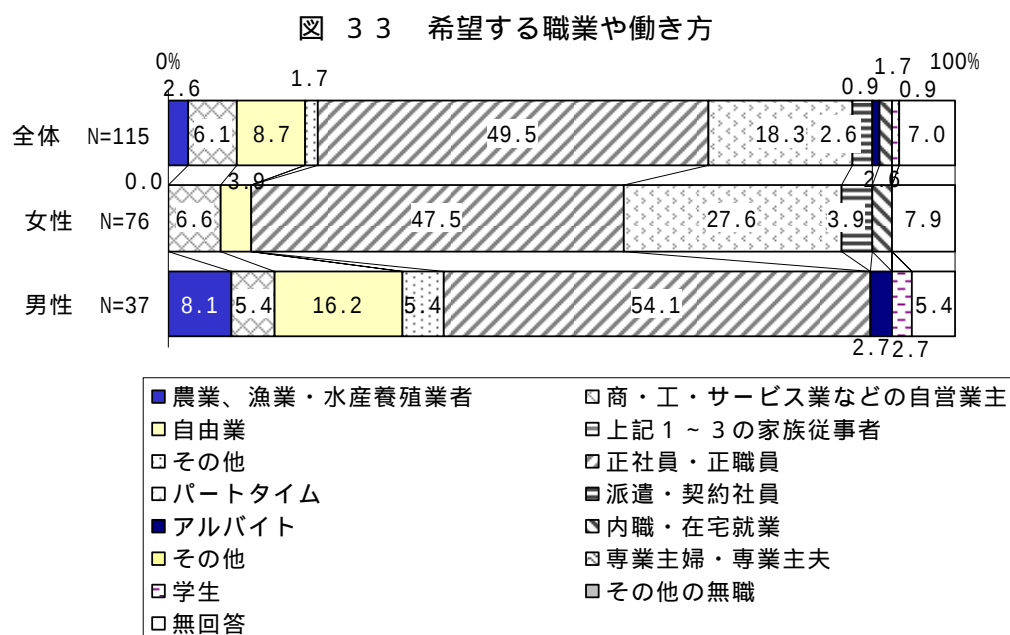


表 19 性別・年齢別にみた希望する職業や働き方

	合計	農業・漁業・水産養殖業者	商・工・サービスの事業者 自営業主	自由業	上記1～3の家族従事者	その他	正社員・正職員	パートタイム	派遣・契約社員
全体	115	2.6	6.1	8.7	0.0	1.7	49.5	18.3	2.6
女性	76	0.0	6.6	3.9	0.0	0.0	47.5	27.6	3.9
20～29歳	15	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	59.9	20.0	6.7
30～39歳	27	0.0	3.7	7.4	0.0	0.0	33.3	37.1	3.7
40～49歳	17	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	70.5	11.8	5.9
50～59歳	14	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	42.9	35.7	0.0
60～69歳	3	0.0	33.4	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
70歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性	37	8.1	5.4	16.2	0.0	5.4	54.1	0.0	0.0
20～29歳	9	0.0	11.1	11.1	0.0	11.1	55.6	0.0	0.0
30～39歳	8	12.5	0.0	12.5	0.0	12.5	62.5	0.0	0.0
40～49歳	8	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
50～59歳	11	9.1	9.1	18.2	0.0	0.0	54.5	0.0	0.0
60～69歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	合計	アルバイト	内職・在宅就業	その他	専業主婦・主夫	学生	その他無職	無回答	
全体	115	0.9	1.7	0.0	0.0	0.9	0.0	7.0	
女性	76	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	7.9	
20～29歳	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	
30～39歳	27	0.0	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	7.4	
40～49歳	17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	
50～59歳	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	
60～69歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	
70歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
男性	37	2.7	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0	5.4	
20～29歳	9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	
30～39歳	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
40～49歳	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	
50～59歳	11	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
60～69歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
70歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

(8) 希望する職業や働き方で困ること（問 14）

「勤務条件等が希望と合わない」「年齢や資格などの制限がある」「自分にあう仕事の募集が少ない」など求職と求人のミスマッチが大きい
女性では「子どもを預けられる場や人が少ない」「介護や看護の必要な家族がいる」など“雇用条件”に加えて“家庭条件”も高い割合を占める

希望する職業や働き方で困ることは、「勤務条件等が希望と合わない」46.1%がもっとも高く、次いで「年齢や資格などの制限がある」43.5%、「自分にあう仕事の募集が少ない」36.5%、「自分の能力や健康に不安がある」25.2%などである。

性別で差が大きいのは、「子どもを預けられる場や人が少ない」（女性17.1%、男性0.0%）、「勤務条件等が希望と合わない」（同50.0%、同35.1%）、「自分にあう仕事の募集が少ない」（同38.2%、同29.7%）、「年齢や資格などの制限がある」（同44.7%、同37.8%）、「介護や看護の必要な家族がいる」（同10.5%、同5.4%）などで、それぞれ17.1ポイント、14.9ポイント、8.5ポイント、6.9ポイント、5.1ポイント男性を上回っている。

逆に、「自分の能力や健康に不安がある」（男性35.1%、女性21.1%）、「家族の理解や協力が得られない」（同16.2%、同10.5%）などは男性が女性をそれぞれ14.0ポイント、5.7ポイント上回っている。

大学生アンケートと比較して、その差が大きいのは、「自分にあう仕事の募集が少ない」（大学生65.1%、市民36.5%）、「自分の能力や健康に不安がある」（同45.7%、同25.2%）、「就職に関する情報が少ない」（同27.9%、同13.9%）で、大学生が市民をそれぞれ28.6ポイント、20.5ポイント、14.0ポイント上回っている。

逆に「年齢や資格などの制限がある」（市民43.5%、大学生18.6%）、「勤務条件等が希望と合わない」（同46.1%、同24.0%）、「介護や看護の必要な家族がいる」（同8.7%、同1.6%）、「子どもを預けられる場や人がいない」（同11.3%、同6.2%）などは、市民が大学生をそれぞれ24.9ポイント、22.1ポイント、7.1ポイント、5.1ポイント上回っている。

性別・希望する職業別にみると、「自分にあう仕事の募集が少ない」が男女ともに「正社員・正職員」希望で高く、ともに50.0%（全体割合より+13.5ポイント）である。また、「勤務条件等が希望と合わない」は「パートタイム」希望の女性で高く、66.7%（同+20.6ポイント）である。「年齢や資格などの制限がある」は「正社員・正職員」希望の女性で55.6%（同+12.1ポイント）と高く、「子どもを預けられる場や人が少ない」は「パートタイム」希望の女性で23.8%（同+12.5ポイント）と高い。また、「自分の能力や健康に不安がある」は「正社員・正職員」希望の男性で40.0%（同+18.9ポイント）と高い。

図 3 4 希望する職業や働き方で困ること（あてはまるものすべて）

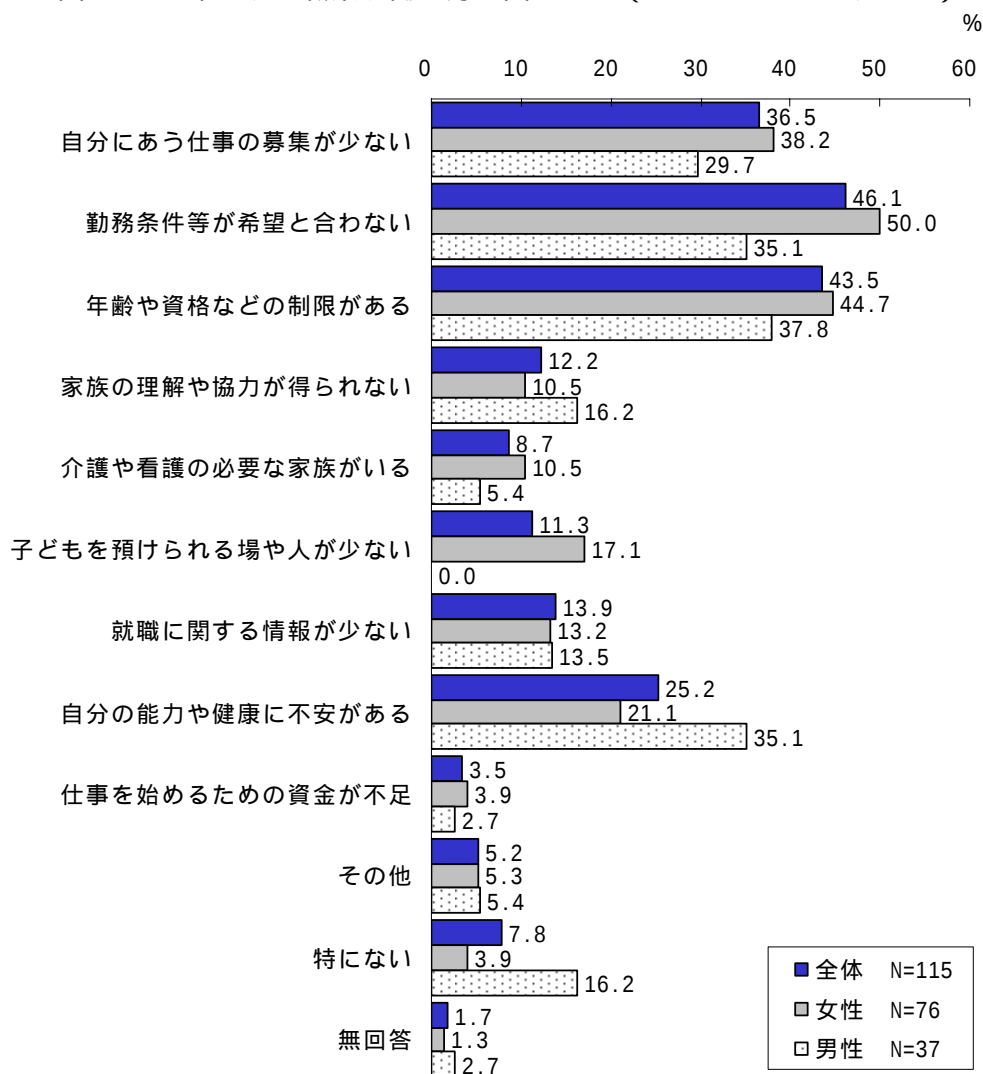


図 3 5 希望する職業や働き方で困ること（大学生アンケートとの比較）

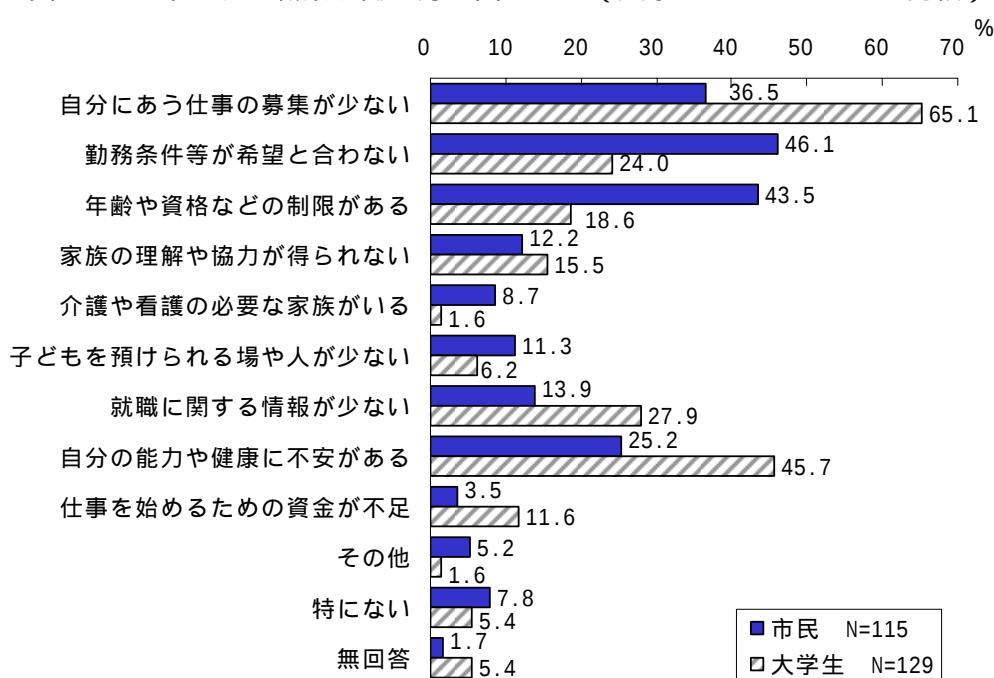


表 20 性別・希望する職業別にみた、希望する職業や働き方で困ること

		合計	自分にあ う仕事の 募集が少 ない	勤務条件 等が希望 と合わない	年齢や資 格などの 制限があ る	家族の理 解や協力 が得られ ない	介護や看 護の必要 な家族が いる	子どもを 預けられ る場や人 が少ない
希望する職業	女性	76	38.2	50.0	44.7	10.5	10.5	17.1
	商・工・サービス	5	20.0	20.0	60.0	40.0	20.0	0.0
	自由業	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	正社員・正職員	36	50.0	52.8	55.6	8.3	8.3	13.9
	パートタイム	21	23.8	66.7	33.3	14.3	14.3	23.8
	派遣・契約社員	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7
	内職・在宅就業	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
希望する職業	男性	37	29.7	35.1	37.8	16.2	5.4	0.0
	農業、漁業・水産	3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
	商・工・サービス	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	自由業	6	16.7	16.7	50.0	33.3	16.7	0.0
	その他	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	正社員・正職員	20	50.0	55.0	50.0	5.0	5.0	0.0
	アルバイト	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	学生	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		合計	就職に関 する情報 が少ない	自分の能 力や健康 に不安が ある	仕事を始 めるため の資金が 不足	そ の 他	特にない	無 回 答
希望する職業	女性	76	13.2	21.1	3.9	5.3	3.9	1.3
	商・工・サービス	5	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0
	自由業	3	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0
	正社員・正職員	36	13.9	16.7	2.8	2.8	5.6	2.8
	パートタイム	21	9.5	23.8	0.0	0.0	4.8	0.0
	派遣・契約社員	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	内職・在宅就業	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
希望する職業	男性	37	13.5	35.1	2.7	5.4	16.2	2.7
	農業、漁業・水産	3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
	商・工・サービス	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自由業	6	16.7	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0
	その他	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
	正社員・正職員	20	20.0	40.0	0.0	0.0	10.0	5.0
	アルバイト	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	学生	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

5 配偶者等からの暴力について

(1) 夫や妻、恋人から暴力を受けた経験（問 15）

女性の 3 % 弱が「命の危険、医師の治療が必要となる」暴行を経験
女性への暴力は「大声でどなられる」がもっとも多く 3 割が経験
暴力を受けた経験は、女性では 40 歳代以上で高い

「命の危険、医師の治療が必要となる」「医師の治療が必要とならない程度」の暴行を受けた“経験のある人”（「何度もあった」＋「1、2 度あった」）は、それぞれ全体の 2.6%、6.2% で、ともに、ほぼ女性となっている。

全体として、夫や妻、恋人から暴力を受けた経験（「何度もあった」＋「1、2 度あった」）の割合を高い順にみると、「大声でどなられる」23.5%（「何度もあった」8.0%＋「1、2 度あった」15.5%）、「『かいしょうなし』とか言われる」12.6%（同 3.5%＋同 9.1%）、「何を言っても無視され続ける」9.3%（同 2.7%＋同 6.6%）、「交友関係や電話を細かく監視される」9.1%（同 2.2%＋同 6.9%）の順となっている。

性別でみると、暴力を受けた経験は女性の割合が高い。女性が暴力を受けた経験は、「大声でどなられる」29.8%（同 10.0%＋同 19.8%）がもっとも高く、続いて「『かいしょうなし』とか言われる」16.5%（同 4.7%＋同 11.8%）、「性的な行為等を強要される」11.5%（同 2.1%＋同 9.4%）、「交友関係や電話を細かく監視される」11.5%（同 2.9%＋同 8.6%）、「何を言っても無視され続ける」10.0%（同 3.5%＋同 6.5%）となっている。

暴力を受けた経験（「何度もあった」＋「1、2 度あった」）のうち、女性の経験が男性を大きく上回っているものは、「大声でどなられる」、「『かいしょうなし』とか言われる」、「性的な行為等を強要される」の順となっている。

暴力の項目を「身体的暴力^{*1}」「性的暴力^{*2}」「精神的暴力^{*3}」に統合し、経験した女性の割合をみると、「身体的暴力」10.4%（「1 つでも何度もあった^{*4}」2.1%＋「1、2 度あった」8.3%）、「性的暴力」11.5%（「何度もあった」2.1%＋「1、2 度あった」9.4%）、「精神的暴力」37.5%（「1 つでも何度もあった」13.0%＋「1、2 度あった」24.5%）となっており、精神的暴力の割合が高く、4 割近い。いずれも男性を上回っている。

年齢別でみると、女性では、身体的暴力が「一つでも何度もあった」は「50～59 歳」以上で高く、性的暴力は「60～69 歳」で、精神的暴力では「40～49 歳」が特に高くなっている。暴力を受けた経験は 40 歳代以上で高く、「20～29 歳」「30～39 歳」で

* 1 「身体的暴力」とは「命の危険を感じる、医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける」「医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける」「ナイフや包丁でおどされる」を統合したもの。

* 2 「性的暴力」とは「嫌がっているのに性的な行為を強要される」。

* 3 「精神的暴力」とは「何を言っても無視され続ける」「交友関係や電話を細かく監視される」「嫌がらせ電話やメール、つきまとい等をする」「だれのおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」とか言われる」「大声でどなられる」を統合したもの。

* 4 「1 つでも何度もあった」とは、暴力の項目を統合するにあたって「何度もあった」と「1、2 度あった」の両方に回答している場合「何度もあった」を優先したために「1 つでも何度もあった」と表記している。

は「まったくない」が高くなっている。男性では、精神的暴力が「1、2度あった」は「40～49歳」で高くなっている、

図 3 6 夫や妻、恋人から暴力を受けた経験

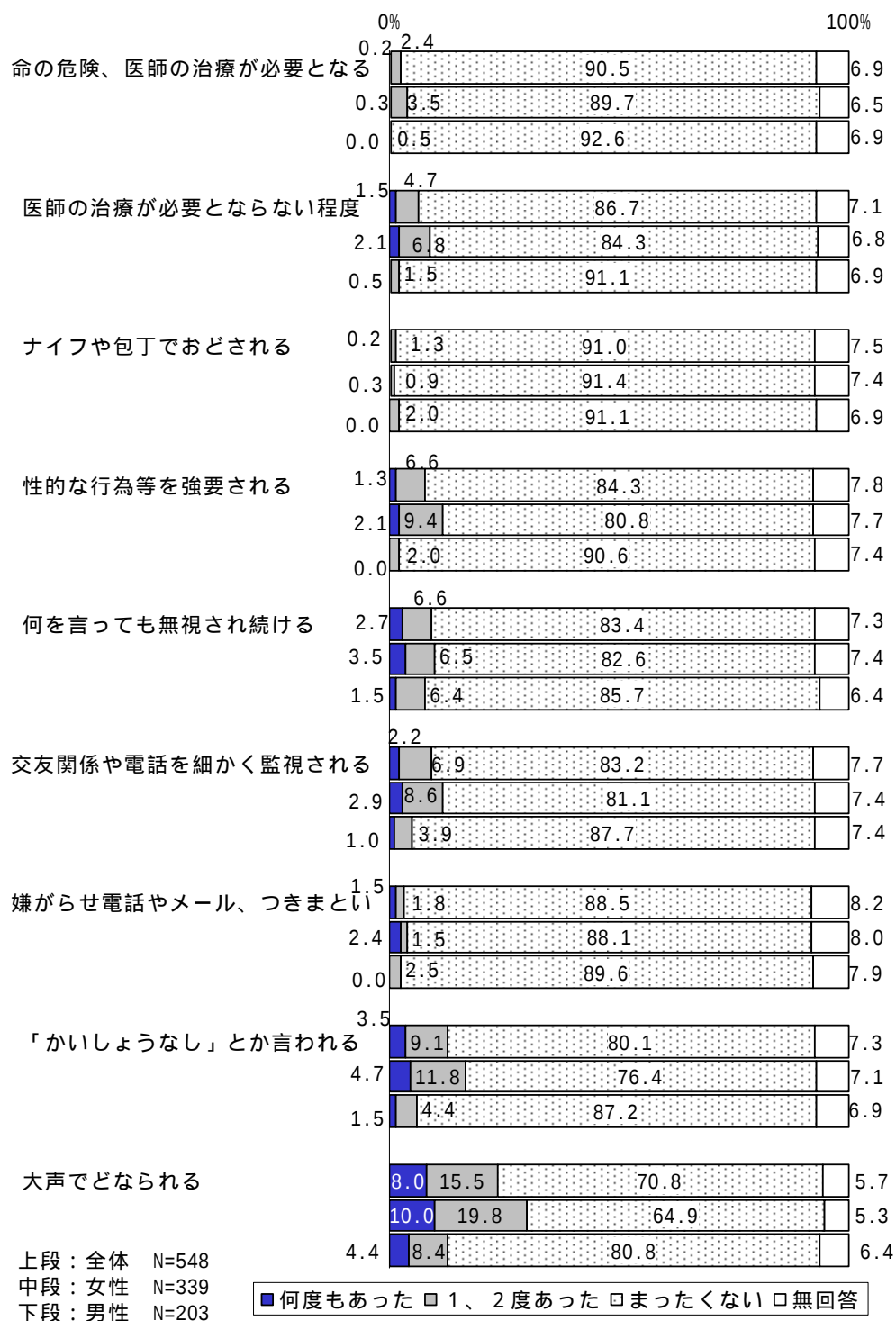


図 3 7 身体的暴力・性的暴力・精神的暴力

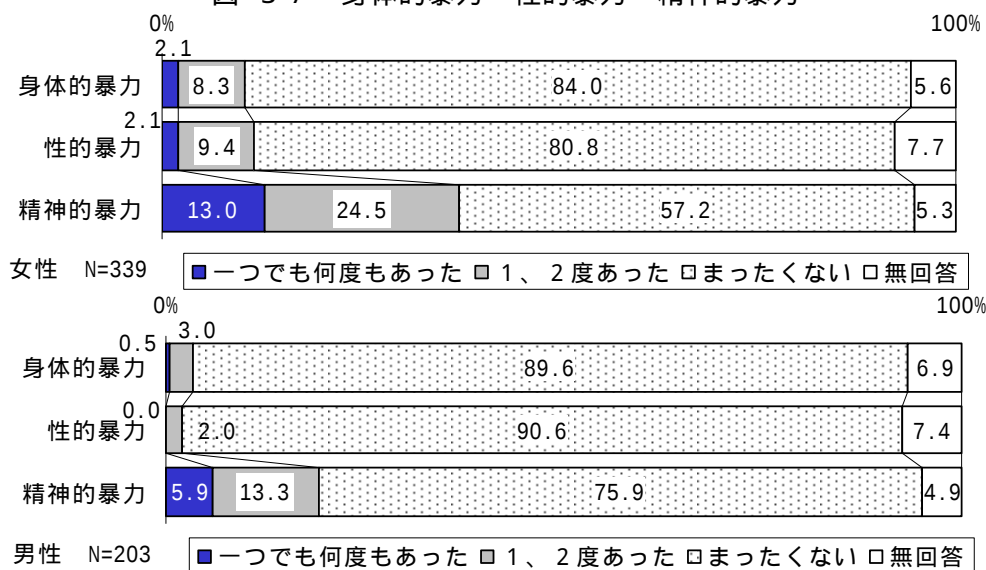


表 2 1 性別・年齢別にみた、身体的暴力

	合計	一つでも何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答		合計	一つでも何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答
全体	548	1.5	6.2	85.9	6.4	全体	548	1.5	6.2	85.9	6.4
女性	339	2.1	8.3	84.0	5.6	男性	203	0.5	3.0	89.6	6.9
20～29歳	37	0.0	2.7	91.9	5.4	20～29歳	18	0.0	5.6	88.8	5.6
30～39歳	71	0.0	4.2	94.4	1.4	30～39歳	37	0.0	5.4	91.9	2.7
40～49歳	62	0.0	14.5	82.3	3.2	40～49歳	32	0.0	3.1	93.8	3.1
50～59歳	87	4.6	10.3	81.7	3.4	50～59歳	48	2.1	0.0	91.6	6.3
60～69歳	66	3.0	7.6	78.8	10.6	60～69歳	49	0.0	0.0	91.8	8.2
70歳以上	16	6.3	6.3	62.4	25.0	70歳以上	18	0.0	11.1	72.2	16.7

表 2 2 性別・年齢別にみた、性的暴力

	合計	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答		合計	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答
全体	548	1.3	6.6	84.3	7.8	全体	548	1.3	6.6	84.3	7.8
女性	339	2.1	9.4	80.8	7.7	男性	203	0.0	2.0	90.6	7.4
20～29歳	37	0.0	10.8	83.8	5.4	20～29歳	18	0.0	0.0	94.4	5.6
30～39歳	71	0.0	4.2	93.0	2.8	30～39歳	37	0.0	5.4	91.9	2.7
40～49歳	62	3.2	14.5	77.5	4.8	40～49歳	32	0.0	0.0	96.9	3.1
50～59歳	87	2.3	10.3	82.8	4.6	50～59歳	48	0.0	0.0	93.7	6.3
60～69歳	66	4.5	7.6	72.7	15.2	60～69歳	49	0.0	2.0	87.8	10.2
70歳以上	16	0.0	12.5	56.2	31.3	70歳以上	18	0.0	5.6	77.7	16.7

表 2 3 性別・年齢別にみた、精神的暴力

	合計	一つでも何どもあった	1、2度あった	まったくない	無回答		合計	一つでも何どもあった	1、2度あった	まったくない	無回答
全体	548	10.4	20.4	64.1	5.1	全体	548	10.4	20.4	64.1	5.1
女性	339	13.0	24.5	57.2	5.3	男性	203	5.9	13.3	75.9	4.9
20～29歳	37	5.4	18.9	70.3	5.4	20～29歳	18	5.6	5.6	83.2	5.6
30～39歳	71	7.0	25.4	66.2	1.4	30～39歳	37	5.4	8.1	83.8	2.7
40～49歳	62	24.2	29.0	43.6	3.2	40～49歳	32	9.4	28.1	62.5	0.0
50～59歳	87	14.9	26.4	55.3	3.4	50～59歳	48	6.3	10.4	79.1	4.2
60～69歳	66	13.6	21.2	57.6	7.6	60～69歳	49	4.1	14.3	75.5	6.1
70歳以上	16	0.0	18.8	49.9	31.3	70歳以上	18	5.6	11.1	72.2	11.1

(2) 暴力を受けた場合の相談状況（問 16）

暴力を受けた場合に誰かに「相談した」女性は6割強

「性的暴力」を1、2度受けた女性では「相談できなかった」割合が高い
精神的暴力を何度も、また性的暴力、身体的暴力を1、2度受けた女性は「相談しようと思わなかった」割合も高い

暴力を受けた場合に誰かに「相談した」は53.2%で、「相談しようと思わなかった」が20.1%、「相談できなかった」が9.7%である。

性別でみると、「相談した」は女性で60.5%と男性（41.3%）を19.2ポイント上回る。逆に、「相談しようと思わなかった」は男性で29.1%と女性（14.5%）より14.6ポイント高い。

大学生アンケートと比較すると、「相談した」大学生は38.8%で、市民（53.2%）より14.4ポイント低い。

受けた暴力の経験別にみると、女性では、「相談できなかった」は「性的暴力」が「1、2度あった」で21.9%（全体割合より+12.2ポイント）と高く、「相談しようと思わなかった」は「身体的暴力」と「性的暴力」が「1、2度あった」で高く、それぞれ46.4%（同+26.3ポイント）、37.4%（同+17.3ポイント）である。男性では、「相談しようと思わなかった」は「精神的暴力」が「一つでも何度もあった」と「1、2度あった」で高く、それぞれ41.7%（同+21.6ポイント）、37.1%（同+17.0ポイント）である。また、暴力の経験がまったくない女性では「相談した」を想定する割合が高い。

図 3 8 暴力を受けた場合の相談状況

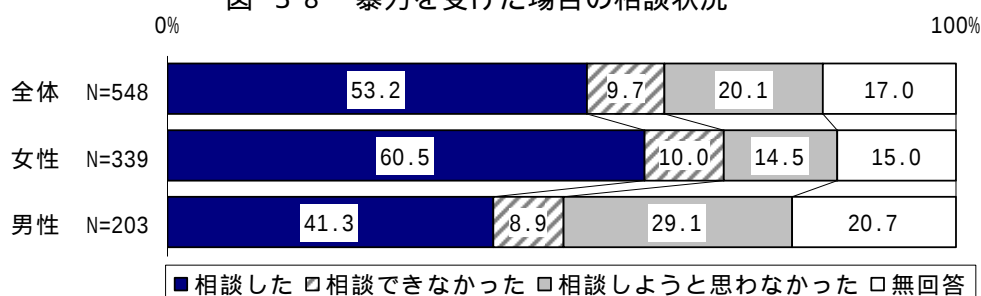


図 3 9 相談状況（大学生アンケートとの比較）

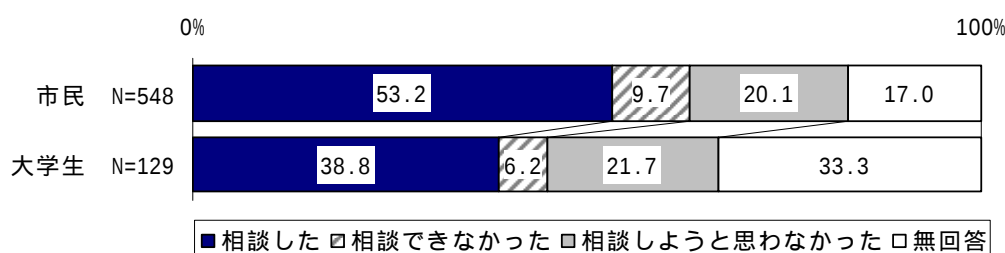


表 2 4 性別・受けた暴力の経験別にみた相談状況

		合計	相談した	相談できなかった	相談しようと思わなかった	無 回 答
	全体	548	53.2	9.7	20.1	17
	女性	339	60.5	10.0	14.5	15.0
身体的暴力	一つでも何度もあった	7	14.3	57.1	28.6	0.0
	1、2度あった	28	42.9	7.1	46.4	3.6
	まったくない	285	65.6	9.5	10.9	14.0
性的暴力	何度もあった	7	14.3	28.6	57.1	0.0
	1、2度あった	32	34.4	21.9	37.4	6.3
	まったくない	274	67.9	8.0	11.3	12.8
精神的暴力	一つでも何度もあった	44	47.7	18.2	25.0	9.1
	1、2度あった	83	53.0	13.3	24.1	9.6
	まったくない	194	70.2	7.2	8.2	14.4
	男性	203	41.3	8.9	29.1	20.7
身体的暴力	一つでも何度もあった	1	100.0	0.0	0.0	0.0
	1、2度あった	6	0.0	16.7	83.3	0.0
	まったくない	182	43.9	8.8	28.6	18.7
性的暴力	何度もあった	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1、2度あった	4	0.0	25.0	75.0	0.0
	まったくない	184	44.1	8.7	29.3	17.9
精神的暴力	一つでも何度もあった	12	33.3	16.7	41.7	8.3
	1、2度あった	27	29.6	7.4	37.1	25.9
	まったくない	154	45.5	9.1	27.9	17.5

(3) 暴力を受けた場合の相談先（問 17）

「家族・親戚」、「友人・知人」など身近な人へ相談する傾向
 身近な人以外では、男性は「警察」、女性は「婦人相談センター」の割合が高い

暴力を受けた場合の相談先は、「家族・親戚」が71.2%、「友人・知人」が57.5%と高く、次いで「婦人相談センター・女性総合センター」18.2%、「警察」14.0%となっている。男女とも相談先は「家族・親戚」（女性74.1%、男性65.5%）、「友人・知人」（同57.6%、同59.5%）など身近な人の割合が高く、公的な場では、女性は「婦人相談センター・女性総合センター」（同23.9%、同2.4%）の割合が高く、男性は「警察」（同12.2%、同17.9%）である。

大学生アンケートと比較すると、大学生の相談先は「友人・知人」が82.0%と高く、市民（57.5%）より24.5ポイント上回る。

受けた暴力の経験別にみた相談先をみると、女性では、暴力の種類・経験の有無に

かかわらず「家族・親戚」や「友人・知人」が高く、あとは「婦人相談センター等」に相談する傾向である。男性では「家族・親戚」や「友人・知人」に次いで「警察」を挙げている。

図 4 0 暴力を受けた場合の相談先（あてはまるものすべて）

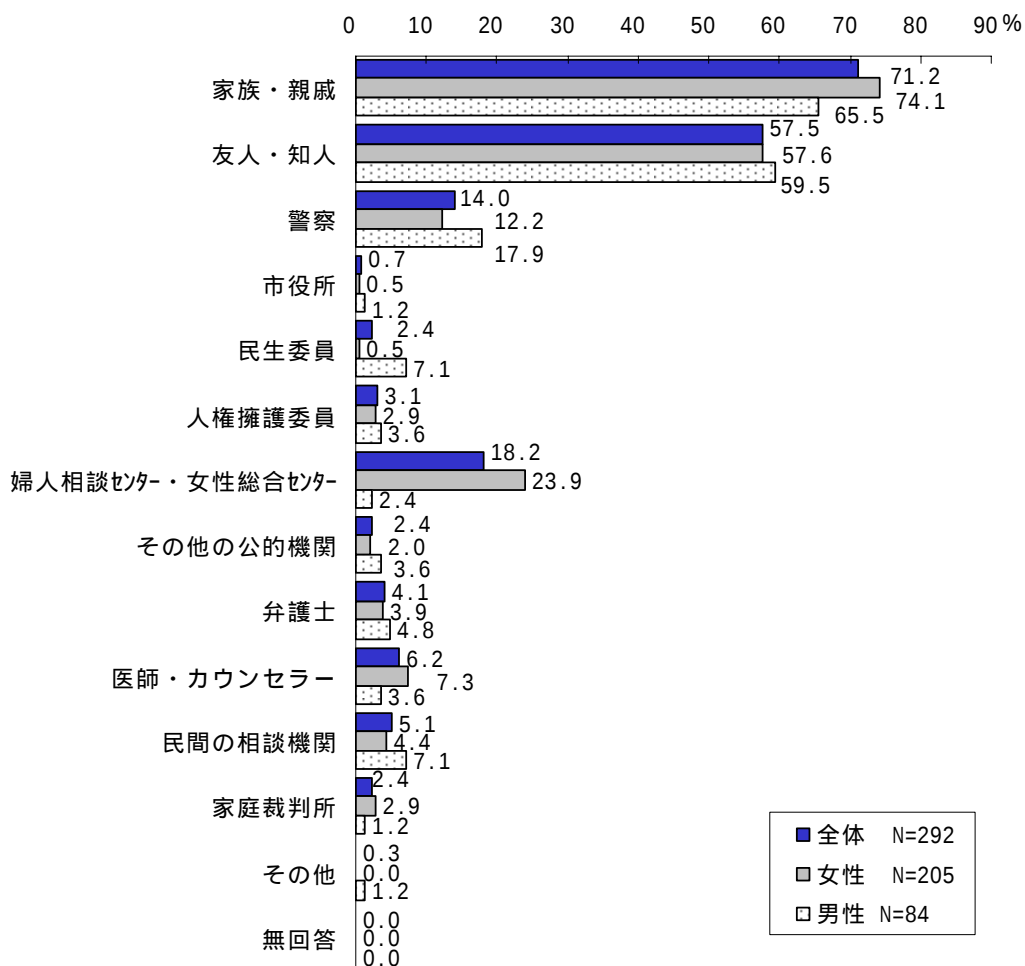


図 4 1 暴力を受けた場合の相談先（大学生アンケートとの比較）

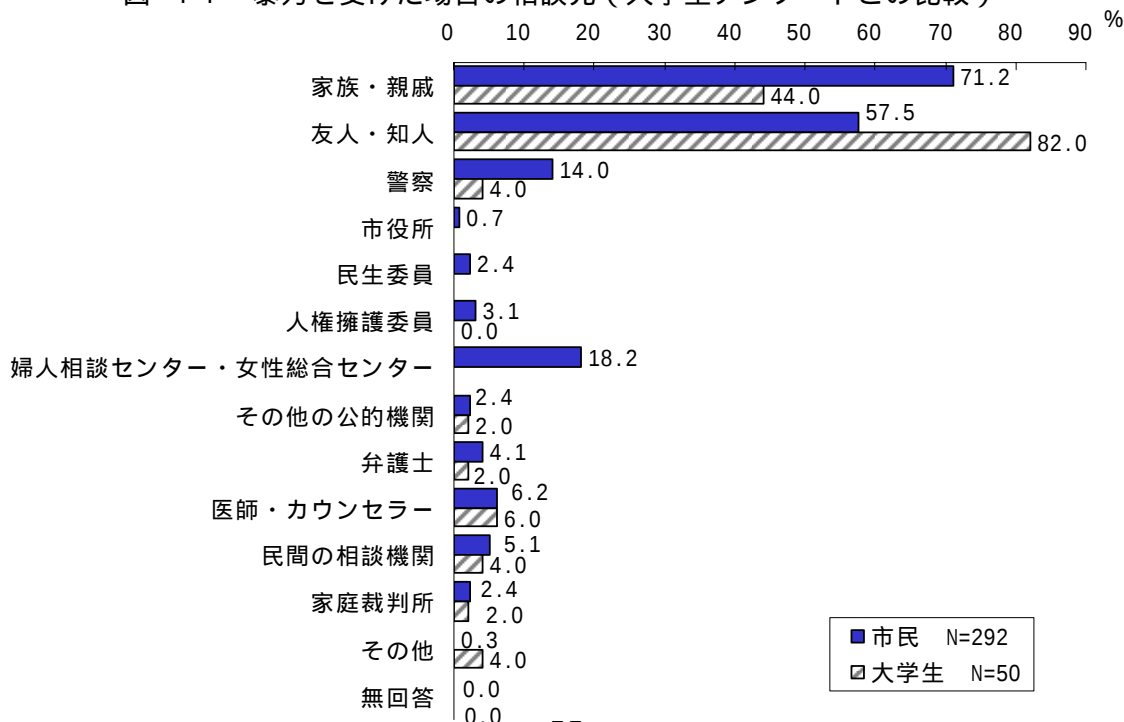


表 2 5 性別・受けた暴力の経験別にみた相談先

女性		合計	暴力を受けた場合の相談先		
身体的暴力	一つでも何度もあった		1位	2位	3位
		1	家族・親戚 100.0		
	1、2度あった	12	家族・親戚 66.7	友人・知人 41.7	警察／婦人相談センター等／家庭裁判所 8.3
	まったくない	107	家族・親戚 73.8	友人・知人 59.4	婦人相談センター等 25.7
性的暴力	何度もあった	1	家族・親戚 100.0		
	1、2度あった	11	家族・親戚 72.7	友人・知人 54.5	婦人相談センター等 27.3
	まったくない	186	家族・親戚 73.1	友人・知人 59.1	婦人相談センター等 24.7
精神的暴力	一つでも何度もあった	21	家族・親戚 57.1	友人・知人 52.4	婦人相談センター等 33.3
	1、2度あった	44	家族・親戚 76.5	友人・知人 56.8	婦人相談センター等 22.7
	まったくない	136	家族・親戚 74.3	友人・知人 58.8	婦人相談センター等 23.5

男性		合計	暴力を受けた場合の相談先		
身体的暴力			1位	2位	3位
	一つでも何度もあった	1	警察／医師／カウンセラー 100.0		
	1、2度あった	0			
性的暴力	まったくない	80	家族・親戚 65.0	友人・知人 61.3	警察 15.0
	何度もあった	0			
	1、2度あった	0			
精神的暴力	まったくない	81	家族・親戚 64.2	友人・知人 60.5	警察 16.0
	一つでも何度もあった	4	警察 50.0	家族・親戚／友人・知人／医師・カウンセラー 25.0	
	1、2度あった	8	友人・知人 75.0	家族・親戚 62.5	警察／民間の相談機関 12.5
	まったくない	70	家族・親戚 67.1	友人・知人 60.0	警察 14.3

(4) 暴力を受けても相談しない理由（問 18）

相談しない理由は「相談しても無駄だと思う」が3割強

女性では「相談しても無駄だと思う」、「自分さえ我慢すれば」、「恥ずかしくて誰にも言えない」などが高い

性別で意見が違ふ項目は、女性は「恥ずかしくて誰にも言えない」、男性は「相談するほどのことではない」がより高い傾向

暴力を受けても相談しない理由として、「相談しても無駄だと思う」が31.3%でもっとも高く、あとは「相談するほどのことではない」28.2%、「自分さえ我慢すれば」25.2%、「誰に相談してよいのかわからない」23.3%、「恥ずかしくて誰にも言えない」22.1%などがあげられている。

女性の理由をみると、「相談しても無駄だと思う」34.9%、「自分さえ我慢すれば」31.3%、「恥ずかしくて誰にも言えない」28.9%などが高い。性別で意見が違ふ項目のうち、女性の割合が高いのは「恥ずかしく誰にも言えない」「自分さえ我慢すれば」

「仕返しやもっとひどい暴力になる」「相談しても無駄だと思う」などで、それぞれ13.3ポイント、11.8ポイント、11.5ポイント、7.6ポイント男性を上回っている。逆に、男性が高いのは「相談するほどのことではない」で女性を13.4ポイント上回っている。

受けた暴力の経験別にみると、女性では「恥ずかしくて誰にも言えない」は、「精神的暴力」が「一つでも何度もあった」と「1、2度あった」で高く、それぞれ42.1%（全体割合より+20.0ポイント）、32.3%（同+10.2ポイント）である。「相談しても無駄だと思う」は、「性的暴力」が「1、2度あった」と「精神的暴力」が「一つでも何度もあった」で高く、それぞれ52.6%（同+21.3ポイント）、52.6%（同+21.3ポイント）である。「自分さえ我慢すれば」は「性的暴力」が「1、2度あった」と「精神的暴力」が「一つでも何度もあった」「1、2度あった」で高く、それぞれ42.1%（同+16.9ポイント）、47.4%（同+22.2ポイント）、35.5%（同+10.3ポイント）である。「世間体が悪いと思う」は、「精神的暴力」が「一つでも何度でもあった」で42.1%（同+27.4ポイント）と高い。「他人を巻き込みたくない」は、「身体的暴力」が「1、2度あった」で高く、26.7%（同+10.1ポイント）である。「自分に悪いところがあると思うから」は、「身体的暴力」が「1、2度あった」で33.3%（同+13.7ポイント）と高い。

図 4 2 暴力を受けても相談しない理由（あてはまるものすべて）

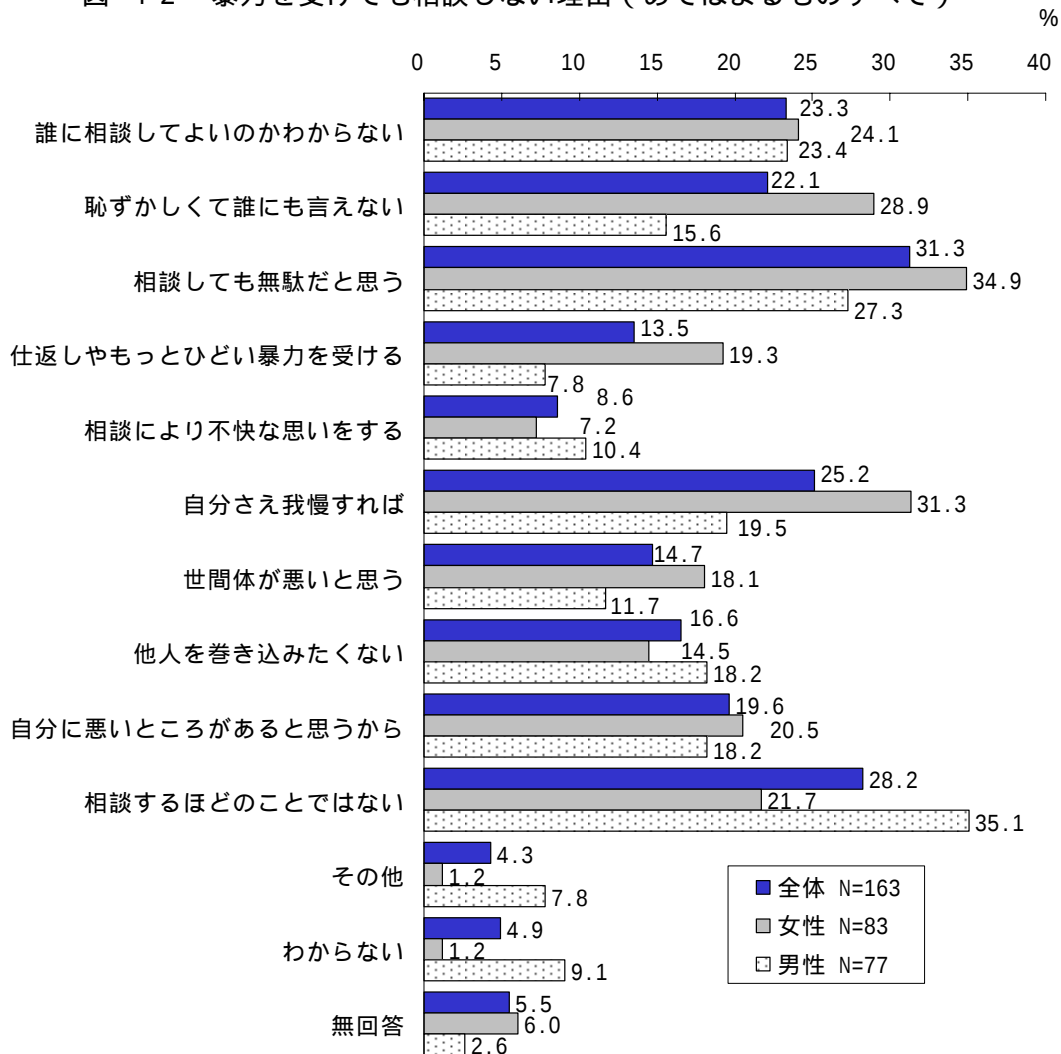


表 26 受けた暴力の経験別にみた暴力を受けても相談しない理由

	合計	誰に相談してよいかわからない	恥ずかしくて誰にも言えない	相談しても無駄だと思う	仕返しやもっとひどい暴力を受ける	相談により不快な思いをする	自分さえ我慢すれば	世間体が悪いと思う
全体	163	23.3	22.1	31.3	13.5	8.6	25.2	14.7
女性	83	24.1	28.9	34.9	19.3	7.2	31.3	18.1
身体的暴力	一つでも何度もあった	6	16.7	50.0	16.7	50.0	0.0	83.3
	1、2度あった	15	13.3	20.0	40.0	6.7	13.3	33.3
	まったくない	58	29.3	29.3	34.5	20.7	5.2	24.1
性的暴力	何度もあった	6	16.7	33.3	66.7	0.0	0.0	50.0
	1、2度あった	19	15.8	31.6	52.6	15.8	0.0	42.1
	まったくない	53	30.2	26.4	24.5	22.6	9.4	20.8
精神的暴力	一つでも何度もあった	19	15.8	42.1	52.6	21.1	5.3	47.4
	1、2度あった	31	16.1	32.3	35.5	16.1	6.5	35.5
	まったくない	30	40.0	16.7	20.0	23.3	6.7	13.3
男性	77	23.4	15.6	27.3	7.8	10.4	19.5	11.7
身体的暴力	一つでも何度もあった	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1、2度あった	6	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	33.3
	まったくない	68	26.5	16.2	25.0	8.8	11.8	19.1
性的暴力	何度もあった	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1、2度あった	4	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	75.0
	まったくない	70	25.7	15.7	24.3	8.6	11.4	17.1
精神的暴力	一つでも何度もあった	7	0.0	14.3	42.9	0.0	0.0	42.9
	1、2度あった	12	25.0	25.0	25.0	8.3	8.3	8.3
	まったくない	57	26.3	14.0	24.6	8.8	12.3	19.3
	合計	他人を巻き込みたくない	自分に悪いところがあると思うから	相談するほどのことではない	その他	わからない	無回答	
全体	163	16.6	19.6	28.2	4.3	4.9	5.5	
女性	83	14.5	20.5	21.7	1.2	1.2	6.0	
身体的暴力	一つでも何度もあった	6	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0	
	1、2度あった	15	26.7	33.3	26.7	0.0	13.3	
	まったくない	58	10.3	13.8	22.4	1.7	3.4	
性的暴力	何度もあった	6	0.0	66.7	0.0	0.0	16.7	
	1、2度あった	19	10.5	21.1	36.8	0.0	0.0	
	まったくない	53	15.1	15.1	20.8	1.9	7.5	
精神的暴力	一つでも何度もあった	19	26.3	26.3	10.5	0.0	10.5	
	1、2度あった	31	16.1	22.6	29.0	0.0	3.2	
	まったくない	30	6.7	13.3	23.3	3.3	6.7	
男性	77	18.2	18.2	35.1	7.8	9.1	2.6	
身体的暴力	一つでも何度もあった	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	1、2度あった	6	0.0	33.3	50.0	16.7	0.0	
	まったくない	68	20.6	17.6	35.3	5.9	2.9	
性的暴力	何度もあった	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	1、2度あった	4	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	
	まったくない	70	20.0	17.1	35.7	7.1	2.9	
精神的暴力	一つでも何度もあった	7	0.0	42.9	71.4	14.3	0.0	
	1、2度あった	12	8.3	16.7	33.3	16.7	0.0	
	まったくない	57	22.8	15.8	31.6	5.3	3.5	

(5) 子どもへの虐待（問 19）

子どもへの虐待「していた」が1.5%、「していたかもしれない」が16.2%
暴力を受けた経験がある女性で、虐待をしていたかもしれないと思う割合が
高い

子どもへの虐待について、「していたと思う」1.5%、「していたかもしれないと思う」16.2%である。

性別でみると、「していたと思う」は女性1.8%、男性1.0%で女性が0.8ポイント上回る。「していたかもしれない」も女性20.1%、男性10.3%で、女性が9.8ポイント上回る。

受けた暴力の経験別にみると、女性では、「していたかもしれないと思う」は、身体的暴力と性的暴力が「1、2度あった」と精神的暴力が「一つでも何度もあった」で高く、それぞれ42.9%（全体割合より+26.7ポイント）、34.3%（同+18.1ポイント）、31.8%（同+15.6ポイント）である。

図 4 3 子どもへの虐待

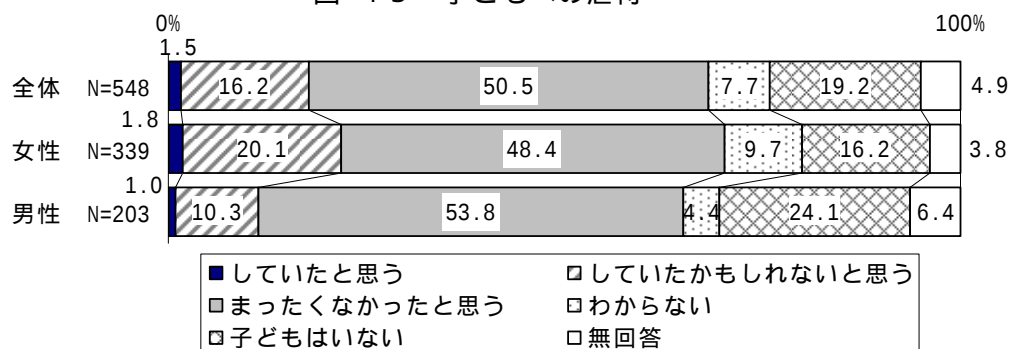


表 27 性別・受けた暴力の経験別にみた子どもへの虐待

	合計	していた と思う	していた かもしれない と思う	まったく なかった と思う	わ か ら な い	子どもは いない	無 回 答
全体	548	1.5	16.2	50.5	7.7	19.2	4.9
女性	339	1.8	20.1	48.4	9.7	16.2	3.8
身 体 的 暴 力	一つでも何度もあった	7	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	1、2度あった	28	0.0	42.9	32.1	25.0	0.0
	まったくない	285	2.1	18.2	49.9	8.4	19.3
性 力 的 暴 力	何度もあった	7	0.0	57.1	14.3	28.6	0.0
	1、2度あった	32	3.1	34.3	31.3	12.5	18.8
	まったくない	274	1.8	17.5	52.6	8.4	17.5
精 神 的 暴 力	一つでも何度もあった	44	4.5	31.8	47.8	6.8	9.1
	1、2度あった	83	1.2	25.3	44.6	16.9	12.0
	まったくない	194	1.5	15.5	52.1	7.2	20.6
男性	203	1.0	10.3	53.8	4.4	24.1	6.4
身 体 的 暴 力	一つでも何度もあった	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	1、2度あった	6	0.0	33.3	16.7	0.0	50.0
	まったくない	182	1.1	9.9	56.1	4.9	23.1
性 力 的 暴 力	何度もあった	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1、2度あった	4	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0
	まったくない	184	1.1	10.3	55.4	4.9	23.4
精 神 的 暴 力	一つでも何度もあった	12	0.0	25.0	58.3	0.0	16.7
	1、2度あった	27	3.7	18.5	33.4	11.1	22.2
	まったくない	154	0.6	8.4	57.9	3.9	25.3

6 男女共同参画社会について

(1) 分野別の男女の地位の平等について（問 20）

男女平等度は「学校教育」で高い

「職場」「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」は男女ともに“男性優遇”の意見が高い

“男性優遇”は全ての分野・年齢層にわたって女性で高い傾向

分野別の男女の地位の平等について、「平等」がもっとも高い分野は、「学校教育の場」59.5%で、あとは「法律や制度の上」31.1%、「家庭生活」21.0%などである。“男性優遇”（「男性の方が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性の方が優遇」）は、「学校教育の場」を除くすべての分野で高い。特に、「職場」「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」では“男性優遇”の割合が高く、それぞれ76.5%、72.0%、69.9%である。

性別でみると、「社会通念・慣習・しきたりなど」「職場」「政治の場」などの“男性優遇”の割合は、男女で大きな開きがないが、「法律や制度の上」「家庭生活」「学校」などの“男性優遇”の割合は、女性が男性をそれぞれ12.6ポイント、10.9ポイント、9.1ポイント上回っている。

世論調査と比べると、「家庭生活」で“男性優遇”の割合が59.0%（同17.5%＋同41.5%）で、世論調査49.3%（同＋10.8%＋同38.5%）より10ポイント程高い。

中学生・大学生アンケートと比較すると、「政治の場」の“男性優遇”の割合は、大学生が82.2%（同48.9%＋同33.3%）で、市民72.0%（同34.7%＋同37.3%）、中学生45.9%（同17.5%＋同28.4%）よりもそれぞれ10.2ポイント、36.3ポイント高い。また、中学生では「社会通念・慣習・しきたり」を「平等」とする割合が39.3%で、市民11.7%、大学生11.6%に比べ30ポイント近く高い。

性別・年齢別にみると、“男性優遇”は全ての分野・年齢層にわたって女性で高い傾向がみられる。男女による意見の分離は、「家庭生活」が30～60歳代で、「職場」「政治の場」「法律や制度」「社会通念・慣習・しきたりなど」が40～50歳代で大きいことがわかる。

図 4 4 分野別の男女の地位の平等について

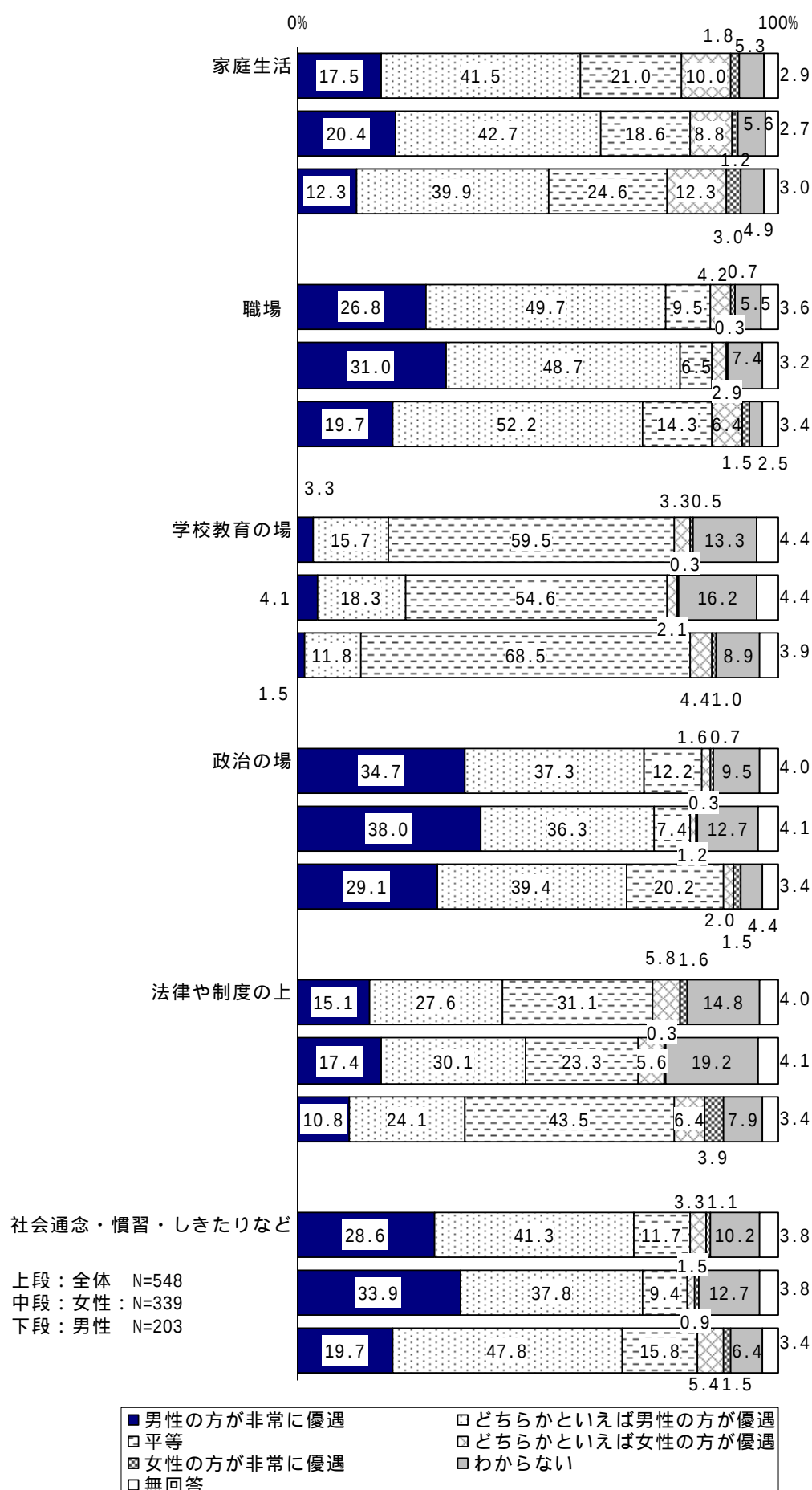


表 28 分野別の男女の地位の平等について（世論調査との比較）

上段：北名古屋市 全体 N=548 下段：世論調査 全体 N=3,502	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
家庭生活	17.5	41.5	21.0	10.0	1.8	5.3	2.9
	10.8	38.5	39.9	6.7	1.4	2.6	
職場（労働上で）	26.8	49.7	9.5	4.2	0.7	5.5	3.6
	16.7	42.7	25.0	3.7	0.5	11.3	
学校教育の場	3.3	15.7	59.5	3.3	0.5	13.3	4.4
	2.3	11.4	66.8	3.1	0.4	16.0	
政治の場	34.7	37.3	12.2	1.6	0.7	9.5	4.0
	30.9	41.0	19.7	1.1	0.2	7.1	
法律や制度の上	15.1	27.6	31.1	5.8	1.6	14.8	4.0
	11.7	34.4	39.3	4.3	0.8	9.5	
社会通念・慣習・しきたり	28.6	41.3	11.7	3.3	1.1	10.2	3.8
	24.1	50.6	17.2	2.9	0.3	4.8	

図 45 分野別の男女の地位の平等について（中学生・大学生アンケートとの比較）

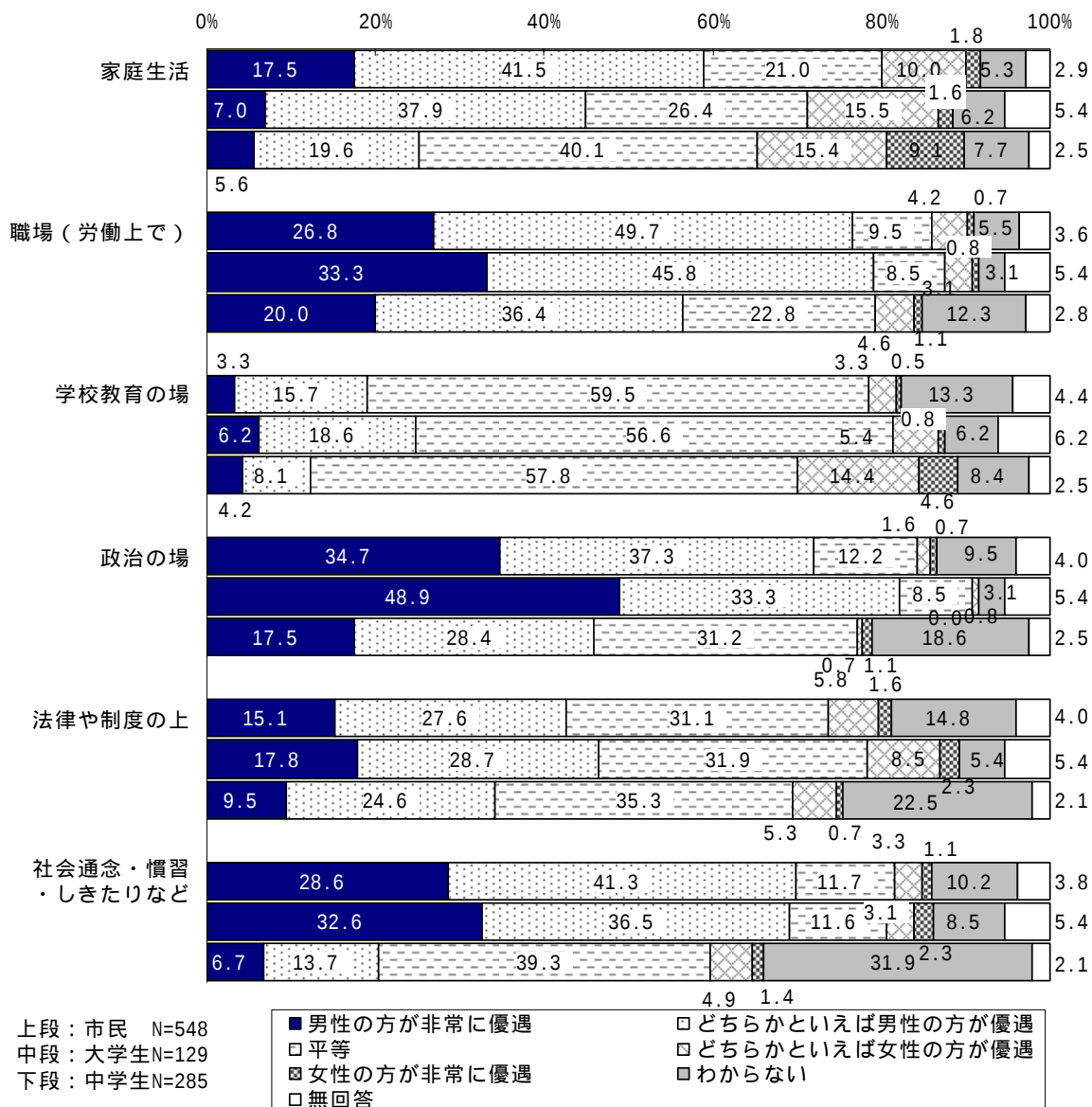
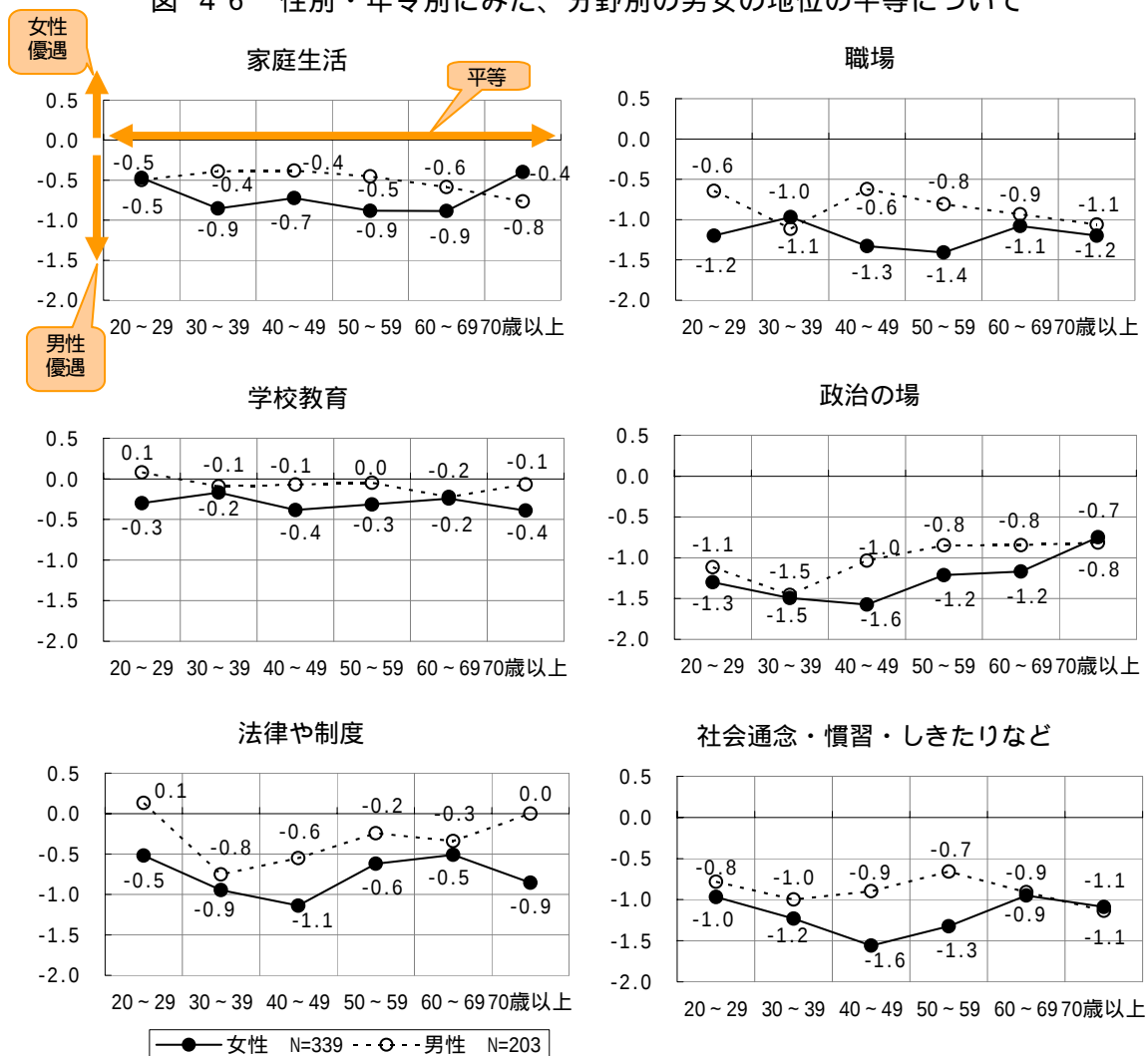


図 4 6 性別・年齢別にみた、分野別の男女の地位の平等について



「男性の方が非常に優遇」が(-2)、「どちらかといえば男性の方が優遇」が(-1)、「平等」が(0)、「どちらかといえば女性の方が優遇」が(+1)、「女性の方が非常に優遇」が(+2)として平均値を算出している。

(2) 社会全般の男女の地位は平等か (問 21)

社会全般の男女の地位の平等について “ 男性優遇 ” の割合は 7 割を超える
 平等は 1 割未満
 社会全般の男女の地位は “ 男性優遇 ” と回答した割合は女性が高い

社会全般の男女の地位は平等かについて、「平等」は9.1%で、“男性優遇”(「男性の方が非常に優遇」11.7% + 「どちらかといえば男性の方が優遇」62.4%)の割合は74.1%と高い。

性別でみると、女性の“男性優遇”の割合は76.7%(同12.4% + 同64.3%)で、男性の70.5%(同10.3% + 同60.2%)を6.2ポイント上回る。逆に「平等」は女性7.1%で、男性12.3%である。

大学生アンケートと比較すると、“男性優遇”の割合は、大学生 70.5%(同 8.5% + 同 62.0%)で、市民 74.1%(同 11.7% + 同 62.4%)より 3.6 ポイント下回り、「平等」は市民 9.1%に対し、大学生は 12.4%で 3.3 ポイント上回っている。

性別・年齢別にみると、「男性の方が非常に優遇」は「20～29 歳男性」で 22.2%(全体割合より + 10.5 ポイント)、「どちらかといえば男性の方が優遇」は「30～39 歳男性」で 73.0%(同 + 10.6 ポイント)と高く、一方、「どちらかといえば女性の方が優遇」は「20～29 歳男性」16.7%(同 + 11.6 ポイント)と、「70 歳以上男性」で 16.7%(同 + 11.6 ポイント)と高くなっている。

図 4 7 社会全般の男女の地位は平等か

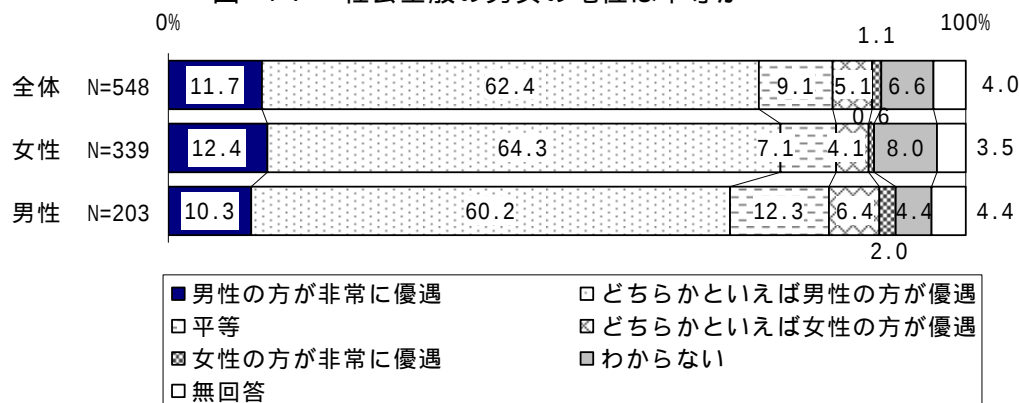


図 4 8 社会全般の男女の地位は平等か (大学生アンケートとの比較)

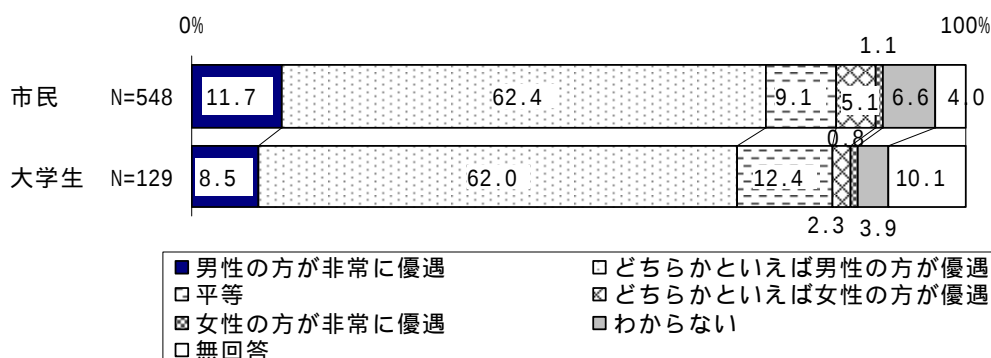


表 2 9 性別・年齢別にみた、社会全般の男女の地位は平等か

	合計	男性の方が非常に優	どちらかといえば男性の方が優遇	平 等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が非常に優	わ か ら い	無 回 答
全体	548	11.7	62.4	9.1	5.1	1.1	6.6	4.0
女性	339	12.4	64.3	7.1	4.1	0.6	8.0	3.5
20～29歳	37	5.4	56.8	16.2	8.1	0.0	13.5	0.0
30～39歳	71	15.5	67.6	4.2	2.8	0.0	8.5	1.4
40～49歳	62	14.5	67.7	1.6	1.6	1.6	6.5	6.5
50～59歳	87	8.0	70.3	10.3	3.4	0.0	5.7	2.3
60～69歳	66	16.7	55.9	7.6	6.1	0.0	6.1	7.6
70歳以上	16	12.5	56.1	0.0	6.3	6.3	18.8	0.0
男性	203	10.3	60.2	12.3	6.4	2.0	4.4	4.4
20～29歳	18	22.2	44.4	0.0	16.7	5.6	11.1	0.0
30～39歳	37	8.1	73.0	10.8	2.7	0.0	2.7	2.7
40～49歳	32	12.5	53.0	9.4	9.4	6.3	6.3	3.1
50～59歳	48	10.4	56.1	18.8	2.1	2.1	4.2	6.3
60～69歳	49	8.2	61.1	14.3	4.1	0.0	4.1	8.2
70歳以上	18	5.6	66.6	11.1	16.7	0.0	0.0	0.0

(3) 将来、社会全般で男女の地位平等について（問 22）

将来「平等になってほしい」は5割強で、「現状のままでよい」は3割弱
「現状のままでよい」は男性の方がやや高い
「平等になってほしい」は50歳代の男性で高い

将来、社会全般の男女の地位平等について、「平等になってほしい」は53.3%、「現状のままでよい」28.2%である。

性別で見ると、「現状のままでよい」の割合が男性30.8%で、女性の26.4%を4.4ポイント上回っている。

大学生アンケートと比較すると、「現状のままでよい」の割合が大学生は17.0%で、市民の28.2%より11.2ポイント下回っている。

性別・年齢別にみると、「平等になってほしい」は「50～59歳男性」で66.7%（全体割合より+13.4ポイント）と高くなっている。

図 4 9 将来、社会全般で男女の地位平等について

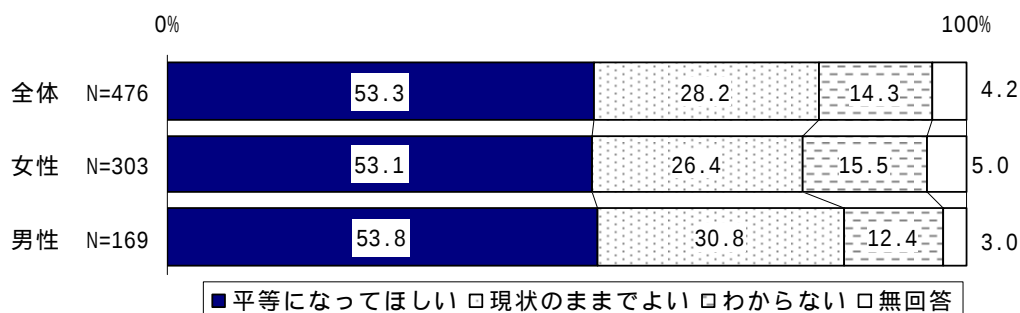


図 5 0 将来、社会全般で男女の地位平等について（大学生アンケートとの比較）

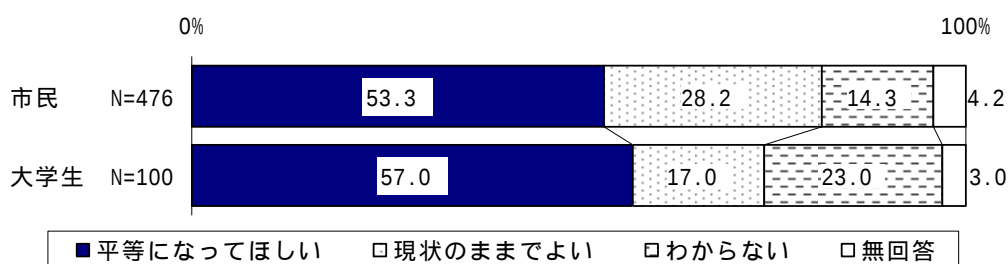


表 3 0 性別・年齢別にみた、将来、社会全般での男女の地位平等

	合計	平 等 に な っ て ほ し い	現 状 の ま ま で よ い	わ か ら な い	無 回 答
全体	476	53.3	28.2	14.3	4.2
女性	303	53.1	26.4	15.5	5.0
20～29歳	31	58.1	29.0	12.9	0.0
30～39歳	67	52.2	22.4	22.4	3.0
40～49歳	57	57.9	17.5	22.8	1.8
50～59歳	76	50.0	28.9	14.5	6.6
60～69歳	56	48.3	33.9	7.1	10.7
70歳以上	16	62.4	31.3	0.0	6.3
男性	169	53.8	30.8	12.4	3.0
20～29歳	18	50.0	33.3	16.7	0.0
30～39歳	32	43.7	34.4	21.9	0.0
40～49歳	28	53.6	32.1	14.3	0.0
50～59歳	36	66.7	19.4	8.3	5.6
60～69歳	38	50.0	31.6	10.5	7.9
70歳以上	16	62.5	37.5	0.0	0.0

(4) 男女共同参画社会の情報を得る機会の有無（問 23）

情報を得る機会が「ほとんどない」は4割近い
 情報を得る機会は男性より女性が少ない

男女共同参画社会の情報を得る機会の有無について、“ある”（「よくある」2.7% + 「ときどきある」17.9%）が20.6%で、“ない”（「あまりない」35.8% + 「ほとんどない」38.7%）は74.5%である。

性別でみると、“ある”は女性18.0%（「よくある」1.2% + 「ときどきある」16.8%）男性24.1%（同5.4% + 同18.7%）で男性が6.1ポイント上回る。逆に“ない”は女性77.9%（「あまりない」39.0% + 「ほとんどない」38.9%）、男性70.0%（同31.5% + 同38.5%）で、女性が7.9ポイント上回る。

「男女共同参画意識に関する調査」（以下、県調査という。）と比較すると、“ある”（「よくある」+「ときどきある」）は20.6%で、全県14.1%（同2.6% + 同11.5%）よりも6.5ポイント高い。

大学生アンケートと比較すると、“ない”は市民74.5%（「あまりない」35.8% + 「ほとんどない」38.7%）、大学生65.9%（同41.1% + 同24.8%）で、市民より大学生が情報を得る機会は多いことが伺える。

性別・職業（統合）別にみると、「よくある」と「ときどきある」は「無職男性」でそれぞれ15.0%（全体割合より+12.3ポイント）、35.0%（同+17.1ポイント）と高い。「あまりない」は「家族従事者女性」で47.4%（同+11.6ポイント）と高くなっている。

図 5 1 男女共同参画社会の情報を得る機会の有無

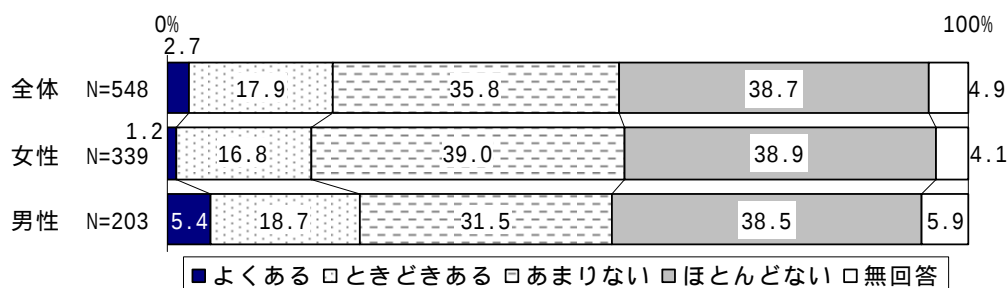


表 3 1 男女共同参画社会の情報を得る機会（県調査との比較）

	北名古屋市アンケート			全県
	全体 N=548	女性 N=339	男性 N=203	全体 N=1,016
よくある	2.7	1.2	5.4	2.6
ときどきある	17.9	16.8	18.7	11.5
あまりない	35.8	39.0	31.5	38.5
ほとんどない	38.7	38.9	38.5	47.1
無回答	4.9	4.1	5.9	0.3

「男女共同参画意識に関する調査」（平成11年2月）愛知県在住の満20歳以上の男女4,195人対象。郵送配布、郵送回収。1,016票回収（有効回答率24.2%）

図 5 2 男女共同参画社会の情報を得る機会（大学生アンケートとの比較）

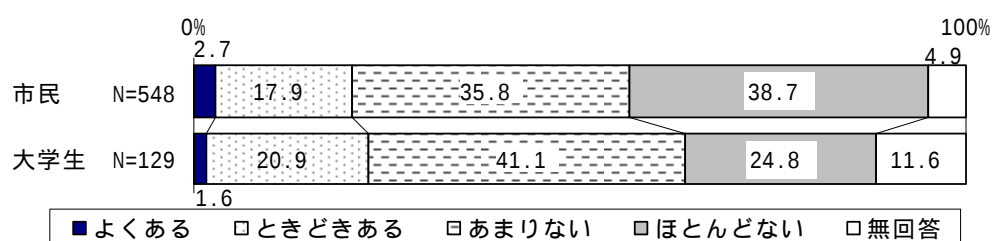


表 3 2 性別・職業（統合）別にみた男女共同参画社会の情報を得る機会

	合計	よくある	ときどきある	あまりない	ほとんどない	無回答
全体	548	2.7	17.9	35.8	38.7	4.9
女性	339	1.2	16.8	39.0	38.9	4.1
自営・自由業	21	4.8	14.3	42.8	33.3	4.8
家族従事者	19	0.0	10.5	47.4	42.1	0.0
その他	9	0.0	33.3	0.0	44.5	22.2
正規雇用	57	1.8	8.8	43.7	43.9	1.8
非正規雇用	99	0.0	19.2	43.5	34.3	3.0
専業主婦	81	2.5	14.8	34.6	43.2	4.9
学生	5	0.0	20.0	20.0	60.0	0.0
無職	14	0.0	14.3	42.9	35.7	7.1
男性	203	5.4	18.7	31.5	38.5	5.9
自営・自由業	29	10.3	24.1	44.9	20.7	0.0
家族従事者	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
その他	7	14.3	0.0	42.8	42.9	0.0
正規雇用	111	1.8	16.2	29.7	46.0	6.3
非正規雇用	9	11.1	22.2	22.2	44.5	0.0
専業主夫	4	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0
学生	5	0.0	0.0	20.0	80.0	0.0
無職	20	15.0	35.0	30.0	10.0	10.0

(5) 男女共同参画社会に関する情報源（問 24）

男女共同参画社会に関する情報源は男女とも「新聞」、「テレビ」が高い
全体的に女性の割合は男性を下回っている
「行政の広報紙」、「テレビ」を情報源とする割合は全県平均よりわずか高

男女共同参画社会に関する情報源は、「新聞」38.7%、「テレビ」35.8%が並んで高く、あとは「行政の広報紙」23.5%などがあげられている。「特に得たことはない」も 36.5%ある。

性別にみると、全体的に女性の割合は男性を下回っているが傾向としては大きな差はない。情報源として割合が高いのは、男女とも「新聞」（男性 44.3%、女性 35.4%）、「テレビ」（男性 36.9%、女性 35.7%）、「行政の広報紙」（男性 20.7%、女性 25.4%）などである。性別で差が大きい情報源のうち男性が高いのは「新聞」（男性 44.3%、女性 35.4%）、「本」（同 9.4%、同 5.3%）、「ラジオ」（同 7.4%、同 4.4%）、「雑誌」（同 10.8%、同 8.0%）、「インターネット」（同 4.4%、同 2.1%）などで、それぞれ 8.9 ポイント、4.1 ポイント、3.0 ポイント、2.8 ポイント、2.3 ポイント女性を上回る。逆に、女性が高いのは「行政の広報紙」（同 25.4%、同 20.7%）、「ミニコミ紙（誌）」（女性 5.0%、男性 2.5%）で、それぞれ 4.7 ポイント、2.5 ポイント男性を上回る。

県調査と比較すると、「テレビ」「行政の広報紙」は全県平均が 28.9%、19.0%であるのに対して、それぞれ 6.9 ポイント、4.5 ポイントずつ上回っている。逆に、「新聞」は全県平均 43.6%を 4.9 ポイント下回っている。

大学生アンケートと比較すると、大学生は、「学校」（大学生 42.6%、市民 2.0%）、「インターネット」（同 14.0%、同 2.9%）の割合が市民よりそれぞれ 40.6 ポイント、11.1 ポイント高く、逆に、「新聞」（市民 38.7%、大学生 21.7%）、「行政の広報紙」（同 23.5%、同 2.3%）などは、市民よりそれぞれ 17.0 ポイント、21.2 ポイント低くなっている。

性別・年齢別にみると、「新聞」は「60～69 歳女性」と「60～69 歳男性」「70 歳以上男性」で高く、それぞれ、56.1%（全体割合より +17.4 ポイント）、57.1%（同 +18.4 ポイント）、72.2%（同 +33.5 ポイント）である。「テレビ」は「60 歳代女性」65.2%（同 +29.4 ポイント）、「60 歳代男性」51.0%（同 +15.2 ポイント）、「70 歳以上男性」77.8%（同 +42.0 ポイント）で高い。「行政の広報紙」は「60～69 歳女性」39.4%（同 +15.9 ポイント）と「70 歳以上男性」50.0%（同 +26.5 ポイント）で高くなっている。「雑誌」は「70 歳以上男性」で 22.2%（同 +13.3 ポイント）と高く、「本」は「20～29 歳男性」で 22.2%（同 +15.3 ポイント）と高い。「ラジオ」は「70 歳以上男性」で、16.7%（同 +11.2 ポイント）と高い。

「特に得たことはない」は「30～39 歳女性」と「20～29 歳男性」で、それぞれ 59.2%（同 +22.7 ポイント）、50.0%（同 +13.5 ポイント）と高い。

図 5 3 男女共同参画社会に関する情報源（あてはまるものすべて）

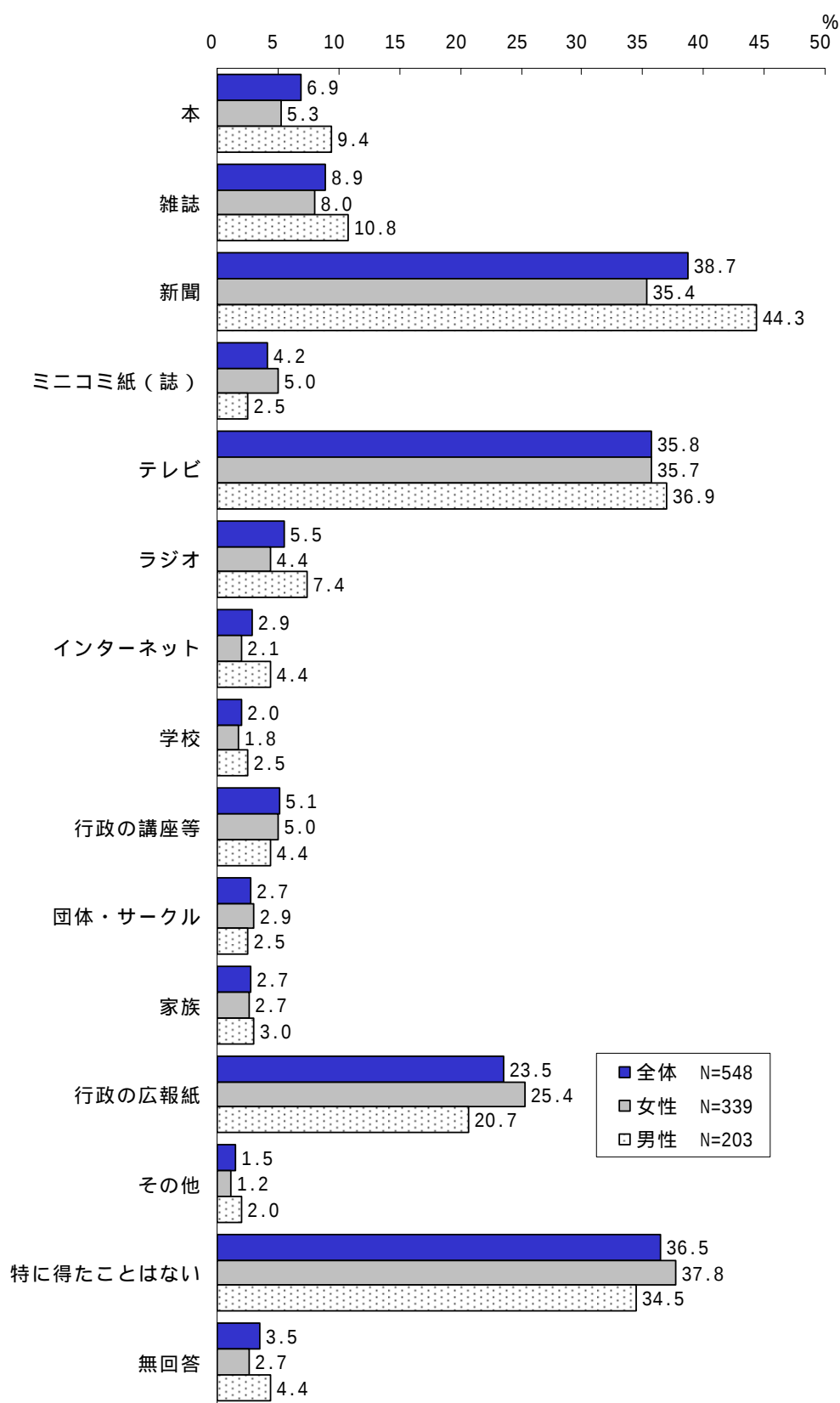


表 3 3 男女共同参画社会に関する情報源（県調査との比較）

	北名古屋市アンケート			全県
	全体 N=548	女性 N=339	男性 N=203	全体 N=1,016
本	6.9	5.3	9.4	7.1
雑誌	8.9	8.0	10.8	10.9
新聞	38.7	35.4	44.3	43.6
ミニコミ紙（誌）	4.2	5.0	2.5	
テレビ	35.8	35.7	36.9	28.9
ラジオ	5.5	4.4	7.4	4.7
インターネット	2.9	2.1	4.4	
学校	2.0	1.8	2.5	2.2
行政の講座等	5.1	5.0	4.4	
団体・サークル	2.7	2.9	2.5	5.5
家族	2.7	2.7	3.0	
行政の広報紙	23.5	25.4	20.7	19.0
その他	1.5	1.2	2.0	4.0
特に得たことはない	36.5	37.8	34.5	
無回答	3.5	2.7	4.4	

図 5 4 男女共同参画社会に関する情報源（大学生アンケートとの比較）

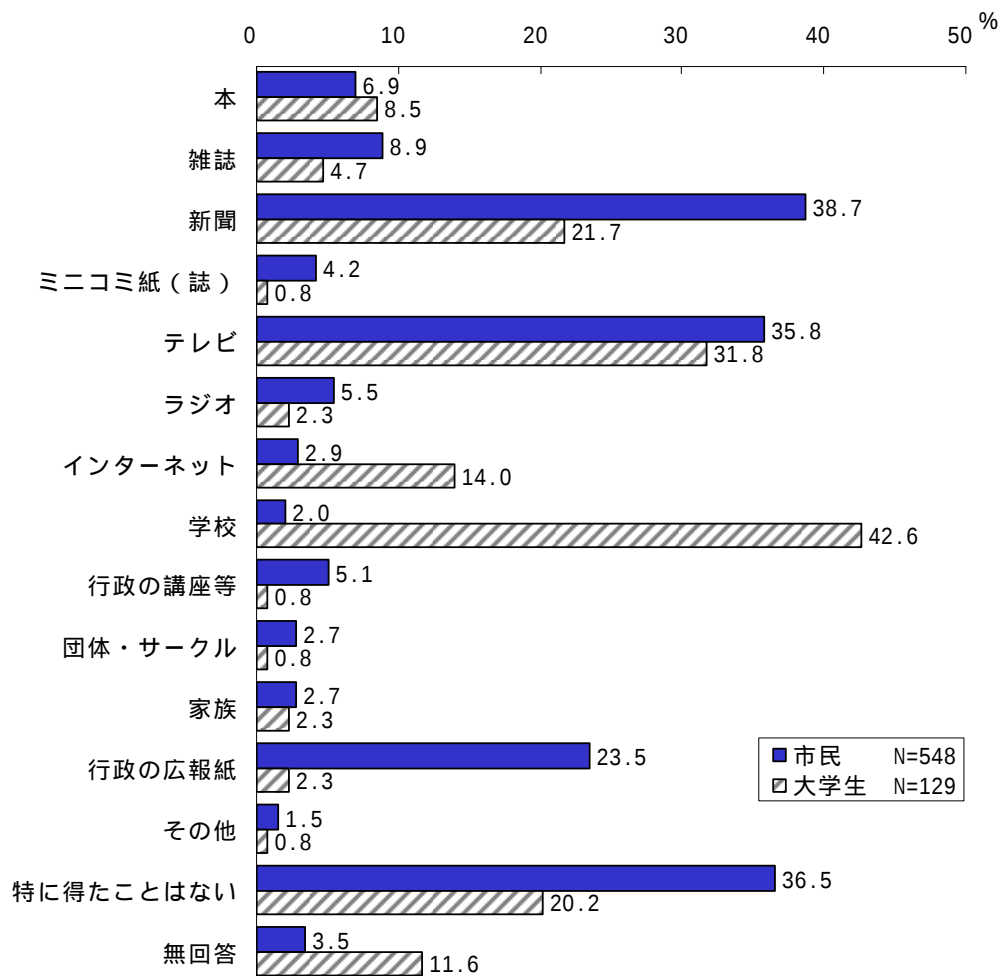


表 3 4 性別・年齢別にみた男女共同参画社会に関する情報源

	合計	本	雑 誌	新 聞	ミニコミ 紙 (誌)	テ レ ビ	ラ ジ オ	インタ ーネッ ト	学 校
全体	548	6.9	8.9	38.7	4.2	35.8	5.5	2.9	2.0
女性	339	5.3	8.0	35.4	5.0	35.7	4.4	2.1	1.8
20～29歳	37	10.8	5.4	29.7	2.7	27.0	0.0	8.1	10.8
30～39歳	71	2.8	2.8	21.1	4.2	21.1	1.4	1.4	1.4
40～49歳	62	3.2	4.8	32.3	3.2	27.4	1.6	3.2	0.0
50～59歳	87	4.6	13.8	39.1	4.6	35.6	3.4	1.1	0.0
60～69歳	66	9.1	10.6	56.1	9.1	65.2	12.1	0.0	0.0
70歳以上	16	0.0	6.3	18.8	6.3	31.3	12.5	0.0	6.3
男性	203	9.4	10.8	44.3	2.5	36.9	7.4	4.4	2.5
20～29歳	18	22.2	16.7	22.2	5.6	16.7	0.0	5.6	11.1
30～39歳	37	8.1	10.8	45.9	2.7	32.4	5.4	10.8	2.7
40～49歳	32	3.1	3.1	31.3	0.0	12.5	6.3	0.0	0.0
50～59歳	48	6.3	10.4	35.4	2.1	35.4	6.3	4.2	2.1
60～69歳	49	10.2	10.2	57.1	4.1	51.0	8.2	2.0	0.0
70歳以上	18	16.7	22.2	72.2	0.0	77.8	16.7	5.6	5.6
	合計	行政の 講座等	団体・サ ークル	家 族	行政の 広報紙	そ の 他	特 に 得 た こ と は な い	無 回 答	
全体	548	5.1	2.7	2.7	23.5	1.5	36.5	3.5	
女性	339	5.0	2.9	2.7	25.4	1.2	37.8	2.7	
20～29歳	37	0.0	0.0	5.4	10.8	5.4	45.9	2.7	
30～39歳	71	0.0	0.0	1.4	12.7	1.4	59.2	2.8	
40～49歳	62	3.2	0.0	0.0	29.0	1.6	45.2	0.0	
50～59歳	87	5.7	5.7	3.4	28.7	0.0	28.7	4.6	
60～69歳	66	12.1	4.5	4.5	39.4	0.0	15.2	1.5	
70歳以上	16	12.5	12.5	0.0	25.0	0.0	37.5	6.3	
男性	203	4.4	2.5	3.0	20.7	2.0	34.5	4.4	
20～29歳	18	0.0	5.6	0.0	5.6	5.6	50.0	5.6	
30～39歳	37	0.0	0.0	5.4	13.5	2.7	40.5	2.7	
40～49歳	32	9.4	0.0	0.0	15.6	0.0	43.8	9.4	
50～59歳	48	4.2	0.0	0.0	20.8	2.1	37.5	4.2	
60～69歳	49	6.1	4.1	6.1	22.4	0.0	24.5	4.1	
70歳以上	18	5.6	5.6	5.6	50.0	5.6	11.1	0.0	

(6) 男女共同参画・男女平等に関わる言葉の周知 (問 25)

「ストーカー防止法」、「DV防止法」、「『育児・介護休業法』の改正」
の周知度は高い
「ジェンダー(社会的性別)」は20歳代男女の周知度が高い

男女共同参画・男女平等に関わる言葉について見たり聞いたりしたことがあると答
えた割合をみると、「ストーカー防止法」が84.9%、「DV防止法」が77.0%、「『育

児・介護休業法』の改正」が58.8%と高い。

性別で大きな違いはみられないが、「『育児・介護休業法』の改正」は男性61.6%で女性の57.2%より4.4ポイント高い。逆に「ジェンダー(社会的性別)」(女性26.0%、男性17.7%)、「次世代育成支援対策推進法」(同20.4%、同12.8%)は女性が男性よりそれぞれ8.3ポイント、7.6ポイント高い。

中学生・大学生アンケートと比較すると、「ジェンダー(社会的性別)」(大学生86.8%、市民22.6%、中学生7.7%)、「男女共同参画社会基本法」(同62.8%、同36.1%、同9.1%)は、大学生の周知度が、市民よりそれぞれ64.2ポイント、26.7ポイント高い。それ以外は市民の方が周知度が高い。中学生では「ストーカー防止法」が46.3%でもっとも高いが、いずれも市民、大学生よりは周知度は低い。

性別・年齢別にみると、「ジェンダー(社会的性別)」は「20～29歳女性」「20～29歳男性」で、それぞれ45.9%(全体割合より+23.3ポイント)、55.6%(同+33.0ポイント)と高く、年齢が上がるにつれ低下傾向となっている。「DV防止法」「ストーカー防止法」については、20歳代から60歳代の男女がほぼ同程度の周知度で、「男女共同参画社会基本法」よりはよく周知されている。「『育児・介護休業法』の改正」は「20～29歳女性」と「50～59歳男性」で、それぞれ70.3%(全体割合より+11.5ポイント)、70.8%(同+12.0ポイント)と高い。

図 5 5 男女共同参画・男女平等に関わる言葉の周知(あてはまるものすべて)

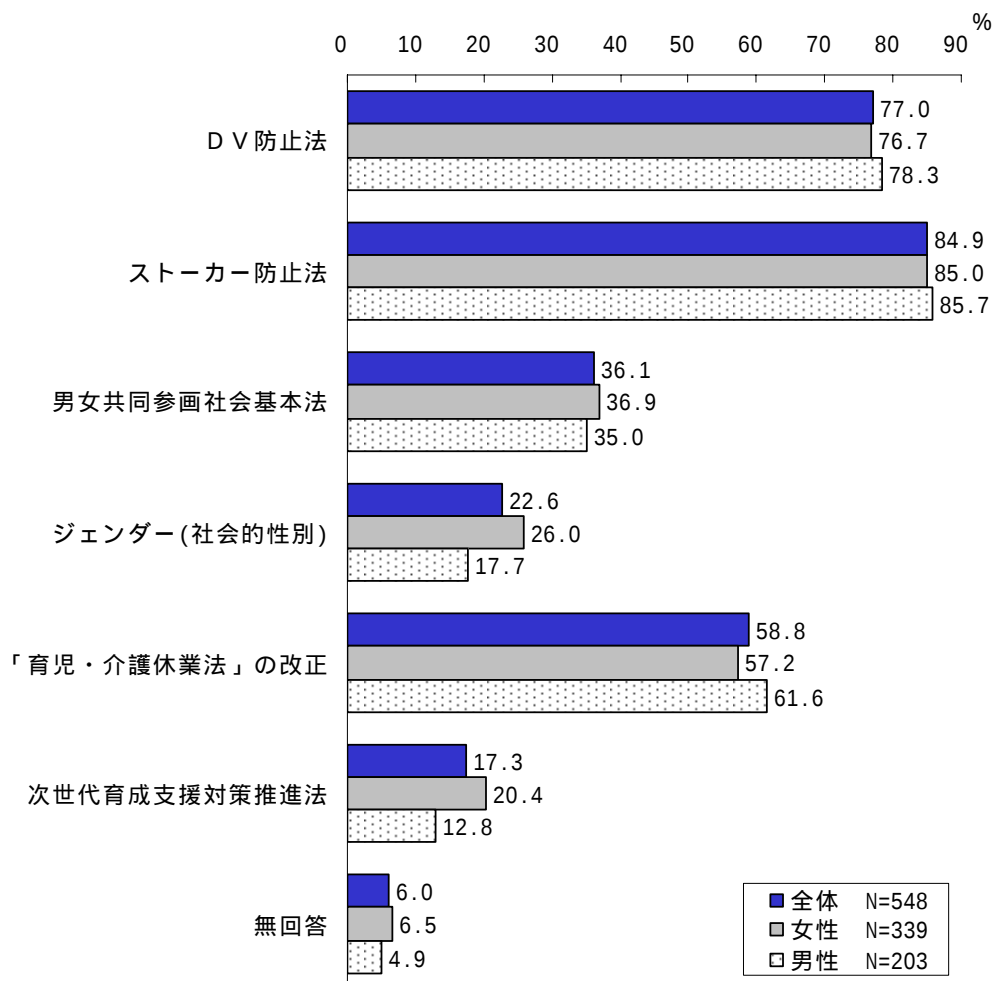


図 5 6 男女共同参画・男女平等に関わる言葉の周知
(中学生・大学生アンケートとの比較)

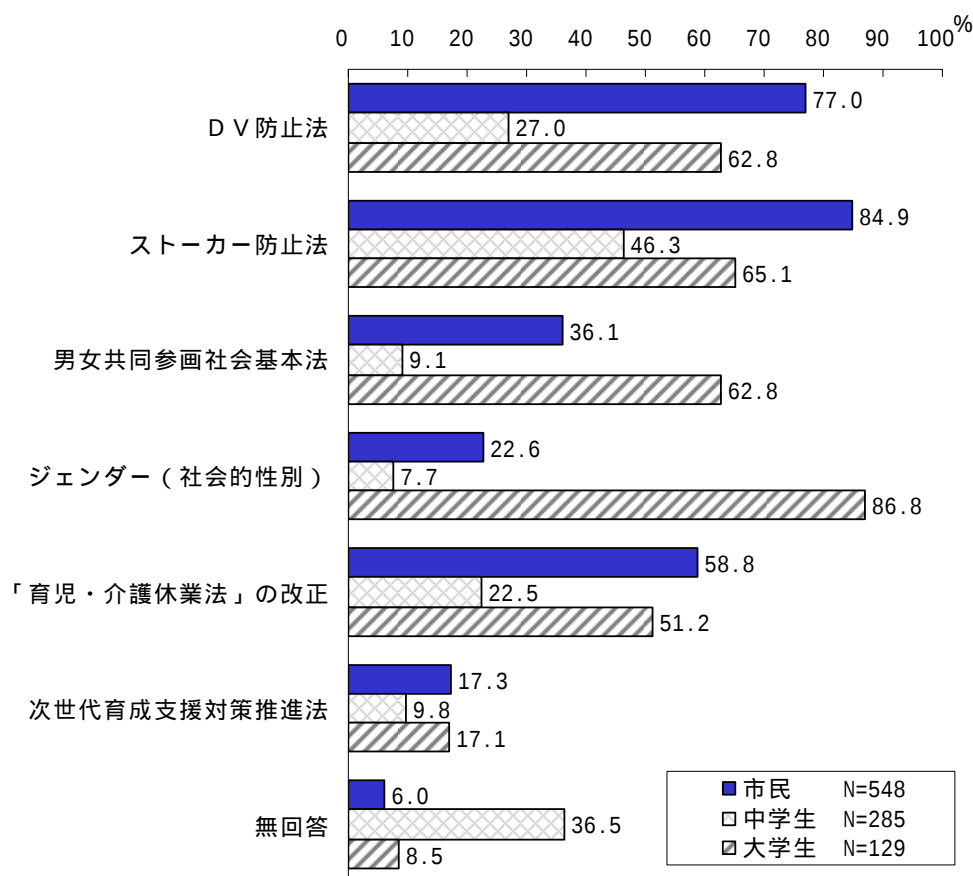


表 3 5 性別・年齢別にみた男女共同参画・男女平等に関わる言葉の周知

	合計	D 防 止 法	ス ト ー カ ー 防 止 法	男 女 共 同 参 画 社 会 基 本 法	ジ ェ ン ダ ー (社 会 的 性 別)	「 育 児 ・ 介 護 休 業 法 」 の 改 正	次 世 代 育 成 支 援 対 策 推 進 法	無 回 答
全体	548	77.0	84.9	36.1	22.6	58.8	17.3	6.0
女性	339	76.7	85.0	36.9	26.0	57.2	20.4	6.5
20～29歳	37	67.6	89.2	40.5	45.9	70.3	16.2	5.4
30～39歳	71	84.5	88.7	25.4	32.4	49.3	22.5	5.6
40～49歳	62	83.9	85.5	35.5	22.6	64.5	21.0	8.1
50～59歳	87	78.2	87.4	39.1	25.3	58.6	19.5	4.6
60～69歳	66	72.7	81.8	48.5	18.2	57.6	25.8	7.6
70歳以上	16	43.8	56.3	25.0	0.0	25.0	0.0	12.5
男性	203	78.3	85.7	35.0	17.7	61.6	12.8	4.9
20～29歳	18	77.8	88.9	33.3	55.6	55.6	11.1	5.6
30～39歳	37	83.8	91.9	40.5	27.0	56.8	18.9	5.4
40～49歳	32	75.0	93.8	28.1	12.5	50.0	6.3	6.3
50～59歳	48	81.3	85.4	29.2	8.3	70.8	12.5	2.1
60～69歳	49	73.5	81.6	34.7	10.2	63.3	10.2	6.1
70歳以上	18	77.8	66.7	50.0	16.7	66.7	22.2	5.6

(7) 男女共同参画とは (問 26)

男女共同参画とは「働く上で男女の格差がない」ことが7割強、「性別で役割を決めつけない」と「男女がともに家事・育児をする」がともに6割弱
「男女がともに家事・育児をする」は女性で6割強だが、男性は5割弱

男女共同参画とは、「働く上で男女の格差がない」が71.7%でもっとも高く、次いで「性別で役割を決めつけない」56.9%、「男女がともに家事・育児をする」56.6%、「地域活動で男女の格差がない」50.5%、「多様な生き方を認める」44.3%などが続いている。

性別では、傾向に大きな差がないが、「男女がともに家事・育児をする」は女性61.7%で、男性の48.3%を13.4ポイント上回る。

大学生アンケートと比較して、市民と大きな差があるのは、大学生では、「地域活動で男女の格差がない」が27.9%で、市民50.5%より22.6ポイント下回る。

性別・年齢別にみると、「働く上で男女の格差がない」「地域活動で男女の格差がない」「暴力等による支配的な関係がない」は、いずれも「70歳以上男性」で高く、それぞれ83.3%(全体割合より+11.6ポイント)、66.7%(同+16.2ポイント)、50.0%(同+24.8ポイント)である。

「男女がともに家事・育児をする」は「40～49歳女性」と「20～29歳男性」で高く、それぞれ67.7%(同+11.1ポイント)、66.7%(同+10.1ポイント)である。「性別で役割を決めつけない」は「40～49歳女性」と「70歳以上男性」で、それぞれ67.7%(同+10.8ポイント)、83.3%(同+26.4ポイント)と高くなっている。また、「多様な生き方を認める」は「20～29歳男性」と「70歳以上男性」で高く、ともに55.6%(同+11.3ポイント)である。「経済的な責任が男性に偏らない」は「70歳以上女性」で高く、43.8%(同+18.6ポイント)である。

図 5 7 男女共同参画とは（あてはまるものすべて）

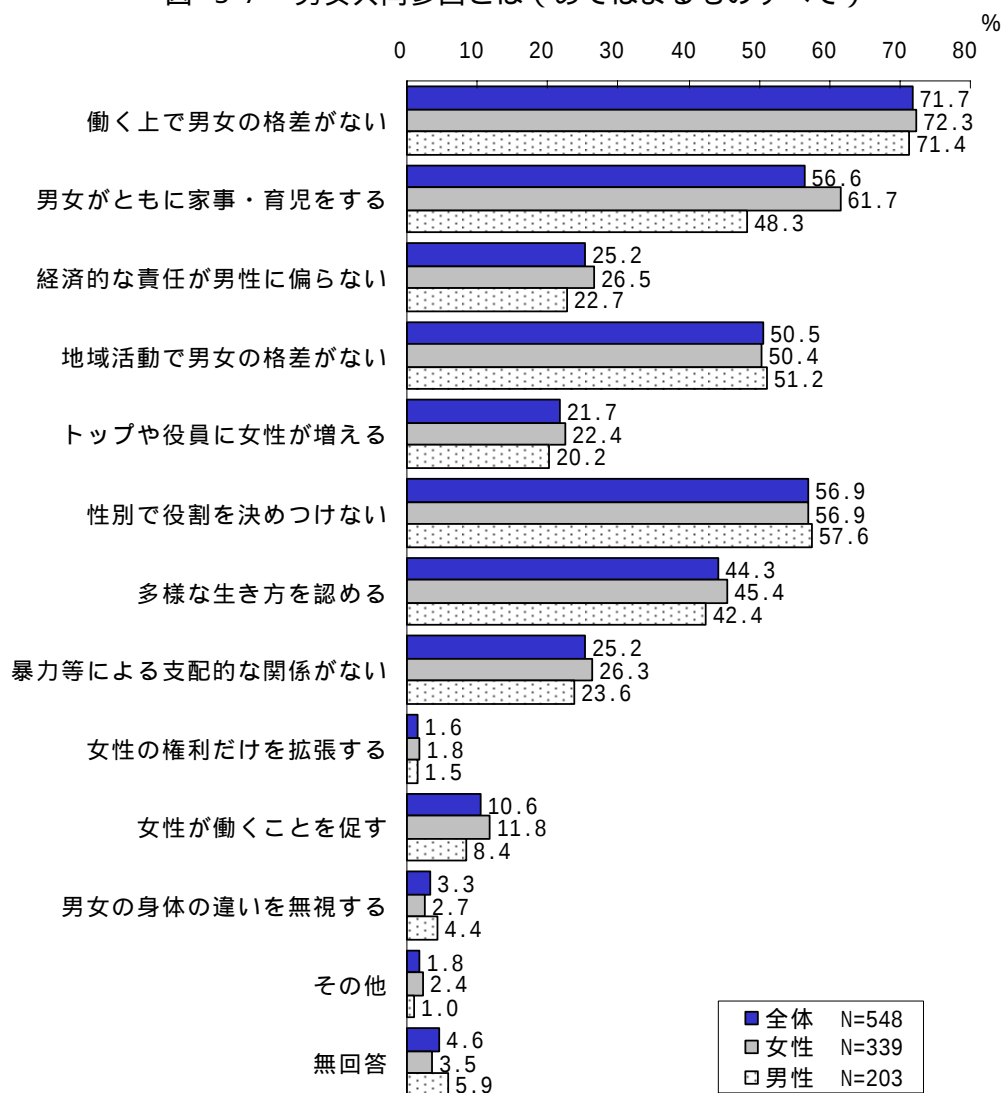


図 5 8 男女共同参画とは（大学生アンケートとの比較）

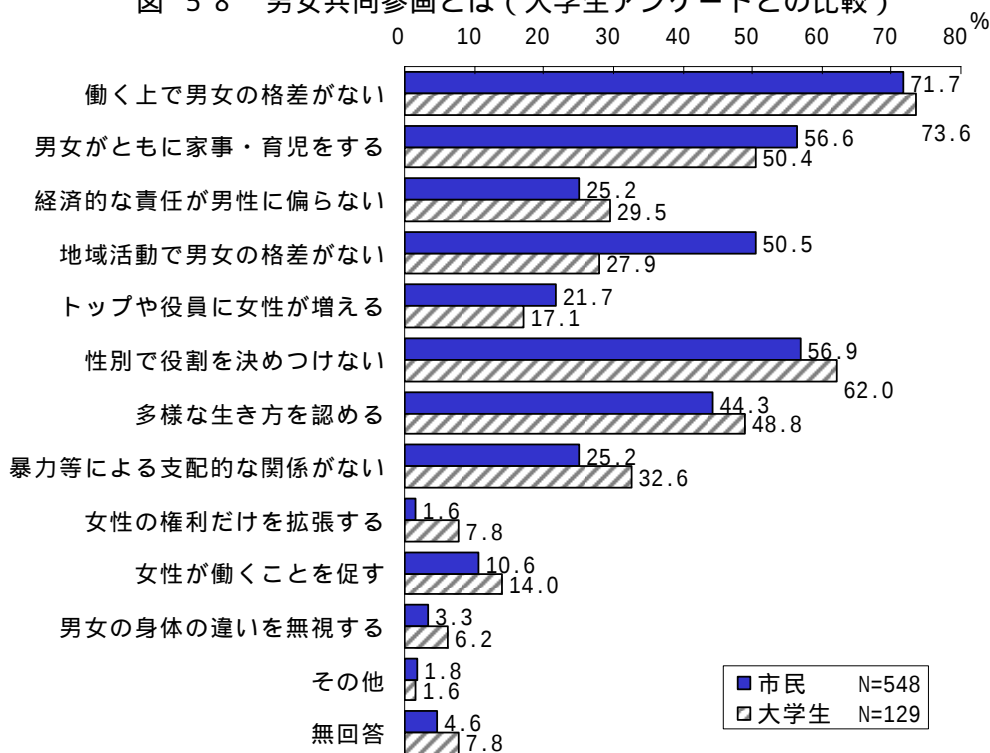


表 3 6 性別・年齢別にみた男女共同参画とは

	合計	働く上で 男女の格 差がない	男女がと もに家事 ・育児を する	経済的な 責任が男 性に偏ら ない	地域活動 で男女の 格差がな い	トップや 役員に女 性が増え る	性別で役 割を決め つけない	多様な生 き方を認 める
全体	548	71.7	56.6	25.2	50.5	21.7	56.9	44.3
女性	339	72.3	61.7	26.5	50.4	22.4	56.9	45.4
20～29歳	37	73.0	62.2	27.0	51.4	21.6	56.8	51.4
30～39歳	71	69.0	64.8	28.2	40.8	19.7	56.3	46.5
40～49歳	62	64.5	67.7	30.6	53.2	27.4	67.7	48.4
50～59歳	87	80.5	55.2	19.5	49.4	17.2	56.3	49.4
60～69歳	66	71.2	62.1	25.8	57.6	22.7	53.0	34.8
70歳以上	16	75.0	56.3	43.8	56.3	43.8	37.5	37.5
男性	203	71.4	48.3	22.7	51.2	20.2	57.6	42.4
20～29歳	18	55.6	66.7	16.7	38.9	27.8	50.0	55.6
30～39歳	37	75.7	62.2	21.6	40.5	21.6	62.2	40.5
40～49歳	32	68.8	37.5	15.6	50.0	6.3	43.8	31.3
50～59歳	48	75.0	47.9	20.8	54.2	18.8	60.4	37.5
60～69歳	49	67.3	38.8	30.6	55.1	18.4	53.1	44.9
70歳以上	18	83.3	44.4	27.8	66.7	44.4	83.3	55.6
	合計	暴力等による支配的な関係がない	女性の権利だけを拡張する	女性が働くことを促す	男女の身体の違いを無視する	その他	無回答	
全体	548	25.2	1.6	10.6	3.3	1.8	4.6	
女性	339	26.3	1.8	11.8	2.7	2.4	3.5	
20～29歳	37	16.2	2.7	13.5	2.7	2.7	5.4	
30～39歳	71	25.4	4.2	14.1	2.8	5.6	0.0	
40～49歳	62	33.9	1.6	17.7	3.2	1.6	1.6	
50～59歳	87	27.6	0.0	11.5	1.1	2.3	1.1	
60～69歳	66	24.2	0.0	1.5	3.0	0.0	9.1	
70歳以上	16	25.0	6.3	18.8	6.3	0.0	12.5	
男性	203	23.6	1.5	8.4	4.4	1.0	5.9	
20～29歳	18	27.8	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	
30～39歳	37	24.3	2.7	10.8	2.7	2.7	5.4	
40～49歳	32	12.5	0.0	6.3	3.1	3.1	9.4	
50～59歳	48	25.0	2.1	6.3	4.2	0.0	4.2	
60～69歳	49	18.4	2.0	12.2	6.1	0.0	10.2	
70歳以上	18	50.0	0.0	11.1	5.6	0.0	0.0	

(8) 男女共同参画社会の実現について（問 27）

男女ともに、5 割前後が“期待している”
 大学生の期待は市民より 10 ポイント近く低い
 「期待している」は 70 歳以上男性で高い

男女共同参画社会の実現について「期待している」は19.0%、「どちらかといえば期待している」31.3%と合わせて、“期待している”は50.3%である。

性別でみると、“期待している”は女性50.4%（「期待している」18.0% + 「どちらかといえば期待している」32.4%）、男性49.3%（同20.2% + 同29.1%）とほぼ同じ割合である。

大学生アンケートと比較すると、大学生では“期待している”が41.1%（「期待している」17.8% + 「どちらかといえば期待している」23.3%）で、市民より9.2ポイント下回る。

性別・年齢別にみると、「期待している」は「70歳以上男性」で49.8%（全体割合より + 30.8ポイント）と高くなっている。

図 5 9 男女共同参画社会の実現について

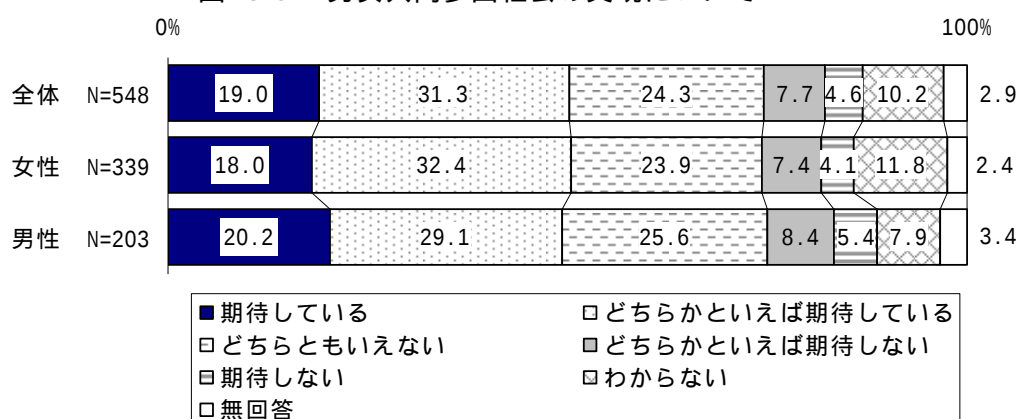


図 6 0 男女共同参画社会の実現について（大学生アンケートの比較）

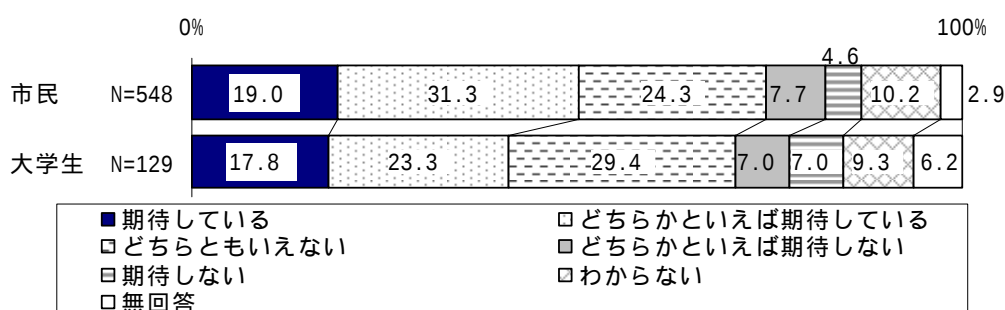


表 3 7 性別・年齢別にみた男女共同参画社会の実現について

	合計	期待している	どちらかといえば期待している	どちらともいえない	どちらかといえば期待しない	期待しない	わからない	無回答
全体	548	19.0	31.3	24.3	7.7	4.6	10.2	2.9
女性	339	18.0	32.4	23.9	7.4	4.1	11.8	2.4
20～29歳	37	10.8	29.7	32.5	2.7	0.0	21.6	2.7
30～39歳	71	21.1	22.5	26.7	8.5	9.9	9.9	1.4
40～49歳	62	14.5	33.9	27.4	9.7	0.0	12.9	1.6
50～59歳	87	17.2	36.9	21.8	4.6	5.7	9.2	4.6
60～69歳	66	22.7	39.5	13.6	10.6	1.5	10.6	1.5
70歳以上	16	18.8	25.0	31.1	6.3	6.3	12.5	0.0
男性	203	20.2	29.1	25.6	8.4	5.4	7.9	3.4
20～29歳	18	22.2	27.7	27.8	11.1	5.6	5.6	0.0
30～39歳	37	18.9	29.7	35.2	2.7	5.4	5.4	2.7
40～49歳	32	9.4	31.2	25.0	12.5	12.5	6.3	3.1
50～59歳	48	14.6	29.1	29.2	10.4	2.1	12.5	2.1
60～69歳	49	20.4	32.6	18.4	8.2	4.1	10.2	6.1
70歳以上	18	49.8	16.7	16.7	5.6	5.6	0.0	5.6

(9) 少子化の傾向について（問 28）

少子化の傾向が“問題だと思う”は9割

「非常に問題だと思う」は男女とも年齢が上がるにつれ高くなり、「多少問題だと思う」は20～40歳代の女性と20～30歳代の男性で高い傾向

少子化の傾向について「非常に問題だと思う」は61.9%、「多少問題だと思う」28.1%と合わせて、“問題だと思う”は90.0%である。

性別でみると、“問題だと思う”は女性90.9%（「非常に問題だと思う」59.6%＋「多少問題だと思う」31.3%）、男性88.7%（同65.5%＋同23.2%）とほぼ同じ割合である。

大学生アンケートと比較すると、大学生では“問題だと思う”が84.4%（同34.9%＋49.5%）で、市民より5.6ポイント低くなっている。

性別・年齢別にみると、「非常に問題だと思う」は「70歳以上男性」で100.0%（全体割合より＋38.1ポイント）と高い。「非常に問題だと思う」は男女とも年齢が上がるにつれ高くなり、「多少問題だと思う」は20～40歳代の女性と20～30歳代の男性で高い傾向がある。

図 6 1 少子化の傾向について

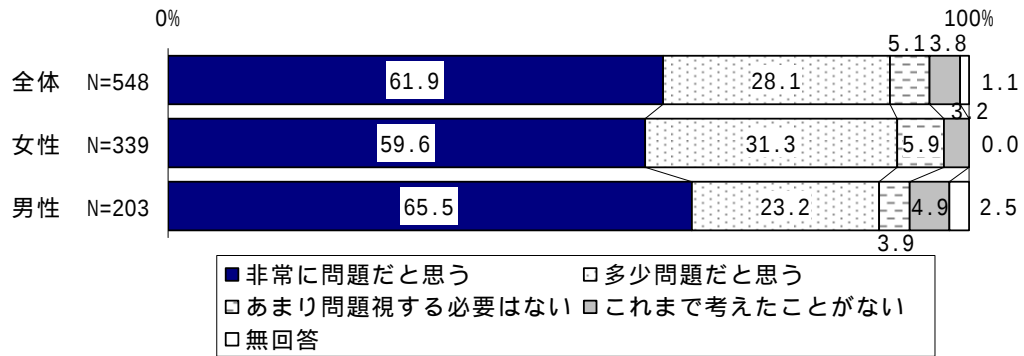


図 6 2 少子化の傾向について（大学生アンケートとの比較）

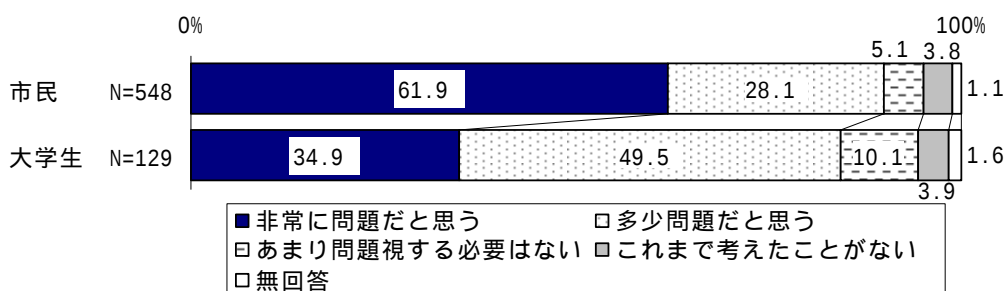


表 3 8 性別・年齢別にみた「少子化の傾向」について

	合計	非常に問題 だと思う	多少問題 だと思う	あまり問題 視する 必要はない	これまで 考えたこ とがない	無 回 答
全体	548	61.9	28.1	5.1	3.8	1.1
女性	339	59.6	31.3	5.9	3.2	0.0
20～29歳	37	51.4	37.8	2.7	8.1	0.0
30～39歳	71	52.2	38.0	5.6	4.2	0.0
40～49歳	62	56.5	35.5	4.8	3.2	0.0
50～59歳	87	62.1	29.9	6.9	1.1	0.0
60～69歳	66	69.7	24.2	6.1	0.0	0.0
70歳以上	16	68.7	6.3	12.5	12.5	0.0
男性	203	65.5	23.2	3.9	4.9	2.5
20～29歳	18	61.1	33.3	0.0	5.6	0.0
30～39歳	37	48.7	35.1	2.7	10.8	2.7
40～49歳	32	65.6	25.0	0.0	3.1	6.3
50～59歳	48	62.5	18.8	8.3	8.3	2.1
60～69歳	49	69.5	22.4	6.1	0.0	2.0
70歳以上	18	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(10) 少子化の原因（問 29）

少子化の原因として「教育にお金がかかる」、「仕事との両立が困難」、「経済的に余裕がない」などが6割前後

「教育にお金がかかる」、「経済的に余裕がない」は40歳代の女性で高い

「趣味やレジャーとの両立が困難」は20歳代の男女で高い

少子化の原因は、「教育にお金がかかる」が65.0%でもっとも高く、次いで「仕事との両立が困難」57.5%、「経済的に余裕がない」55.3%、「年齢的・身体的な理由で難しい」48.2%などが続いている。

性別でみると、男女で傾向に大きな違いはないが、男女で差が大きいのは、「教育にお金がかかる」で女性70.8%に対し男性55.7%で女性が15.1ポイント上回る。「家族の手助けがない」も女性40.4%で、男性29.1%より11.3ポイント上回っている。

大学生アンケートと比較すると、市民とで差が大きいのは、「家族の手助けがない」で、市民36.1%に対し大学生は16.3%で、19.8ポイント下回る。また、「趣味やレジャーとの両立が困難」も市民16.1%に対し大学生は4.7%で、11.4ポイント下回る。

性別・年齢別にみると、「教育にお金がかかる」は「40～49歳女性」と「70歳以上男性」でそれぞれ82.3%（全体割合より+17.3ポイント）、77.8%（同+12.8ポイント）と高くなっている。「経済的に余裕がない」も「40～49歳女性」で69.4%（同+14.1ポイント）と高い。「精神的・肉体的な負担が大きい」は「40～49歳女性」と「20～29歳男性」で、それぞれ50.0%（同+14.6ポイント）、55.6%（同+20.2ポイント）と高くなっている。「子育てを支援する環境が不十分」は「30～39歳女性」で50.7%（同+16.2ポイント）と高い。「少ない子どもに手間やお金をかける」は「50～59歳男性」で31.3%（同+12.3ポイント）と高く、「趣味やレジャーとの両立が困難」は「20～29歳女性」と「20～29歳男性」で、それぞれ27.0%（同+10.9ポイント）、33.3%（同+17.2ポイント）と高くなっている。

図 6 3 少子化の原因（あてはまるものすべて）

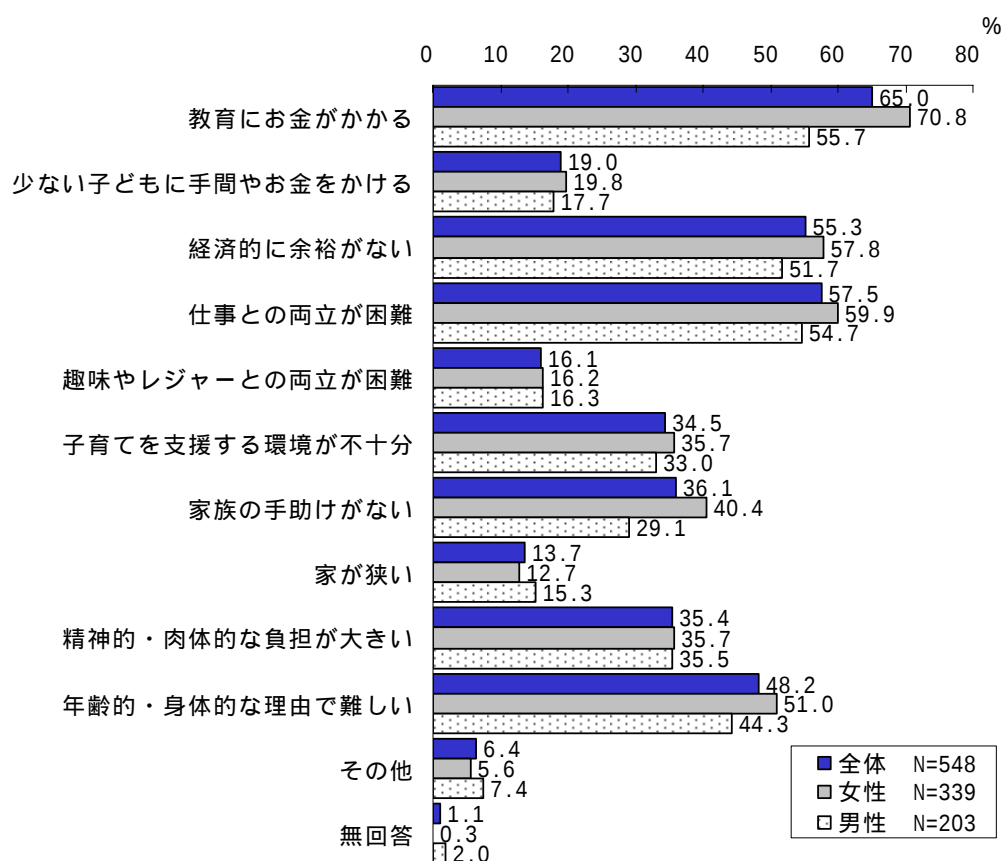


図 6 4 少子化の原因（大学生アンケートとの比較）

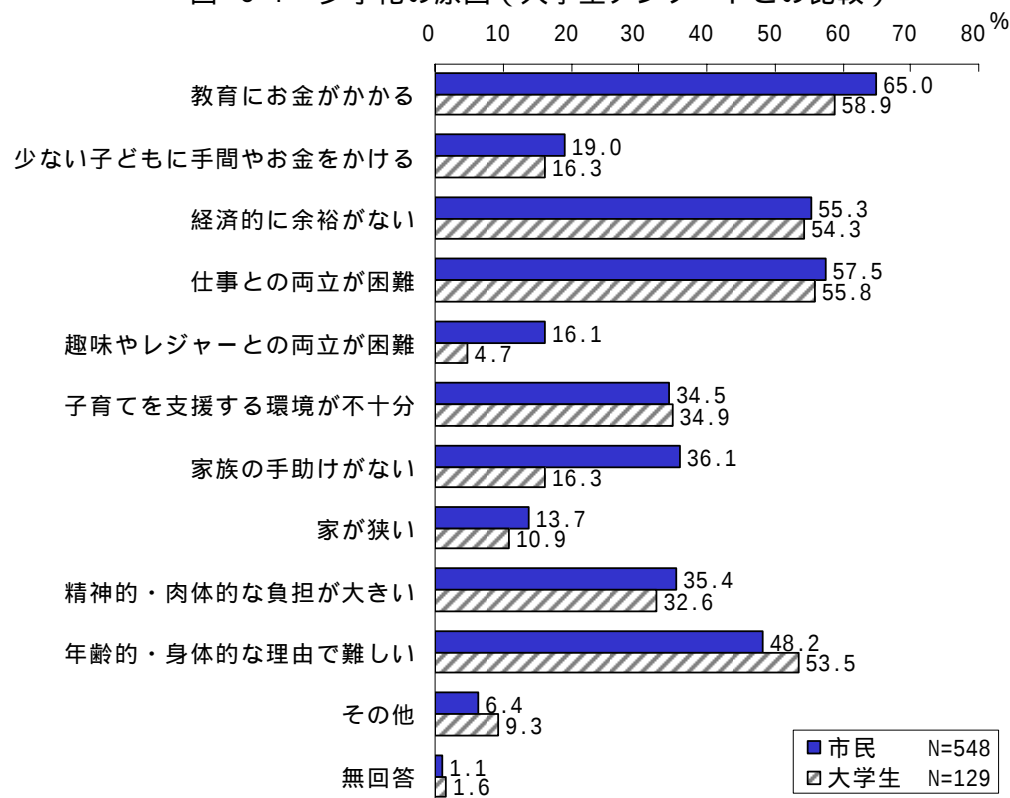


表 3 9 性別・年齢別にみた少子化の原因

	合計	教育にお金がかかる	少ない子どもに手間やお金をかける	経済的に裕い	仕事と両立が困難	趣味やレジャーとの両立が困難	子育てを支援する環境が不十分
全体	548	65.0	19.0	55.3	57.5	16.1	34.5
女性	339	70.8	19.8	57.8	59.9	16.2	35.7
20～29歳	37	51.4	10.8	59.5	62.2	27.0	37.8
30～39歳	71	70.4	16.9	64.8	54.9	12.7	50.7
40～49歳	62	82.3	14.5	69.4	69.4	11.3	35.5
50～59歳	87	72.4	27.6	54.0	59.8	21.8	33.3
60～69歳	66	71.2	22.7	48.5	62.1	12.1	25.8
70歳以上	16	62.5	18.8	37.5	31.3	12.5	18.8
男性	203	55.7	17.7	51.7	54.7	16.3	33.0
20～29歳	18	72.2	22.2	55.6	66.7	33.3	27.8
30～39歳	37	51.4	18.9	62.2	45.9	16.2	24.3
40～49歳	32	50.0	9.4	43.8	43.8	21.9	37.5
50～59歳	48	52.1	31.3	47.9	54.2	18.8	35.4
60～69歳	49	51.0	4.1	49.0	59.2	8.2	36.7
70歳以上	18	77.8	27.8	55.6	66.7	5.6	33.3
	合計	家族の助けがない	家が狭い	精神的・肉体的な負担が大きい	年齢的・身体的な理由で難しい	その他	無回答
全体	548	36.1	13.7	35.4	48.2	6.4	1.1
女性	339	40.4	12.7	35.7	51.0	5.6	0.3
20～29歳	37	29.7	10.8	37.8	37.8	10.8	2.7
30～39歳	71	40.8	15.5	38.0	53.5	7.0	0.0
40～49歳	62	50.0	19.4	50.0	54.8	6.5	0.0
50～59歳	87	35.6	11.5	33.3	50.6	4.6	0.0
60～69歳	66	42.4	7.6	24.2	56.1	3.0	0.0
70歳以上	16	43.8	6.3	25.0	37.5	0.0	0.0
男性	203	29.1	15.3	35.5	44.3	7.4	2.0
20～29歳	18	11.1	16.7	55.6	38.9	0.0	0.0
30～39歳	37	21.6	16.2	37.8	37.8	5.4	2.7
40～49歳	32	31.3	9.4	40.6	53.1	18.8	0.0
50～59歳	48	43.8	16.7	33.3	56.3	6.3	0.0
60～69歳	49	22.4	10.2	30.6	36.7	6.1	6.1
70歳以上	18	38.9	27.8	22.2	38.9	5.6	0.0

7 北名古屋市における男女平等の取組について

(1) 市の政策に女性の意見が反映されているか（問 30）

市の政策に女性の意見が“反映されていない”とする割合が、“反映されている”を上回る

“反映されている”は男性で高い

市の政策に女性の意見が反映されているかどうか「わからない」が半数を超える。「わからない」は40歳代女性と20歳代男性で高い

市の政策に女性の意見が「十分反映されている」は2.4%、「まあまあ反映されている」は17.3%と、あわせて“反映されている”とする割合は19.7%である。逆に、“反映されていない”（「あまり反映されていない」23.7%＋「全く反映されていない」3.1%）は26.8%で、“反映されている”とする割合より7.1ポイント上回る。また、「わからない」が52.0%と半数を超えている。

性別でみると、“反映されている”は男性24.1%（「十分反映されている」3.4%＋「まあまあ反映されている」20.7%）、女性16.8%（同1.5%＋同15.3%）で、男性が高く、逆に、“反映されていない”は女性26.9%（「あまり反映されていない」24.5%＋「全く反映されていない」2.4%）、男性26.6%（同22.7%＋同3.9%）でほぼ同じ割合である。

性別・年齢別にみると、「あまり反映されていない」は「50～59歳男性」35.4%（同＋11.7ポイント）で高い。「まあまあ反映されている」は、「70歳以上女性」「60～69歳男性」「70歳以上男性」で高く、それぞれ31.3%（全体割合より＋14.0ポイント）、34.7%（同＋17.4ポイント）、44.4%（同＋27.1ポイント）である。「わからない」は「40～49歳女性」66.2%（同＋14.2ポイント）、「20～29歳男性」77.7%（同＋25.7ポイント）で高い。

図 6 5 市の政策に女性の意見が反映されているか

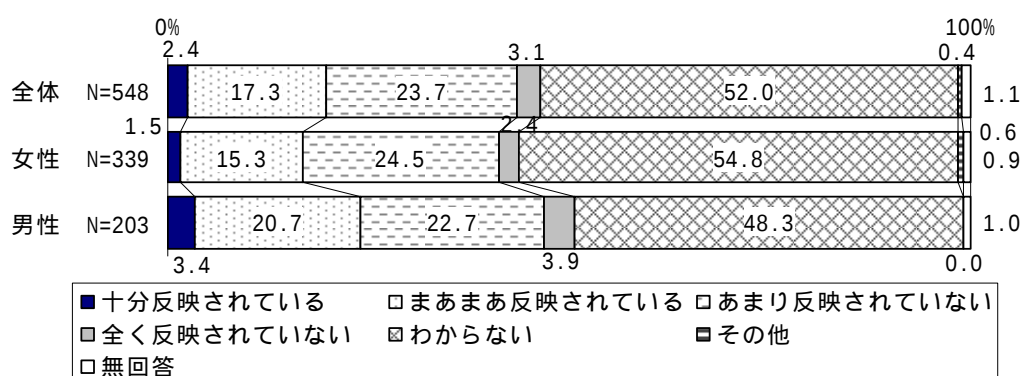


表 4 0 性別・年齢別にみた、市の政策に女性の意見が反映されているか

	合計	十分反映 されて いる	まあまあ 反映され ている	あまり反 映されて いない	全く反映 されて いない	わ かな い	そ の 他	無 回 答
全体	548	2.4	17.3	23.7	3.1	52.0	0.4	1.1
女性	339	1.5	15.3	24.5	2.4	54.8	0.6	0.9
20～29歳	37	2.7	10.8	24.3	2.7	56.8	0.0	2.7
30～39歳	71	0.0	12.7	21.1	2.8	62.0	1.4	0.0
40～49歳	62	1.6	1.6	27.4	3.2	66.2	0.0	0.0
50～59歳	87	0.0	23.0	25.3	1.1	49.5	0.0	1.1
60～69歳	66	4.5	19.7	27.3	3.0	44.0	1.5	0.0
70歳以上	16	0.0	31.3	12.5	0.0	49.9	0.0	6.3
男性	203	3.4	20.7	22.7	3.9	48.3	0.0	1.0
20～29歳	18	0.0	5.6	5.6	11.1	77.7	0.0	0.0
30～39歳	37	0.0	13.5	21.6	5.4	56.8	0.0	2.7
40～49歳	32	9.4	12.5	15.6	6.3	56.2	0.0	0.0
50～59歳	48	2.1	14.6	35.4	0.0	47.9	0.0	0.0
60～69歳	49	4.1	34.7	20.4	4.1	34.7	0.0	2.0
70歳以上	18	5.6	44.4	27.8	0.0	22.2	0.0	0.0

(2) 参加したいと思う講座・講演会等のテーマ（問 31）

「仕事に関わる技術習得・資格取得」への参加意向が男女とももっとも高い
 女性は「男女が共同する家事・子育て」、「仕事に関わる技術取得・資格取得」、
 「生活技術の習得」などへの参加意向が男性より高く、男性は「地域活動への
 チャレンジ」、「リーダーシップ能力」、「起業ノウハウ」などへの参加
 意向が女性より高い

参加したいと思う講座・講演会等のテーマは、「仕事に関わる技術習得・資格取得」
 24.8%、「男女が共同する家事・子育て」21.0%、「コミュニケーション能力」18.2%、
 「生活技術の習得」18.2%、「慣行や慣習の見直し」16.1%、「地域活動へのチャレ
 ンジ」15.3%など多様にあがっている。

性別でみると、「仕事に関わる技術習得・資格取得」（女性26.3%、男性22.7%）、
 「男女が共同する家事・子育て」（同23.6%、同16.7%）、「生活技術の習得」（同
 21.2%、同13.3%）、「コミュニケーション能力」（同19.2%、同17.2%）、「就職
 活動ノウハウ」（同6.5%、同4.9%）、「ドメスティック・バイオレンス」（同5.6%、
 同3.4%）などは、女性が男性を上回っている。逆に「地域活動へのチャレンジ」（男
 性20.7%、女性11.8%）、「リーダーシップ能力」（同14.8%、同5.6%）、「起業
 ノウハウ」（同11.8%、同4.7%）などは、男性が女性を上回っている。

性別・年齢別にみると、「仕事に関わる技術習得・資格取得」は「40～49歳女性」

で41.9%（全体割合より+17.1ポイント）、「30～39歳男性」で35.1%（同+10.3ポイント）と高くなっている。「男女が共同する家事・子育て」は「20～29歳女性」と「30～39歳女性」で高く、それぞれ40.5%（同+19.5ポイント）、39.4%（同+18.4ポイント）である。「コミュニケーション能力」は「20～29歳男性」で33.3%（同+15.1ポイント）と高い。「慣行や慣習の見直し」と「地域活動へのチャレンジ」は「70歳以上男性」で、それぞれ38.9%（同+22.8ポイント）、55.6%（同+40.3ポイント）と高い。「リーダーシップ能力」は「20～29歳男性」の44.4%（同+35.5ポイント）、「30～39歳男性」の32.4%（同+23.5ポイント）と若い世代の男性が高い。「起業ノウハウ」も「20～29歳男性」で33.3%（同+25.8ポイント）と高い。「特にない」は「70歳以上女性」と「50～59歳男性」で高く、それぞれ43.8%（同+12.2ポイント）、50.0%（同+18.4ポイント）である。

図 6 6 参加したいと思う講座・講演会等のテーマ（あてはまるものすべて）

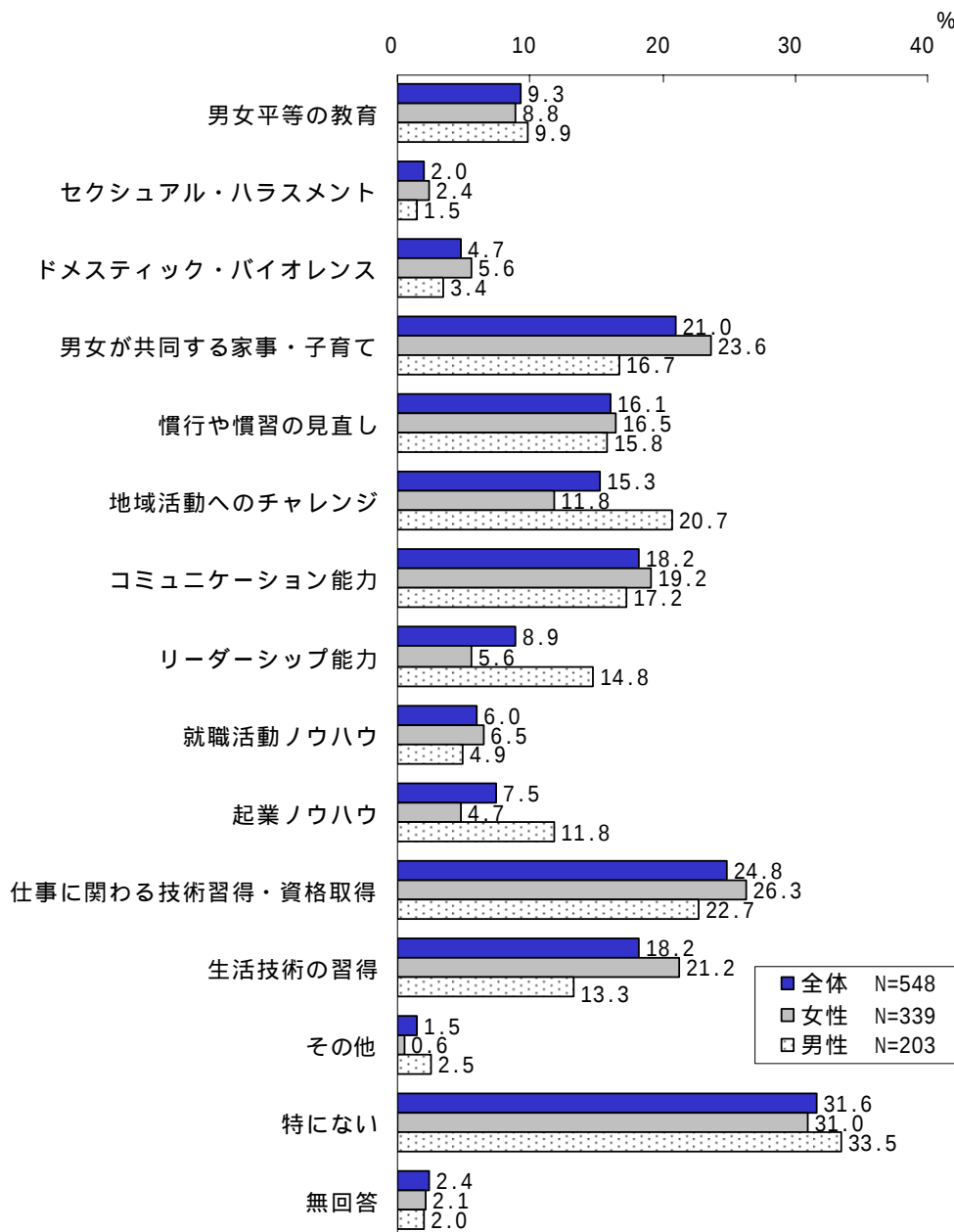


表 4 1 性別・年齢別にみた、参加したいと思う講座・講演会等のテーマ

	合計	男女平等 の教育	セクシュ アル・ハ ラメント	ドメスティ ック・バイ オレンス	男 女 が 共 同 す 家 事 ・ 子 育 て	慣 習 行 直 の し	地域活動 へのチャ レンジ	コミュニ ケーション 能力	リーダ ーシッ ク能力
全体	548	9.3	2.0	4.7	21.0	16.1	15.3	18.2	8.9
女性	339	8.8	2.4	5.6	23.6	16.5	11.8	19.2	5.6
20～29歳	37	8.1	8.1	13.5	40.5	16.2	2.7	21.6	8.1
30～39歳	71	2.8	2.8	4.2	39.4	15.5	8.5	15.5	5.6
40～49歳	62	6.5	3.2	9.7	19.4	11.3	4.8	21.0	11.3
50～59歳	87	8.0	1.1	3.4	12.6	16.1	18.4	26.4	2.3
60～69歳	66	16.7	0.0	3.0	18.2	21.2	19.7	13.6	4.5
70歳以上	16	18.8	0.0	0.0	12.5	25.0	6.3	6.3	0.0
男性	203	9.9	1.5	3.4	16.7	15.8	20.7	17.2	14.8
20～29歳	18	0.0	0.0	0.0	16.7	5.6	16.7	33.3	44.4
30～39歳	37	8.1	0.0	5.4	29.7	8.1	10.8	24.3	32.4
40～49歳	32	9.4	3.1	0.0	9.4	21.9	15.6	18.8	15.6
50～59歳	48	8.3	2.1	4.2	12.5	12.5	22.9	4.2	2.1
60～69歳	49	14.3	2.0	4.1	12.2	16.3	18.4	14.3	8.2
70歳以上	18	16.7	0.0	5.6	27.8	38.9	55.6	27.8	0.0
	合計	就職活動 ノウハウ	起業ノウ ハウ	仕事に関 わる技術 習得・資 格取得	生活技術 の習得	そ の 他	特 に な い	無 回 答	
全体	548	6.0	7.5	24.8	18.2	1.5	31.6	2.4	
女性	339	6.5	4.7	26.3	21.2	0.6	31.0	2.1	
20～29歳	37	8.1	5.4	27.0	13.5	0.0	32.4	0.0	
30～39歳	71	11.3	5.6	33.8	14.1	2.8	22.5	0.0	
40～49歳	62	6.5	3.2	41.9	27.4	0.0	27.4	3.2	
50～59歳	87	4.6	6.9	23.0	20.7	0.0	29.9	2.3	
60～69歳	66	4.5	3.0	12.1	30.3	0.0	40.9	1.5	
70歳以上	16	0.0	0.0	6.3	12.5	0.0	43.8	12.5	
男性	203	4.9	11.8	22.7	13.3	2.5	33.5	2.0	
20～29歳	18	11.1	33.3	22.2	22.2	11.1	16.7	0.0	
30～39歳	37	8.1	16.2	35.1	13.5	0.0	29.7	2.7	
40～49歳	32	0.0	18.8	18.8	12.5	3.1	28.1	0.0	
50～59歳	48	4.2	6.3	22.9	8.3	0.0	50.0	0.0	
60～69歳	49	6.1	4.1	18.4	18.4	0.0	34.7	4.1	
70歳以上	18	0.0	5.6	16.7	5.6	11.1	16.7	5.6	

(3) 市が男女共同参画のまちづくりとして重点的に取り組むべきこと（問 32）

「男女の職業と家庭生活の両立支援」がもっとも高く望まれ、特に 30 歳代、40 歳代の女性にその傾向が顕著である

「女性の自立の学習の場や機会充実」は女性の希望が高く、「関連学習・講座の充実、情報の提供」は男性の希望が高い

「生涯を通じた心身の健康づくり」は男女が同割合で高く望んでいる

市が男女共同参画のまちづくりとして重点的に取り組むべきことでは、「男女の職業と家庭生活の両立支援」56.8%がもっとも高く、続いて「生涯を通じた心身の健康づくり」34.5%、「相談体制の周知・活用」23.2%、「男性の意識変革の場や機会を充実」21.0%、「関連学習・講座の充実、情報提供」20.8%となっている。

性別でみると、「女性の自立の学習の場や機会充実」（女性25.4%、男性9.9%）、「男女の職業と家庭生活の両立支援」（同60.5%、同51.7%）などは、女性が15.5ポイント、8.8ポイント男性を上回っている。逆に、「関連学習・講座の充実、情報の提供」（男性25.1%、女性18.3%）は男性の割合が6.8ポイント高い。「生涯を通じた心身の健康づくり」（女性34.2%、男性36.0%）は男女が同割合で高くなっている。

性別・年齢別にみると、「男女の職業と家庭生活の両立支援」が、「30～39歳女性」と「40～49歳女性」でそれぞれ78.9%（全体割合より+22.1ポイント）、72.6%（同+15.8ポイント）と高く、「生涯を通じた心身の健康づくり」は、「60～69歳女性」「70歳以上女性」「40～49歳男性」でそれぞれ45.5%（同+11.0ポイント）、56.3%（同+21.8ポイント）、50.0%（同+15.5ポイント）と高くなっている。「男性の意識変革の場や機会を充実」は「20～29歳男性」と「40～49歳男性」で高く、それぞれ33.3%（同+12.3ポイント）、34.4%（同+13.4ポイント）である。「関連学習・講座の充実、情報提供」は「70歳以上女性」と「70歳以上男性」で高く、それぞれ37.5%（同+16.7ポイント）、50.0%（同+29.2ポイント）である。「団体の育成・支援と相互交流を促進」は「70歳以上男性」で27.8%（同+13.2ポイント）と高く、「活動や相談ができる拠点を整備」は「70歳以上女性」で31.3%（同+18.3ポイント）と高い。「町会等の組織に女性役員を増やす」は、「60～69歳女性」と「70歳以上男性」で高く、それぞれ19.7%（同+10.0ポイント）、22.2%（同+12.5ポイント）である。

図 6 7 市が男女共同参画のまちづくりとして重点的に取り組むべきこと（3つ選択）

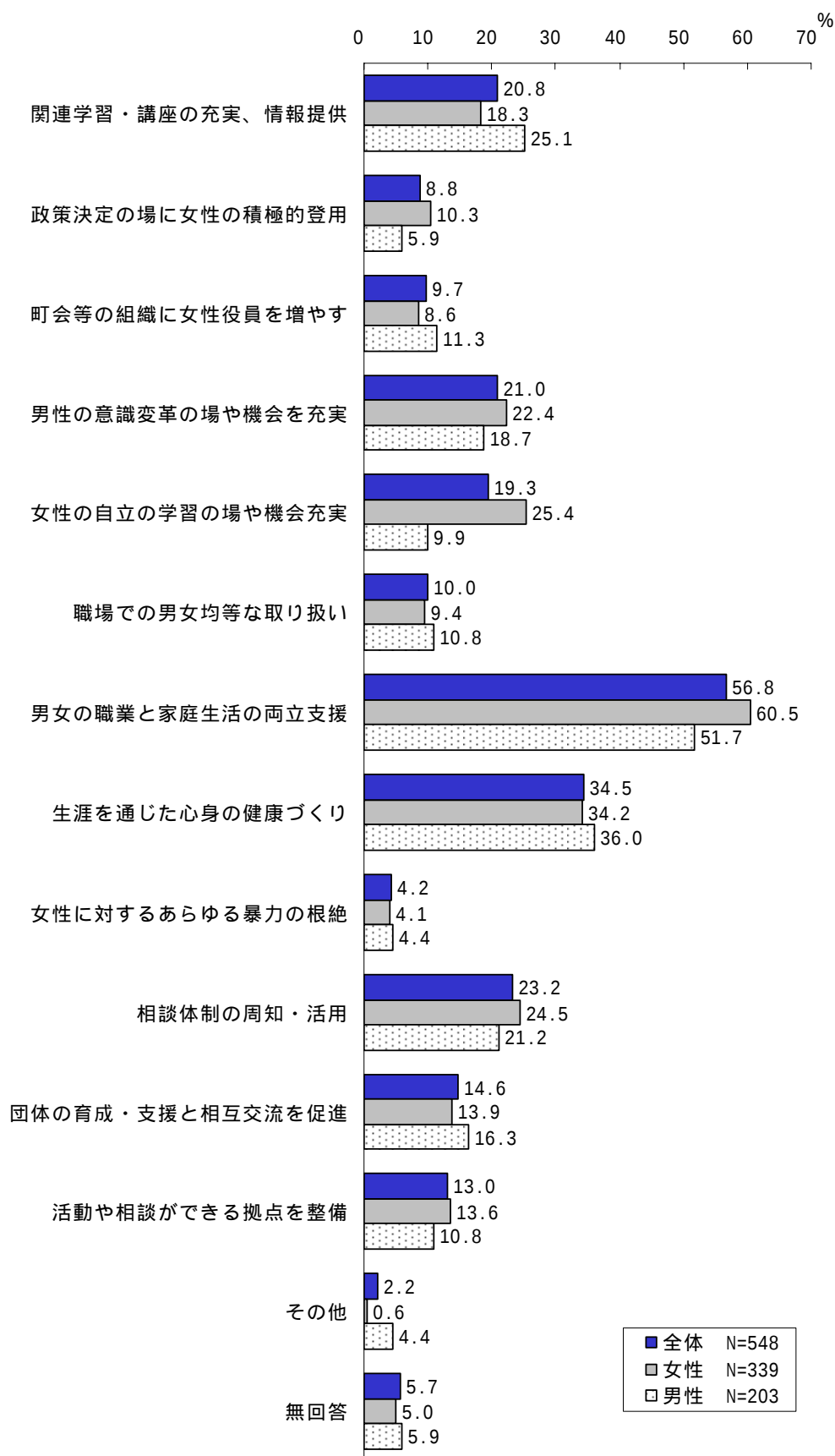


表 4 2 性別・年齢別にみた、市が男女共同参画のまちづくりとして重点的に取り組むべきこと

	合計	関連学習・講座の充実、情報提供	政策決定の場に女性の積極的登用	町会等の組織に女性役員を増やす	男性の意識変革の場や機会を充実	女性の自立の学習の場や機会充実	職場での男女均等な取り扱い	男女の職業と家庭生活の両立支援
全体	548	20.8	8.8	9.7	21.0	19.3	10.0	56.8
女性	339	18.3	10.3	8.6	22.4	25.4	9.4	60.5
20～29歳	37	21.6	5.4	0.0	8.1	16.2	10.8	56.8
30～39歳	71	12.7	8.5	0.0	23.9	32.4	12.7	78.9
40～49歳	62	6.5	8.1	6.5	25.8	21.0	12.9	72.6
50～59歳	87	19.5	12.6	11.5	24.1	20.7	4.6	52.9
60～69歳	66	27.3	13.6	19.7	28.8	33.3	9.1	48.5
70歳以上	16	37.5	12.5	12.5	0.0	25.0	6.3	31.3
男性	203	25.1	5.9	11.3	18.7	9.9	10.8	51.7
20～29歳	18	5.6	5.6	11.1	33.3	22.2	11.1	55.6
30～39歳	37	27.0	2.7	0.0	16.2	16.2	10.8	59.5
40～49歳	32	25.0	6.3	9.4	34.4	9.4	9.4	46.9
50～59歳	48	20.8	4.2	14.6	8.3	4.2	8.3	62.5
60～69歳	49	26.5	10.2	14.3	14.3	8.2	14.3	40.8
70歳以上	18	50.0	5.6	22.2	22.2	5.6	11.1	44.4
	合計	生涯を通じた心身の健康づくり	女性に対するあらゆる暴力の根絶	相談体制の周知活用	団体の育成・支援と相互交流を促進	活動や相談ができる拠点整備	その他	無回答
全体	548	34.5	4.2	23.2	14.6	13.0	2.2	5.7
女性	339	34.2	4.1	24.5	13.9	13.6	0.6	5.0
20～29歳	37	40.5	13.5	24.3	13.5	16.2	0.0	2.7
30～39歳	71	23.9	4.2	31.0	12.7	8.5	0.0	4.2
40～49歳	62	12.9	8.1	24.2	16.1	17.7	1.6	3.2
50～59歳	87	42.5	1.1	23.0	14.9	12.6	1.1	4.6
60～69歳	66	45.5	0.0	19.7	12.1	10.6	0.0	7.6
70歳以上	16	56.3	0.0	25.0	12.5	31.3	0.0	12.5
男性	203	36.0	4.4	21.2	16.3	10.8	4.4	5.9
20～29歳	18	44.4	5.6	22.2	5.6	5.6	5.6	5.6
30～39歳	37	27.0	8.1	21.6	10.8	13.5	2.7	5.4
40～49歳	32	50.0	3.1	6.3	12.5	6.3	3.1	3.1
50～59歳	48	29.2	2.1	25.0	18.8	6.3	6.3	6.3
60～69歳	49	34.7	4.1	26.5	20.4	14.3	2.0	8.2
70歳以上	18	44.4	5.6	22.2	27.8	22.2	5.6	5.6

8 自由回答

最後に、北名古屋市に対して、「男女平等」や「男女共同参画」に関するご意見・ご要望がございましたら、自由にお書きください。

表 4 3 回答者の属性

	自営・自由業	正規雇用	非正規雇用	専業主婦・主夫	学生	無職	無回答	総計
女性小計	6	9	10	14	2	4	6	51
20～29 歳		1	1	2	2			6
30～39 歳	1	4	2	3		1	1	12
40～49 歳	1	2	2	1			1	7
50～59 歳	4	1	3	4		1	2	15
60～69 歳		1	2	4		2	2	11
男性小計	6	10	2	0	2	0	3	23
20～29 歳		1			2			3
30～39 歳		3						3
40～49 歳	2	4						6
50～59 歳	1	2						3
60～69 歳	3		2				2	7
70 歳以上							1	1
性別・年齢無記入	1	1	1	0	0	0	0	3
総計	13	20	13	14	4	4	9	77

自由回答は 77 件ありましたが、紙面の都合上、「男女平等」や「男女共同参画」に関する意見のみを掲載しています。

1 男女の人権の尊重、男女平等、男女共同参画について

- 「男女平等」は大事なことだと思いますが、子供の人数がだんだん少なくなり、子育てが大変な時代にはいつてきています。どうか子供がのびのびと育ち社会生活がしっかり出来る社会であるよう願います。
(女性、50～59 歳、自営・自由業)
- どうせ何も変わらない。
(女性、20～29 歳、専業主婦)
- もちろん男女平等であるべきです。でも人間、男と女とは違いがあります。全部何事も平等とはいかないと思い

ます。違っていいと思う、男女の特長を生かすべきです。○らしさは違ったものです。

(女性、50～59 歳)

- 広報などで、さまざまな活動がされている事は知っています。まだ「男女平等」がどんな形のものが、自身わからないこともあって、積極的にかかわってはいませんが、自治体がこの事に取り組み続けることが何より重要だと思います。乳児を抱っこしながら、幼児の相手をしながらで、乱筆乱文、おまけに誤字だらけですみません。
(女性、30～39 歳、専業主婦)
- 今だけ、自分だけ、自分達だけけ

ればよいという考え方がどうも多い気がします。今の自分はこれしか出来ないからと未来の事を未来の北名古屋のあり方を考えず、子供達の借金を増やす事を、何かやらねばということで事業を増やすのはどうかと思います。家庭が貧しくなれば、女性が社会に出て「男女平等」・「男女共同参画」をとんでもなくどこかで無理が生じます。住みやすい北名古屋市が一番です。市役所の皆さま頑張ってください。未来の子供達が住みやすい市になるために。失礼しました。

(男性、40～49歳、自営・自由業)

- 今公報などで提供されているメニューで充分です。参加できることも増やしたいと思っています。それにはまず健康第一。力仕事などは男の人たよりです。平等といいながらも男と女の違いがあるように、男性と女性の特徴をふまえて、男性、女性と組んでたづさわることがよいと思います。

(女性、60～69歳、非正規雇用)

- 私は男の仕事、女の仕事があってもいいと思っています。何もかも平等はむずかしいと思います。それよりも行政の壁がまだ高く感じます。北名古屋市民なのに疎外感を感じています。何事も機械になっていく中、役所の窓口だけでも人とのつながり、あたたかさを感じたいです。

(女性、30～39歳、専業主婦)

- 社会に出ていないのでわからないが、今の女性は恵まれていると思います。

(女性、40～49歳、専業主婦)

- 職場で男女共同参画のセミナーがあったが、あまりにも女性からの視点で考えすぎているのでうんざりしました。「男女平等」を訴えるのはよいが、そもそもの根本の部分をもっと考える方がよいと思います。男性だったらこう考えとか女性だから...という枠にはめてアンケートを取るのではなく「人として～」でよいのではないのでしょうか？それから男女共同参画に取り組んでいる代表者の人達が

あまりにもかたよった思想に思えてなりません。大体的場合女性代表者が多いのにも疑問を感じます。本来なら男女で1組となるべきではないですか？女性の権利を主張するばかりの代表者が多すぎるように思います。それから別件ですが、こういったアンケートの返送方法ですが、切手同封なのは無作為アンケートなのにどうなんでしょうか？返送されない人もいると思うので、一応を税金で市は運営されているので1500人に対してこの方法はあまりよくないと思います。この用紙も白い紙でよくないですか？

(女性、30～39歳、非正規雇用)

- 単に全てを平等にするのではなく、男女それぞれの特性を活かした上で心地良い生活が出来る環境や制度が整えられていくことが大切だと考える。

(男性、30～39歳、正規雇用)

- 男女お互いを尊重する教育が必要だと思います。

(男性、40～49歳、正規雇用)

- 男女のいろいろなことは自然に出来るのであまり騒がなくても良い。歴史が解決してくれる。

(男性、70～79歳)

- 男女平等といっても、同等ということではないと思っています。男性と女性の役割が違うと思います。少しは男性の仕事も、女性の仕事も出来るといいかな。

(女性、60～69歳、専業主婦)

- 男女平等の概念を全て10対10であるとは大きな間違いであるとの理解も大いに必要。

(男性、60～69歳、非正規雇用)

- 北名古屋市に対して男女平等とはどういう事か知識が無いので勉強します。

(自営・自由業)

- 北名古屋市はまだ考え方が保守的で、男女間差別以外にも古くからの土地の方と新しく越してきた人に対する見方が違うと思います。今の住宅に

住んで10年以上たちますが、組長など地域参加も一生懸命してきましたが、今だに名前も覚えてもらえない状態です。

(男性、30~39歳、正規雇用)

- 老若男女を問わず人権は尊重すべきだと思います。私も一市民として協力をさせていただきます。

(男性、60~69歳、自営・自由業)

2 家庭・学校・地域における男女平等教育、共同参画の推進

- 「男女平等」「男女共同参画」行事の一つとして20歳以上の私達がコミュニケーションを取れる場を作っていただきたい。意識改革をしなければ何も始まらないように思う。

(女性、30~39歳、正規雇用)

- 「男女平等」というより、女性が年齢を気にせず、社会で活躍でき、子どもを安心して預けられる市の整備や学校行事、地域活動に参加するにおいて引け目無く働ける職場などのあり方をもっと考えて欲しい。以前、保育士として働いていたが、その傍ら保育園に預けていて不便を感じた事がある。もっと市として考えなければいけないことは山ほどあると思う。

(女性、40~49歳、非正規雇用)

- お互い男女が意識を持つ事と男女共同参画がどの位推進出来たかという結果があらわれる事を望みます。若い人はかなり意識があると思いますが50代以上の年代の人にその意識が少ないように感じます。お互い助け合い、より良い社会を築いていけば(家庭も)今のいじめ、少子化等の問題ももっとよくなると思う。皆が「人ゴト」ではなく真剣に取り組んでいけたらね。よい「北名古屋市」よい地域になると思います。「北名古屋市」に住んでいる「誇り」を持てる地域にしたいですね!!

(非正規雇用)

- すべての人が一人一人認めあえる社会になれば良いと思う。まずは市

役所の中から変えてお手本を見せてください。期待しております。

(女性、50~59歳、非正規雇用)

- 家庭で気軽に出来るこのようなアンケートなどから少しずつこのような取り組みについて知ってもらうことが参加の第一歩になると思うので、どんどん進めて市民の意識を集めるといいと思う。

(女性、30~39歳、正規雇用)

- 主人は封建的な考え方の残る農家の長男なので男尊女卑の考えを直そうと思っても私の力ではどうしようもないので諦めています。そのかわり3人の息子にはお父さんのようにはならないでと言いつつ、料理などの家事を教えています。少子化についてですが新婚の頃慣れない名古屋の地ではからずも男の子3人に恵まれてしまったのでノイローゼに近い状態になりました。近所の人には警戒心が強く何も話せず、宗教活動に来た人に聞いてもらって救われた時期がありました。出来れば保健婦さんが戸別訪問して下さり子供の身体的なことだけではなく母親の精神的な面でも相談に乗ってもらえると有難かったと思います。

(女性、50~59歳)

- 男女共同参画について 地域ごとに情報を得るのが必要です。講座を聞く事が出来ればと思う。

(女性、60~69歳)

- 男女平等、共同参画以前に人間として、一人の人格の意味、教育をもっと進めた方が良いのではないかな? 男女の身体的、生理的な部分は同一視できないため無理がある。子育ても終わり現状を知らないが、例えば学校の名簿等、男女を混ぜるメリットは? 平等の言葉のみが先行している感があると思います。日本の文化を大事にして進めて頂きたいです。

(女性、50~59歳、正規雇用)

- 男女平等...すべての仕事で出来ないと思う。男は男らしく、女は女らしく互いに助け合い、男は食事の用意を

したりしたらみっともない、なんと言
うことは間違い。私は三人子供がいま
すが早く帰った子供が洗濯物を入れ
たりお米を洗ったり手伝ってもらっ
ていました。夏休み大好きでしたよ。
3人力を合わせて食事の用意もして
くれましたから。ちなみに(女男女)
(女性、60~69歳、非正規雇用)

- 男女平等といっても、男らしさ、女らしさそれぞれの役目があるはずで
す。家庭においてもきちんと柱を作り、
それによって家族が支えられ成り立
っていくべきだと思います。今の世の
中、家の中心が無くなった為、変にゆ
がんできていると思います。これから
とても心配です。

(男性、50~59歳、正規雇用)

- 男女平等や、男女共同参画等、生活
していく上での女性や、弱者にとって
は、とても良い運動ではありますが、
これを呼びかける運動をして、はたし
てどれだけの人間が理解し、協調的な
気持ちを持ってくれるのでしょうか。
現にまだまだ女性や能力のある人で
も、弱い立場で働かざるを得ません。
家庭における男女平等は難しい問題
ですね。私事では、主人がよく協力し
てくれます。この問題がスムーズにな
れば、子供達の悲しい事件などもな
くならないのでしょうか。今はとに
かく小さな子供や小学生の子供達の
悲しい事件を無くすようおねがい
いたします。

(女性、60~69歳、正規雇用)

3 男女共同参画の視点に立った制 度・慣行の見直し

- 男女は明らかに体のつくりも役割
が違います。完全な男女平等というの
はどう考えても無理だと思う。ただ男
の人も女の人を理解しようとする(ま
たその逆も)姿勢を行政側が促せば
ベストだと思う。もともと男尊女卑の
風習があったからなかなか意識改革
は出来ないが、ゆっくり少しずつ変え
ていくしかない。

(男性、20~29歳、学生)

4 政策・方針決定への男女共同参画

- 男女平等といえば役場内の人間は
男性職員が圧倒的に多いのではあり
ませんか？どの課に行っても男性に
相手をしてもらいますから…。もっと
男・女性を同じ人数で。

(女性、20~29歳、非正規雇用)

- 北名古屋市という市になりました
以上、市という項目に負けない、男女
それぞれ十分に能力、体力を発揮でき
る住みよい市にみんな力合わせ、愛の
行き届いた町にして頂きたい。

(女性、60~69歳)

- 北名古屋市の議員の女性も少ない。
それで、平等を考える事は不可能に近
い。もっと生活に役に立つ様な子育て
支援等の予算を捻出する事がほん
との意味での男女平等の近道になる
のではないかと思う。順番を逆にして
も意味がない。

(男性、40~49歳、正規雇用)

5 地域活動・学習活動への男女共同参 画と交流の推進

- 最近少しずつ男性もボランティア
や地域活動に参加してくれますが、北
名古屋市のこれからは元気な高齢者
の男性がどんどん参加としてくれる
事にかかっていると思う！！

(女性、60~69歳、その他の無職)

- 仕事に就いている人はなかなかス
ポーツその他の活動に平日参加する
事が出来ないでいます。生涯学習など、
夜間クラス又は土曜日、日曜クラスを
充実してほしいと思います。

(女性、50~59歳、自営・自由業)

- 市の中で考えたことはありません
でしたが、ゴミ出し、祭り等の行事で
やはり男女の役割が分担されている
ように思います。「平等」といっても、
良い面、悪い面があると思うので、そ
れよりも地域で人々が協力し合える
機会を増やすことが、一番よいのでは

ないかと思います。

(女性、20～29歳、学生)

- 夫婦あるいは恋人同士がどちらか一方が参加すれば足りるのではなく一緒に参加できる企画があるといい。
(男性、40～49歳、自営・自由業)

6 就業機会の確保の促進と就業環境の改善

- ・女性が社会進出するための就職支援、活動。・介護、子育ての支援のニーズが益々高くなるため、そういった活動プロジェクトを積極的に取り組んで欲しい。

(正規雇用)

- IT業界で働いています。プログラマーをしています。IT業界は圧倒的に男性の多い業界ですが、比較的「男女平等」だと思います。ただ、「男女平等」であるがために、結婚後の離職率は高いです。

(女性、20～29歳、正規雇用)

- まずは、警察などと協力して、市の防犯対策をすべきです。暗くなると出歩くことが出来ないとすれば、残業のある仕事に就けませんし、仕事に限られます。又、留守番を安心してさせられないとすれば、母親が仕事に復帰する機会を逃します。

(女性、30～39歳、その他の無職)

- まず聞きたいのが、こういう男女の人権尊重をうたっている北名古屋市役所自身がどうなのかということですね。職場として北名古屋市を考えたとき、北名古屋市役所では女性だけが掃除をしたり机をふいたりお茶を入れたり、そういう悪しき習慣をちゃんと無しにしていますか？男性職員が育児休暇を取ったり(とりやすい環境を作ったり)していますか？男性職員が家事を分担するよう啓発していますか？市民に男女の人権尊重や男女共同参画社会というのなら、まず北名古屋市役所及び職員がどれだけ実行しているか、実行する努力をしているかを見せていただきたい。人に言うだけ

ではダメですよ。どうしているのかちゃんと教えて下さい。

(女性、30～39歳、正規雇用)

- 市として、男女平等や男女共同参画を推進する事業を継続していただきたいと思います。特に女性が収入の安定した職業、やりがいのある職業に就けるように職業訓練の場を設けてはいかがでしょうか。

(女性、50～59歳、専業主婦)

- 女性も働くことが出来る環境にある方は(末子3才以上、介護その他ない人)是非働いてほしい。将来働くことが出来なくなる時期が男、女とも必ず来るのだから！！60才で定年を迎えたが、働いている頃思った事は税金を払っていない方はよく体育館その他を利用して元気に遊んでいる...と。一生懸命額に汗して正社員で働いていると町内の公共施設は活用する暇がない...自分の老後の準備の為。

(女性、60～69歳、専業主婦)

7 男女の職業生活と家庭生活の両立支援

- あまりにも男女平等を言い、男性が軽視され、子供も恐い者がいない事に依り荒れた性格の子が育ち、今では大人が手を焼き、我が子でさえまともに育てられない。我慢とか譲り合い、思いやりに欠ける。又、犯罪を犯した者の罪の軽さから次々と事件があり、安心した社会には成らない。もちろん男性も子育ては当たり前、家事をするのも自分の老後に役立つ。とにかく自分の事は自分で働いて家族を養うのも全ては社会が平和で明るい為終身雇用が無い為に働けない男性が沢山居て遊んでます。女性が進出するのも良い事ですが治安が悪くなる一方です。男女共同参画の意味は解りますが、ゲーム、インターネット、夜中～朝まで人に会わない、引きこもり、コミュニケーション取れる訳がない。せめて0時を過ぎたら自動で切れる様に。遊び人ばかり作ってどうする。もっと皆さ

んを働かせてやって下さい。

(女性、50～59歳、自営・自由業)

- 人間の赤ちゃんは動物の赤ちゃんと違って、育てる事は大変な仕事です。今の若いお母さんは、子育てのストレスを解消する為に、パートに行く人も多いようです。若いお父さんは積極的に子育てに参加してる人も多いと思いますが、もっともっと男性の方も子育てに参加できるような男女共同参画を市の方で考えて頂けたらと思います。若いお母さんの子育てのストレスを解消する為に、幼児虐待を防ぐ為に是非実行して下さい。

(女性、50～59歳、自営・自由業)

- 男女共同参画とは、男女平等は必要ですが、結婚し子供が出来たら、私は仕事より子供を大切に育て、それからでも勤めることは遅くないと思います。主婦になったら家事を守る。夫は仕事を優先し、「心のゆとり」があったら手伝ってもらいたい。「心のゆとり」とは、精神的身体のよい時だと思います。

(女性、60～69歳、専業主婦)

- 男女平等問題は職場では大事だと思いますが、男性が家事を手伝うとか女性が子供を産んでからも働ける環境づくりは必要ないと思います。男女が結婚した以上、男性は男性の本来すべき事をしっかりとし、女性は男性が働きやすい環境づくりをするのが本来の妻としての務めであると思います。子供が産まれて女性が働くのはおかしいと思います。赤ちゃんは母親の愛情を肌で感じ、安心感を覚え、生きる楽しみ、愛される喜びを覚えるのではないのでしょうか？「子供は欲しいけど仕事はしたい」等、2つを手に入れようとするからおかしいことになると思います。人間欲ばってはいけません。仕事がしたいなら子供が成長してからすればいいと思います。それが出来ないのなら子供は諦める方が良いでしょう。そうでないと犠牲になるのは弱者である子供だからです。全てが男女平等になるのはおかしい。

(女性、30～39歳、正規雇用)

- 父親の子育て参加を！(母親に任せきり、無関心すぎる)

(男性、40～49歳、正規雇用)

- 母親が外で働こうと思うと子供のことがネックになります。病気になれば仕事を休んで看病をするのは母親です。どうしても仕事が休めない時など病気の子供でも預かってくれる施設があると子供のことは気になりながらも仕事をこなすことができると思います。朝から晩まででなくてもいいと思います。現在仕事をしていてどうしても抜けられない時間(2、3時間)がある時があります。そんな時、子供を見ていてもらえると助かります。

(女性、40～49歳)

- 老人の福祉などに力が入っている事はとてもいい事だと思いますが、小さな子供達の為の(生後間もない赤ちゃんを預ける所が無い)事も考えて欲しいと思います。私もそれで仕事を辞めざるを得なくなった事がありますので…。よろしくお願いします。

(女性、40～49歳、非正規雇用)

8 生涯を通じた心身の健康づくりへの支援

- これからの「男女平等」や「男女共同参画」も非常に大切なことだと思いますが、現在の小さなお子さんがこれからの日本又は「北名古屋市」を創っていく訳ですが、今、「食」のあり方とか、教育のあり方とかで心と身体の乱れたお子さんが多いとか…。まず何をやるにしても心と身体が健康じゃないと健全な者は生まれません。まず大人からの食育だと思います。是非こちら優先で力を入れていただきたいと思います。

(男性、60～69歳、自営・自由業)

9 新しい生活の創造

- 団塊の世代です。男はいくらエラソ

ぶっても女性より早く逝ってしまう。これからは「女性の時代」になる。女性が全ての面で活動しやすい環境や条件づくりが必要になる。市になったメリットをそこにつぎ込んでほしい。男はサポートする立場で良い。平等でなく「公平」な展開を望む。

(男性、50～59歳、正規雇用)

10 その他

- この結果は市の公報にて必ず集計結果を早めに公表して下さい。

(女性、40～49歳、正規雇用)

- この様なことをしても、なかなか反映されず現実是非常に難しい。

(女性、40～49歳、正規雇用)

- 頑張ってください。

(女性、30～39歳、非正規雇用)

- 今現在自分には必要ないが、常に何か活動をしていて欲しい。もし、自分が頼りたい、参加したいという状況になったとき、その時点で何も活動していなければ何も出来ない。又はその企画があることによって、何かするきっかけであって欲しい。

(男性、20～29歳、正規雇用)

- 男女平等、男女共同参画の活動をしているのはこのアンケートで知りました。アンケートまでとってやるからにはこれからの動きに期待していいのですね。手の余った職員の仕事つなぎ(アンケートの収集などの仕事のこと)にならないようおねがいします。切手代も税金です。無駄にならないようお願いします。

(女性、40～49歳、自営・自由業)

- 男女平等などは北名古屋市役所内で取り上げても無駄である。市民にとって利益があるわけではない(税金の無駄使い)。もっと他に推進すべき事があるのではないのでしょうか。地域社会の活動に対し負担が大きすぎます。特に旧農家の場合自治体等に参加し大役をしたりするのはおかしいのではないのでしょうか。

(男性、40～49歳、正規雇用)

- 北名古屋市がどの程度この件に関して力を入れているのか全く知らないで、きちんと答えられたかわかりませんが、私の意見が参考になったのなら幸いです。

(女性、20～29歳、学生)